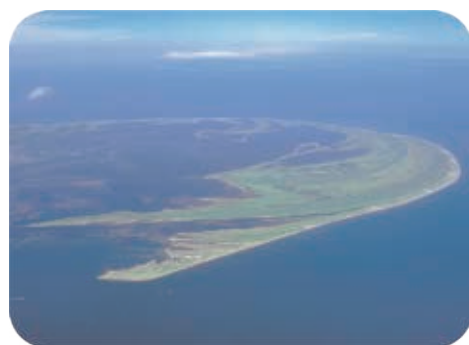


別海町文化財保存活用地域計画



令和6年10月

別海町教育委員会

別海町文化財保存活用地域計画

令和 6 年 10 月
別海町教育委員会

目 次

序章	1
1. 計画作成の背景と目的	
2. 地域計画の位置づけ	
3. 計画期間	
4. 計画の進捗管理と自己評価の方法	
5. 計画作成の体制と経過	
6. 「別海のおたから」の定義	
第1章 別海町の概要	11
1. 自然的・地理的環境	
2. 社会的状況	
3. 歴史的背景	
第2章 「別海のおたから」の把握調査	26
1. 既往調査の概要	
2. 今回の計画で実施した調査	
3. 把握調査のまとめ	
第3章 「別海のおたから」の概要	29
1. 指定等文化財の概要	
2. 関連する制度（日本遺産・北海道遺産・別海町歴史文化遺産）	
3. 未指定文化財の概要	
第4章 別海町の歴史文化の特性	39
1. ネイチャー・ヒストリー～マンモスが闊歩した平たい大地と日本最大の砂嘴 ^{さしづ}	
2. サーモン・ヒストリー～大切に受け継がれてきた持続可能な水産業	
3. ミルク・ヒストリー～見棄てられかけた凶作の原野から乳流る大地への甦り ^{よみがえ}	
4. ロード・ヒストリー～生命を繋いだ水・馬・鉄・車・空の路 ^{いのちみち}	
5. アイヌ・ヒストリー～『加賀家文書』が紐解く「ペッカイエ」の地	
6. ミリタリー・ヒストリー～広漠の地に築かれた北の護り	
7. ローカル・ヒストリー～でっかい村の小さな集落に生きる人々の記憶とくらし	

第5章	べつせかい遺産と文化財保存活用区域	54
1.	べつせかい遺産の目的と考え方	
2.	べつせかい遺産の設定	
	べつせかい遺産1 【でっかい町が育んだでっかいおたから】	
	べつせかい遺産2 【べつかいの海・川・大地が育んだサーモン＆ミルク】	
3.	文化財保存活用区域の目的と考え方	
4.	文化財保存活用区域の設定	
	区域1 【奥行地区】	
第6章	「別海のおたから」の保存・活用に関する目標	64
1.	「別海のおたから」の保存・活用に関する目標	
2.	総合的な方針	
第7章	「別海のおたから」の保存・活用に関する課題・方針	65
1.	「別海のおたから」の保存・活用に関する課題	
2.	「別海のおたから」の保存・活用に関する方針	
3.	べつせかい遺産の保存・活用に関する課題・方針	
4.	文化財保存活用区域の保存・活用に関する課題・方針	
第8章	「別海のおたから」の保存・活用に関する措置	71
1.	「別海のおたから」の保存・活用に関する措置	
2.	課題・方針・措置の対応関係	
3.	べつせかい遺産の保存・活用に関する措置	
4.	文化財保存活用区域の保存・活用に関する措置	
第9章	「別海のおたから」の保存・活用の推進体制	79
1.	計画の推進体制	
参考資料		81
	【別海のおたからリスト】	

序章

1. 計画作成の背景と目的

別海町には史跡旧奥行白駒通所^{おくゆきうす}や天然記念物西別湿原ヤチカンバ群落、北海道遺産の根釧台地の格子状防風林、ラムサール条約登録湿地の野付半島・野付湾、野付風蓮道立自然公園^{ふうれん}など、町の歴史と環境を物語る貴重な文化財が多く残され、先人たちが守り、今日まで受け継いできました。

しかし、人口減少や少子高齢化の進行、ライフスタイルの多様化など、地域のつながりが希薄化する中で、今後そうした文化財をどのように守り、継承していくかが大きな課題になっています。

町では、平成 19(2007) 年に文化庁が提唱した「歴史文化基本構想」の考え方にに基づき、平成 20(2008) 年から「別海町歴史文化遺産（みんなのたからものリスト）認定事業」に着手し、文化財の幅広い掘り起こしと評価・認定、情報発信に努めてきました。

また、令和 2(2020) 年 6 月に、根室市・標津町^{ねむろ しべつ}・羅臼町^{らうす}とともにとりまとめた『「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～』が日本遺産に認定されたのを受けて、町内に点在する関連資産を「文化財群」として活用・発信する動きがはじまり、地域のブランド化につながっています。

町では、このような文化財を活かしたまちづくりの取り組みをさらに進めるため、別海町文化財保存活用地域計画（以下、「地域計画」）を作成することとしました。

地域計画では、町民に文化財を知ってもらい、町の歴史文化にもっと親しみを持ってもらうことで、町の魅力を再認識し、誇りを持って住み続けられるまちづくりを目指します。また、史跡旧奥行白駒通所をはじめとする文化財の魅力を顕在化させるための環境整備等を推進し、町の歴史文化を内外に発信する拠点として活用することで、交流人口を増やし、地域の活性化につなげます。これらの取り組みは、平成 31(2019) 年策定の「第 7 次別海町総合計画」に定めた、町の目指すべき将来像『人がつながり 未来につながる 海と大地に夢があふれるまち ～いつも心に広がるふるさと べつかい～』の実現に寄与します。

2. 地域計画の位置づけ

本計画は、文化財保護法第 183 条の 3 に基づく、別海町の歴史文化の保存・活用に関する総合的な計画となります。様々な関係者の参画を得ながら検討し、文化庁長官の認定を受けることで、地域社会総がかりによる文化財を活かしたまちづくりを進めるためのマスタープランであり、アクションプランであると位置づけます。

作成にあたっては、令和 2(2020) 年 8 月に策定された「北海道文化財保存活用大綱」を勘案しつつ、平成 31(2019) 年 3 月に策定した「第 7 次別海町総合計画」に即し、各種関連計画との連携や整合性も図ります。

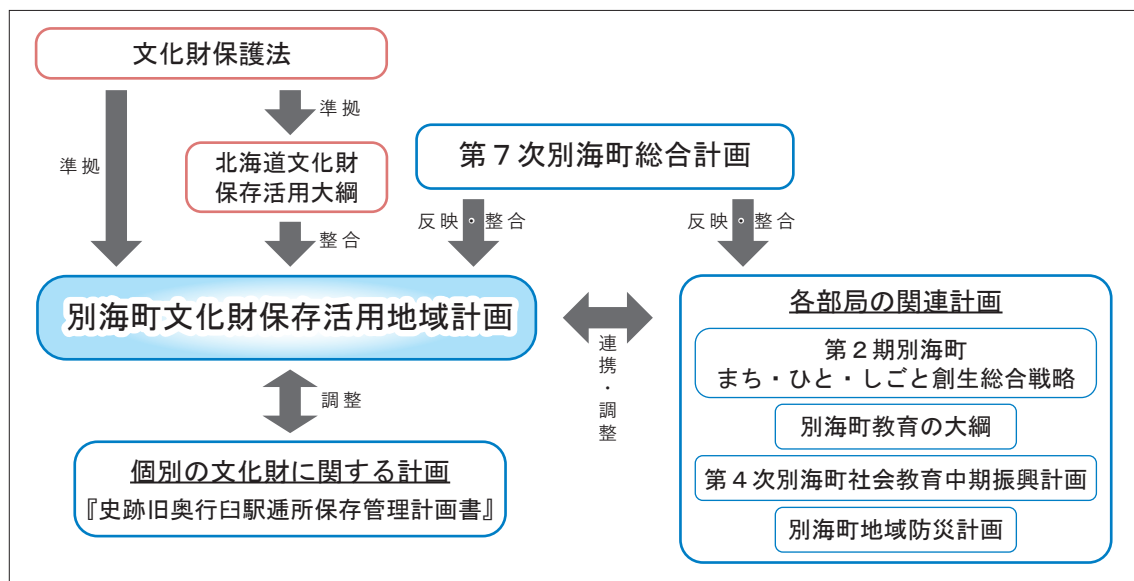


図1 地域計画の位置づけ

(1) 上位計画の概要

第7次別海町総合計画

【策定：平成31(2019)年3月／令和2(2020)年3月改訂】

【計画期間：平成31(2019)年度～令和10(2028)年度までの10年間】

「第7次別海町総合計画」（以下、「総合計画」）は、まちづくりの方向性と必要な施策をわかりやすく示し、将来に向けて計画的なまちづくりを進めるための指針となる計画です。総合計画では、町内に所在する文化財等を含めた地域資源を生かしたまちづくりを目標としており、「観光の振興」や「地域文化の振興」、「住民参画のまちづくり」を施策の大綱として定めています。また「地域文化の振興」の主要施策「②文化財の保存と活用」において、「地域計画の策定」を挙げています。本計画に関わる主な内容について以下に抜粋します。

目指すべき将来像

人がつながり 未来につながる 海と大地に夢があふれるまち
～いつも心に広がるふるさと ベつかい～

将来像を実現するための基本目標（6つの施策の柱）

1. 地域資源を生かした産業のまち／海と大地が輝く 豊かで活力ある産業づくり
2. 人と自然が調和するまち／緑と水がきらめく 調和のとれた環境づくり
3. 共に支え合い、健やかに暮らせる福祉のまち／未来を拓く 誰もがやさしい地域づくり
4. 生涯を通じて人と文化を育む学びのまち／地域ぐるみで 心豊かなまちづくり
5. 安全に、安心して住み続けられるまち／うるおいのある 快適な居住環境づくり
6. 参画と協働で共につくるまち／ともに築く「べつかい」のまちづくり

関連する主要施策

1. 地域資源を生かした産業のまち／④観光の振興

①観光・交流資源の充実・活用	観光施設の整備・充実を進めるとともに、観光ガイドとの連携による体験型観光を推進します。また、地域資源を活用した地域団体との協働によるイベントを開催します。
②新しい観光メニューの確立	自然・歴史・文化・人々とふれあう体験型観光の拡充に向けて、農泊、打瀬網漁の見学、フットパスなどを第一次産業と連携するとともに、氷下待ち網漁見学の商品化や旧奥行臼駅通所等の歴史文化に触れる観光メニューの創出に取り組みます。
③PR活動の推進	本町の観光についてPRするため、SNSを活用したPRを推進します。その他パンフレットやポスターの作成、ホームページの充実、メディア取材の受入及び情報の発信を推進します。
④広域観光体制の充実	地域一体となった観光振興施策の推進に向けて、東北海道や根室管内において広域的な連携のもと、観光ルートづくりや国内外へのプロモーションを実施します。

4. 生涯を通じて人と文化を育む学びのまち／④地域文化の振興

①芸術・文化施設の整備充実	生涯学習センターの建設を進め、その運用方法について検討します。郷土資料館は、本館及び豊原分館の整備方針を検討し、老朽化に対処します。
②文化財の保存と活用	奥行地区の交通遺跡を地域の活性化に活用するため、史跡公園構想を具体化して整備計画を策定し、整備を進めます。ヤチカンバ群落地については、国の天然記念物指定を目指して調査を進め、保護対策を講じます。また、町内各地の文化財を調査し、「文化財保存活用地域計画」を策定します。
③芸術・文化団体、指導者の育成	別海町文化連盟に対する指導・助言等により、町内で活動する芸術・文化団体の育成と支援を行うとともに、町民文化の普及振興に貢献した方の表彰を行います。
④芸術文化イベント等の充実	各団体等と連携し、地区ごとや町全体の文化祭を開催するほか、落語会、講演会やコンサートの開催など、身近で芸術・文化に触れる機会を拡充します。また、近隣市町で開催される芸術文化講演等の鑑賞支援を行います。

6. 参画と協働で共につくるまち／①住民参画のまちづくり

①「別海町協働基本指針」に基づく住民参画の推進	町民の意見や発想を取り入れた行政の推進に向けて、町民の多種多様な課題やニーズの把握と、その解決に向けた協働のまちづくりを推進します。また、協働の機会を創出するとともに、「生涯学習センター」内に協働を実践する諸団体の活動の場を設けます。
②広報・広聴活動の充実	広報紙やホームページの内容充実を図るほか、町民や各種団体への意見聴取、各種アンケートの実施により、町民の意見・アイデアを積極的に取り入れる協働のまちづくりを推進します。
③情報公開の推進	「情報公開条例」及び「個人情報保護条例」に基づき円滑な情報公開を推進し、町政運営の透明性を確保します。また、広報やホームページを通して情報の公開請求の方法や情報請求の対象となる情報を周知し、町民にとって分かりやすく運営します。

(2) 主な関連計画の概要

①第2期別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略

【策 定：令和2(2020)年3月】

【計画期間：令和2(2020)年度～令和6(2024)年度までの5年間】

「第2期別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、人口減少問題を発端とする就業者や担い手の確保、少子化に伴う児童・生徒数の減少による学級数の維持、高齢化による要支援・要介護者の増加などへの対応を主な目的として策定しました。前述の総合計画との整合を図り、活力ある産業の維持・発展、少子高齢化や人口減少に対応するための4つの基本目標を設定しています。「基本目標Ⅱ．魅力あふれる地域資源・地域特性を活かした新しいひとの流れを創造する」の施策「(ア)地域資源を活かした交流人口拡大の取組」において、「奥行地区文化財保存整備事業」や「ヤチカンバ群落地保護事業」を挙げています。本計画に関わる主な内容は以下のとおりです。

基本目標と施策

基本目標Ⅰ

町の産業を担う次世代へ安定した雇用を創出し、これを支える人材を育て活かす

- (ア)新規就業者・担い手支援
- (イ)産業の競争力強化
- (ウ)若者人材の育成と定着の取組
- (エ)地域と連携した特色ある教育の推進

基本目標Ⅱ

魅力あふれる地域資源・地域特性を活かした新しいひとの流れを創造する

- (ア)地域資源を活かした交流人口拡大の取組
- (イ)ふるさと納税を活用した関係人口拡大の取組
- (ウ)移住促進を図る移住体験施設の整備

基本目標Ⅲ

結婚・出産・子育ての希望をかなえる、誰もが活躍できる地域社会をつくる

- (ア)結婚・出産・子育ての切れ目のない支援
- (イ)高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進や住みよいまちづくりの推進

基本目標Ⅳ

時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守る

- (ア)安心な暮らしの確保
- (イ)市街地の活性化
- (ウ)効率的・複合的な施設整備と地域活性化
- (エ)スポーツ・健康まちづくりの推進
- (オ)環境・エネルギー先進自治体の形成

②別海町教育の大綱

【策 定：平成 31(2019) 年 3 月】

【計画期間：平成 31(2019) 年度～令和 5 (2023) 年度までの 5 年間】

「別海町教育の大綱」は、別海町の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策を定めたものです。前述の総合計画を基本に、地域ぐるみで次代を担う人材を育成し、誰もが共に学ぶことができる、人と地域を豊かにする生涯学習のまちづくりを基本目標としています。「施策（４）地域文化の振興」において、「奥行臼史跡公園整備事業」や「西別湿原ヤチカンバ群落地保護事業」を挙げています。本計画に関わる主な内容は以下のとおりです。

基本目標と施策、主要な事業	
基本目標	
生涯を通じて人と文化を育む学びのまち 地域ぐるみで心豊かなまちづくり	
施策	主要な事業
(１) 社会教育の推進	・総合文化祭、地域文化祭事業
(２) 学校教育の充実	・芸術文化鑑賞事業
(３) 青少年の健全育成	・文化団体活動支援事業
(４) <u>地域文化の振興</u>	・郷土資料館整備方針の策定事業
(５) スポーツの振興	・郷土資料館が実施する各種事業
(６) 交流時代への対応	・奥行臼史跡公園整備事業
	・西別湿原ヤチカンバ群落地保護事業

③第４次別海町社会教育中期振興計画

【策 定：平成 31(2019) 年 3 月】

【計画期間：平成 31(2019) 年度～令和 10(2028) 年度までの 10 年間】

「第４次別海町社会教育中期振興計画」は、別海町社会教育事業に係る指針や取組について定めたものです。町民が、本町の歴史や文化に愛着をもち魅力を認識し、産業を理解し、学校・家庭・地域をつなぎ、共に学び支えあい、力を合わせて地域の活性化とまちづくりにつなげていくことを目指し、「郷土に学び ^{ふるさと}つながり まちを創る」を基本推進目標としています。「推進目標 1- 2- 2. 町の歴史的遺産や文化財を適切に保存するとともに、歴史・自然・文化財を学ぶ機会の充実を図り、郷土愛を育成します」において、「別海町歴史文化遺産認定・公開活用事業」や「文化財保存活用地域計画・歴史的風致維持向上計画策定事業」、「郷土資料の収集・整理・保存・調査研究」を挙げています。また「推進目標 3- 4- 1. 郷土資料館の整備・充実を図り、文化遺産（郷土資料）を継承します」において、「郷土資料館の整備」を挙げ、老朽化した郷土資料館・豊原分館の整備方針を策定し、計画的な整備を進めるとしています。

④別海町地域防災計画

【策 定：昭和 40(1965) 年 4 月／令和 4 (2022) 年 3 月一部改正】

【計画期間：平成 31(2019) 年度～令和 10(2028) 年度までの 10 年間】

「別海町地域防災計画」は、災害対策基本法第 42 条の規定に基づき、別海町の地域に係る防災に関し、予防、応急及び復旧等の災害対策について取りまとめたものです。人命を最重視し、また財産等の経済的被害ができるだけ少なくなるよう、災害時の被害を最小化する「減災」の考え方を防災の基本方針としています。「第 5 章 災害応急対策実施計画」の「3 文化財の保全対策」において、文化財の応急措置と保全措置を以下のように定めています。

(1) 応急措置

- ア 文化財が被災した場合は、その管理者（又は所有者）は、直ちに所管の消防署に通報するとともに被害の拡大防止に努める。
- イ 管理者（又は所有者）は、被害状況を速やかに調査し、その結果を町指定の文化財にあつては町教育委員会へ、国、道指定の文化財にあつては道教育委員会へ報告する。
- ウ 関係機関は、被災文化財の被害拡大を防止するため協力して応急措置を実施する。

(2) 保全措置

文化財の所有者及び管理者は防災責任者を定めるなどの責任体制を確立し保全に努める。また、搬出可能な文化財については、性質、保全の知識を有する搬出責任者を定め、災害時に当たっての保全に努める。

⑤史跡旧奥行臼駅通所保存管理計画

【策 定：平成 26(2014) 年 3 月】

「史跡旧奥行臼駅通所保存管理計画」は、我が国にとって貴重な歴史文化遺産である旧奥行臼駅通所を、将来にわたって適切かつ計画的に保存管理し、整備活用を図ることを目的として策定されました。旧奥行臼駅通所は、駅通全盛時代である大正期の景観をよく残している貴重な駅通所であり、北海道開拓の具体的な歴史を物語る極めて重要な歴史遺産です。保存管理計画の策定後、「別海町史跡旧奥行臼駅通所整備検討委員会」を設け、「奥行臼史跡公園整備事業」の推進に取り組んでいます。史跡の保存管理及び整備の基本方針は、次のとおりです。

5-3-1 保存管理の基本方針

- ①来訪者が安心して見学できるよう駅通所駅舎を早急に修理する。
- ②史跡を適切に保護し次世代に伝えていくために必要な調査研究に努める。
- ③史跡の確実な保存を図るため、指定地及び周辺地の公有地化を進める。
- ④町民に親しまれ広く活用されるよう、史跡周辺を含む史跡公園として一体的な保存管理を図る。

5-3-2 整備の基本方針

1. 史跡の恒久的保存のため、なによりもまず駅通所駅舎の根本修理を最優先に行い、今後も公開していくことができるようにする。
2. 文書資料や調度品類の調査研究を進め、適切に保存するとともに、来訪者の理解を深めるようなわかりやすい展示を行う。また、展示を固定化せず何度でも足を運んでもらえるような工夫のある展示を行う。
3. 調査研究に基づき、建物・旧道・景観などをできるだけ当時の形に復元する。復元の時代設定は、駅通所が設置された 1910 年から、駅通所が廃止される 1930 年までとする。

6-1-1-① 史跡公園整備の基本方針

1. 町民や来訪者が、自ら体感しながら歴史を学ぶことができる生涯学習の拠点とするとともに、文化的観光資源として活用できるような整備を行う。
2. 史跡旧奥行臼駅通所、旧国鉄奥行臼駅、旧村宮軌道跡を奥行臼史跡公園として一体的に整備し、別海町の交通史・開拓史全体のストーリーがわかるような展示を行う。

6-1-1-③ 「歴史まちづくり法」に基づく史跡公園の整備

史跡公園整備の核として、「エコミュージアム構想（町まるごと博物館構想）」を据える。エコミュージアムとは、町内にある様々な文化財を「展示物」とし、町全体を屋根のない野外博物館とみなして展開するまちづくりの取り組みである。

そして、将来的に史跡旧奥行臼駅通所を重点区域とした「歴史的風致維持向上計画」を策定し、史跡指定地外を含めた史跡公園整備を目指す。

3. 計画期間

令和 6(2024) 年度から令和 15(2033) 年度までの 10 年間を計画期間とします。総合計画（平成 31(2019) 年度～令和 10(2028) 年度）が次期計画に切り替わる令和 10(2028) 年度までを前期 5 年、令和 11(2029) 年度から後期 5 年とします。その間に進捗評価や課題の抽出・評価を行い、次の場合は、文化財保護法第 183 条 4 の規定に基づき、文化庁長官へ計画変更の認定を申請します。

- ① 計画期間の変更
- ② 域内にある文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更
- ③ 地域計画の実施に支障が生じるおそれのある変更

上記以外の軽微な変更を行った場合は、北海道及び文化庁へ報告します。

4. 計画の進捗管理と自己評価の方法

地域計画に示した各種事業の進捗管理については、別海町文化財保護審議会において内容を評価・点検し、事業推進を図ります。

なお、総合計画の最終年次にあたる令和10(2028)年度に、前期5か年の事業成果を検証した自己評価を実施し、その結果を踏まえて後期5か年の事業内容を見直します。

年度	令和 6 (2024)	令和 7 (2025)	令和 8 (2026)	令和 9 (2027)	令和 10 (2028)	令和 11 (2029)	令和 12 (2030)	令和 13 (2031)	令和 14 (2032)	令和 15 (2033)
総合計画	第 7 次別海町総合計画					次期 総合計画				
地域計画	別海町文化財保存活用地域計画					別海町文化財保存活用地域計画				
	← 前期					後期 →				

図2 計画の進捗管理（地域計画と総合計画）

5. 計画作成の体制と経過

計画作成にあたっては、地域住民、学識経験者、文化財行政関係者で構成する「別海町文化財保存活用地域計画策定協議会」を設置し、文化庁の指導・助言、北海道教育委員会の助言を受けながら検討を行いました。

また、地域計画の内容や協議結果について随時、別海町文化財保護審議会へ報告し、意見聴取するとともに、庁内の関係部局とも協議を重ね、計画内容を整理しました。

表1 計画作成の経過

年月日	概要
令和4年 (2022)	4月21日 別海町文化財保存活用地域計画策定協議会の設置
	8月24日 第1回別海町文化財保存活用地域計画策定協議会の開催
	12月7日 第2回別海町文化財保存活用地域計画策定協議会の開催
令和5年 (2023)	1月10日～1月27日 町民等アンケート調査の実施
	2月22日 第3回別海町文化財保存活用地域計画策定協議会の開催
	2月23日 第1回町民ワークショップの実施

年月日		概要
令和5年 (2023)	6月13日	別海町文化財保護審議会の開催
	7月24日	第4回別海町文化財保存活用地域計画策定協議会の開催
	9月16日	第2回町民ワークショップの実施
	11月29日	第5回別海町文化財保存活用地域計画策定協議会の開催
令和6年 (2024)	2月19日 ～3月19日	パブリックコメントの実施（町民意見：0件）
	2月22日	第6回別海町文化財保存活用地域計画策定協議会の開催
	3月26日	別海町文化財保護審議会の開催（計画の承認）

表2 別海町文化財保存活用地域計画策定協議会の委員名簿

氏名	所属等	備考
石渡 一人	別海町郷土資料館 副館長（学芸員）	
大堀 清勝	別海町文化財保護審議会 委員	
川村 俊也	別海町文化財保護審議会 会長	会長
久保田 郁也	別海町地域おこし協力隊員・別海町観光協会事務局員	
小泉 久美子	別海町文化財保護審議会 委員	
西山 徳明	北海道大学観光学高等研究センター教授	副会長
福原 義親	別海町文化財保護審議会 委員	

表3 別海町文化財保護審議会の委員名簿

氏名	地区	所属等	備考
大堀 清勝	別海鶴舞町		
金澤 裕司	本別海		副会長
川村 俊也	別海常盤町		会長
小泉 久美子	別海常盤町		
永野 英俊	尾岱沼	自営業	
福原 義親	本別海	漁業	
宮坂 隆男	西春別		

6. 「別海のおたから」の定義

令和5(2023)年3月（最終変更）に示された「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画作成等に関する指針」（以下、「文化庁指針」）で、文化財とは「文化財保護法第2条に規定される有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群の6つの類型をいう（なお、この中には国や地方公共団体に指定等されたものだけでなく、何ら行政による保護措置が図られていない、いわゆる未指定文化財も含まれる）。また、法に規定される土地に埋蔵されている文化財（埋蔵文化財）や文化財を次世代へ継承する上で欠かせない文化財の材料製作・修理等の伝統的な保存技

術についても、幅広く対象とすることが有効である。さらに、国民娯楽など、必ずしも文化財に該当するとは言えないものであっても、各地域にとって重要であり、次世代に継承していくべきと考えられる文化的所産については、これを幅広く捉え、文化財と同等に取り扱う視点も有効である。」とされています。

上記を踏まえ、本計画では指定等の有無にかかわらず、別海町の歴史・文化・自然を含めた全ての文化財を「別海のおたから」と命名し、町独自の呼称として用います。

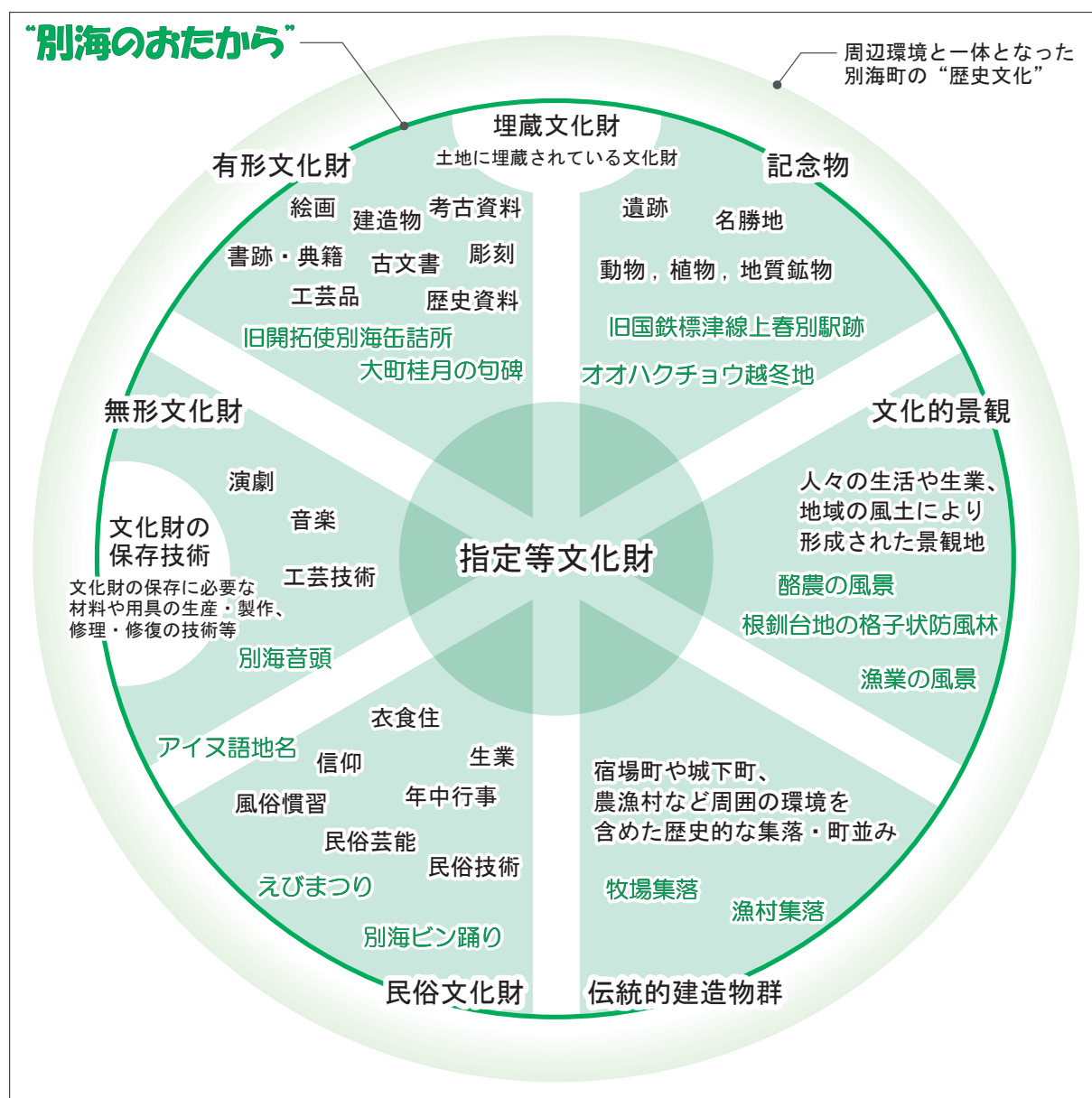


図3 「別海のおたから」の定義

第1章 別海町の概要

1. 自然的・地理的環境

(1) 地形・地質

別海町は、北海道の東部、根室振興局管内の中央に位置し、根室市、標津町、中標津町、しべちや標茶町、あつけし厚岸町、はまなか浜中町の6市町と接しています。

全国の市町村で10番目の1,319.63 km²（東西61.4km、南北44.3km）という面積を誇り、その8割以上が林野や農地という緑豊かな町です。



図4 別海町の地形・水系

別海町の地形は、次のような経過をたどって形成されました。

更新世中期（約50～12.5万年前）に、それまで海であった別海町周辺が屈斜路火山などの噴火や、山地から供給された土砂で埋まり、現在の中標津～根室までが陸地化しました。

完新世（約1万年前以降）に入っても、^{ましゅう}摩周カルデラの噴火などが続き、現在の西から東へ緩やかに傾斜する地形が形作られていきました。

行政区域（別海町域）

野付風蓮道立自然公園

国道

0 40km

北海道らしい広大な牧野には北海道遺産『根釧台地の格子状防風林』(p.33 で詳述)が展開する一方、野付風蓮道立自然公園に含まれる根室海峡沿岸部にも、北海道遺産の『野付半島と打瀬舟』の景観が広がり、冬季には水平線や四角い太陽が観察されるなど、多様な自然条件に富んでいます。

- 12 -

町の西部に広がる根釧台地から東に向かって多くの河川が流れ、北部の^{しゅんべつ}春別川、^{とこたん}床丹川、^{にしべつ}西別川などの河川は根室海峡に、南部のヤウシュベツ川、風蓮川などの河川は風蓮湖に注いでいます。別海の市街地は、これら河川の河口付近と河岸段丘上に営まれた集落から発展してきました。

(2) 生態系

高い山がなく、西から東へと緩やかに傾斜する根釧台地は、原生林を切り開くことで豊かな牧野へと生まれ変わり、薪炭や木材として開拓者の生活を支えたナラは、町の木として大切に伝えられています。

摩周湖湧水群に源を発する清流の西別川をはじめとする多くの河川は大地を潤し、アイヌがカムイ・チュプ（神の魚）と呼んだ鮭の命を育み続けています。

海岸部の野付半島や^{おだいとう}尾岱沼・風蓮湖は、鳥獣保護区に指定されており、町の鳥であるオオハクチョウが羽を休め、冬には天然記念物のオオワシ・オジロワシが群がっている姿を見ることができます。

野付半島には、海水面変動に伴うトドワラ・ナラワラといった奇観もあり、初夏には町の花であるセンダイハギなどが一斉に開花します。



(野付半島、白鳥、センダイハギ／トドワラ、ヤウシュベツ川)

(3) 気候

東西に長い別海町は、大陸性の内陸型気候と海洋性気候の両方が見られます。

6月～8月に発生する海霧の影響もあり、最高気温が20度前後と低く、日照時間も少なくなっています。

冬季は日照時間が長く、最深積雪は1 m未満である事が多く、道内でも比較的降雪量の少ない地域です。

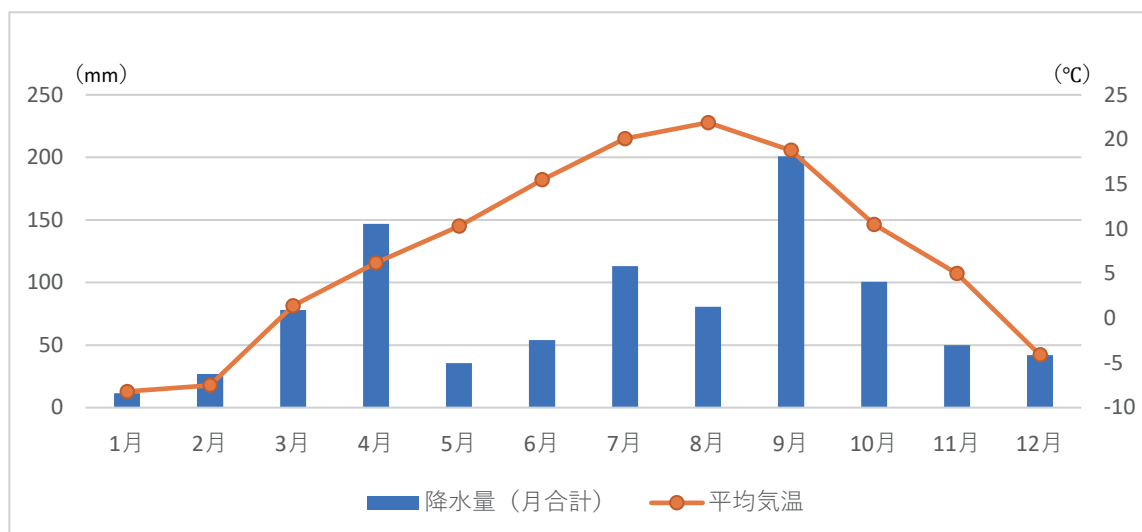


図6 令和5(2023)年の平均気温、降水量グラフ

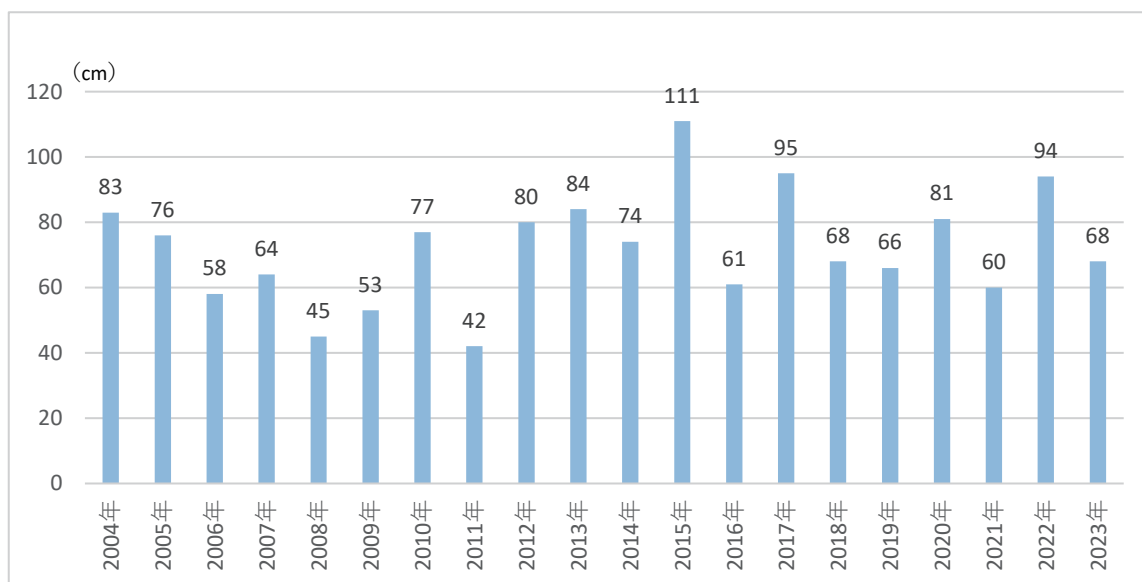


図7 過去20年間の最深積雪のグラフ

2. 社会的状況

(1) 人口動態

令和 6 (2024) 年 2 月末時点の人口は 14,156 人で、平成 12(2000) 年以降一貫して減少傾向にあり、国勢調査のデータを比較すると、平成 22(2010) 年の 15,855 人から令和 2 (2020) 年の 10 年間で 1,475 人 (9.3%) 減少しています。

また、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計 (2020 年国勢調査人口基準) によれば、2050 年の人口は 9,231 人まで減少すると見込まれています。

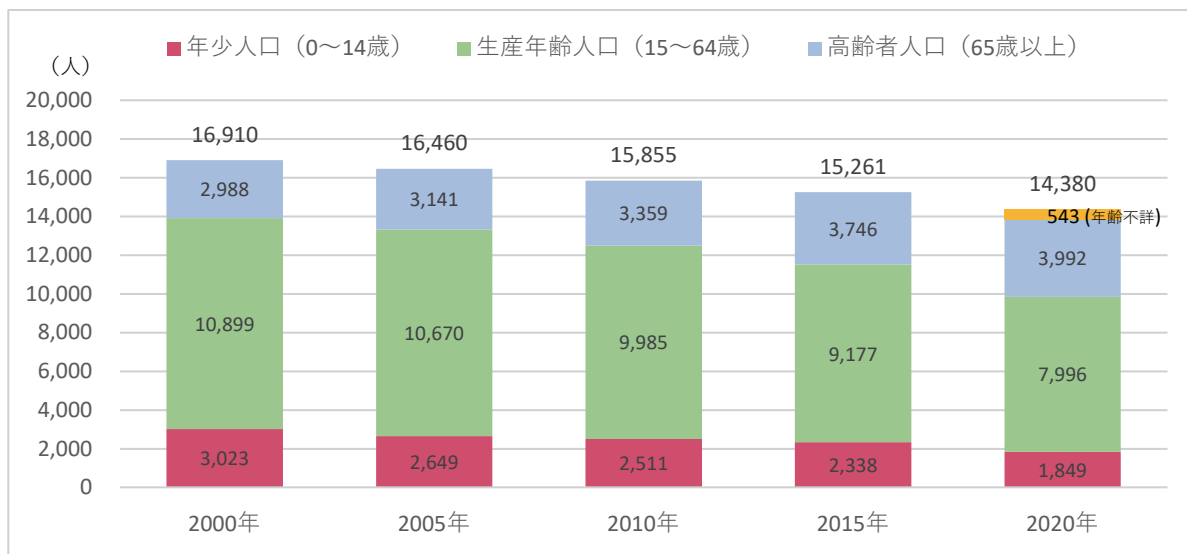


図 8 総人口の推移

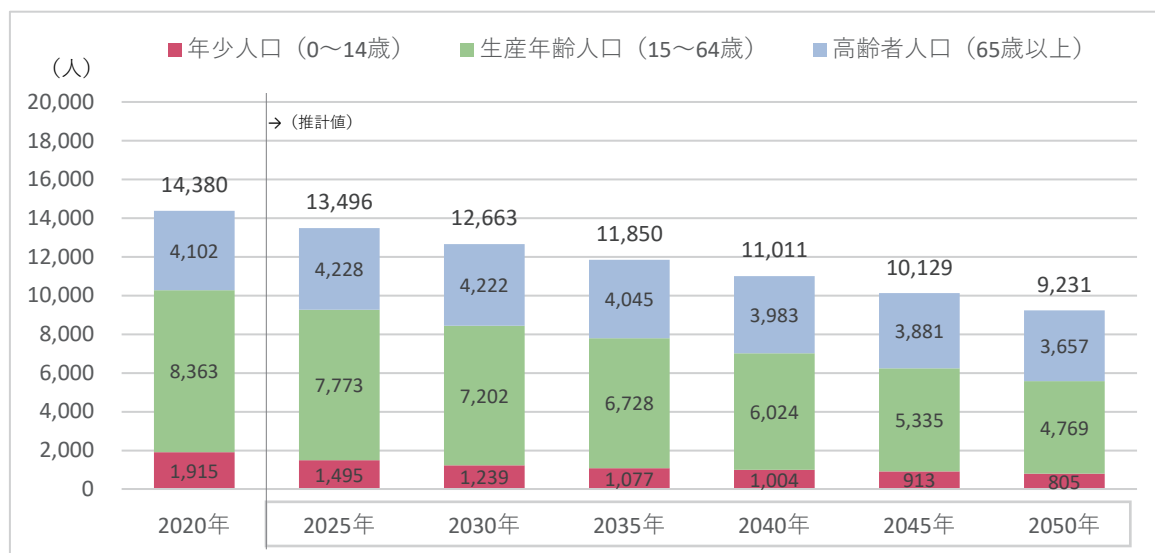


図 9 総人口の将来推計

(※国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 (令和 5 年推計)」のデータをもとに作成。総数には年齢「不詳」を含み、割合は年齢「不詳」を按分補正した人口。)

(2) 産業

町の主幹産業は農業と漁業ですが、令和 2 (2020) 年の産業別就業者数の割合は、第 3 次産業が 46.3%と最も高く、次いで第 1 次産業が 39.7%、第 2 次産業が 13.8%と、平成 12(2000) 年から各産業の割合に大きな変化はみられません。

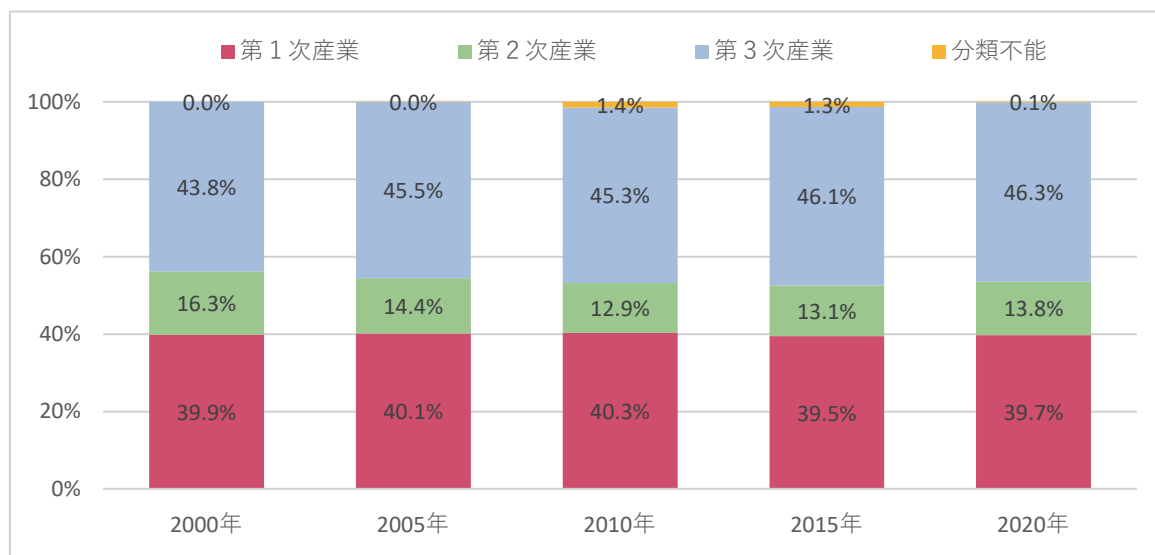


図 10 産業別就業者割合の推移

農家数は平成 25(2013) 年に 805 戸でしたが、令和 4 (2022) 年は 659 戸であり、10 年間で 146 戸 (18.1%) 減少しています。一方、酪農畜産における農業生産額は、平成 25(2013) 年から 10 年間で 1,051 千万円 (20.7%) 増加しています。

牛の飼養頭数は平成 25(2013) 年から減少が続いていましたが、平成 29(2017) 年には 110,258 頭と、前年の 108,456 頭から 1,802 頭 (1.7%) 増加しました。その後も増加を続け、令和 4 (2022) 年は 119,125 頭まで増加しました。

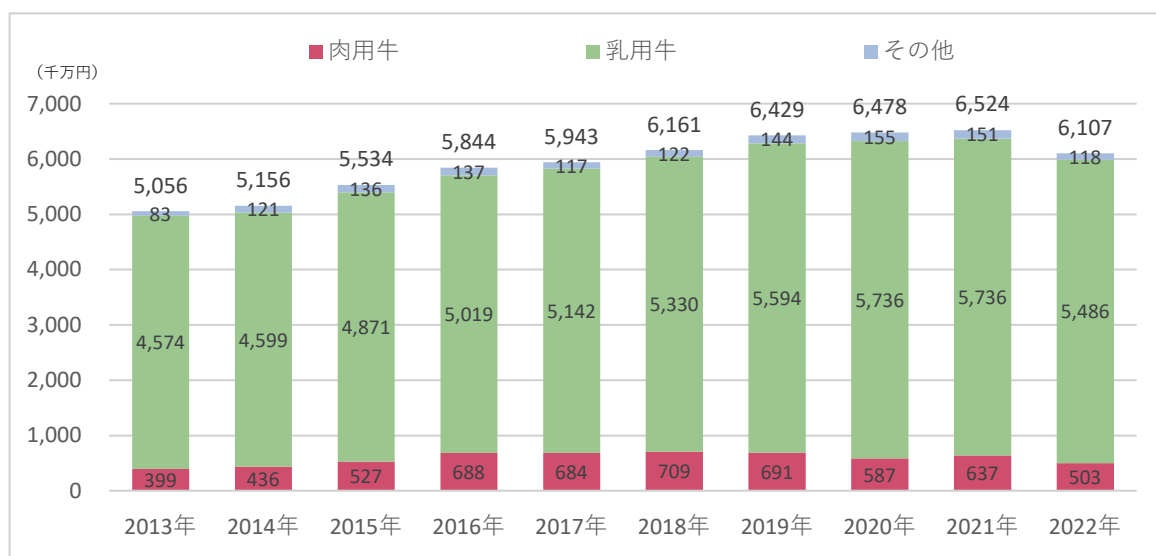


図 11 酪農畜産における農業生産額の推移

漁家数は平成 25(2013) 年に 361 戸、平成 29(2017) 年は 356 戸、令和 4 (2022) 年は 348 戸と、減少数は農家に比べ小さいですが徐々に減ってきています。

また、漁業生産額・生産量とも、平成 27(2015) 年をピークに減少に転じており、鮭の不漁が大きな要因となっています。

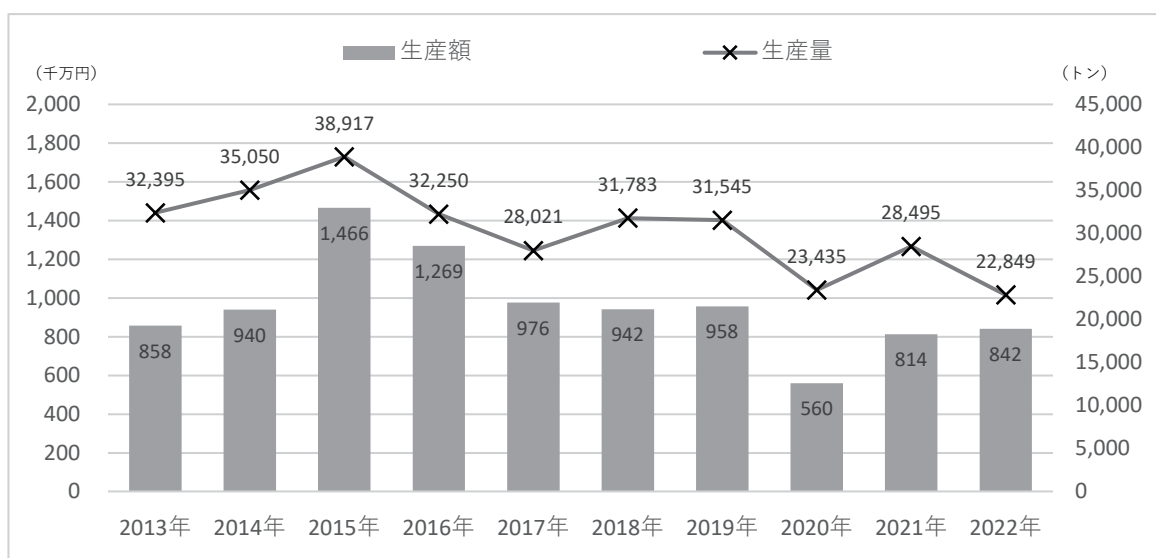


図 12 漁業生産額及び生産量の推移

(3) 観光

観光客入込数は増加傾向で、平成 28(2016) 年度から平成 31(2019) 年度までの期間で 37,843 人 (11.7%) 増加しました。しかし、令和 2 (2020) 年度は新型コロナウイルス感染症の影響で前年の半分に近い 16 万人まで落ち込みました。

宿泊者数も令和 2 (2020) 年度に前年よりも 13,000 人以上減少し、新型コロナウイルス感染症の影響が強く表れています。

コロナ禍が収まり始めた令和 4 (2022) 年度には、観光客入込数は 24 万人まで回復し、宿泊者数も徐々に増加しています。

来訪目的は野付半島・野付湾などの自然観察・動植物観察が多くを占めますが、旧奥行白駅通所をはじめとする交通遺産も人気が高いです。

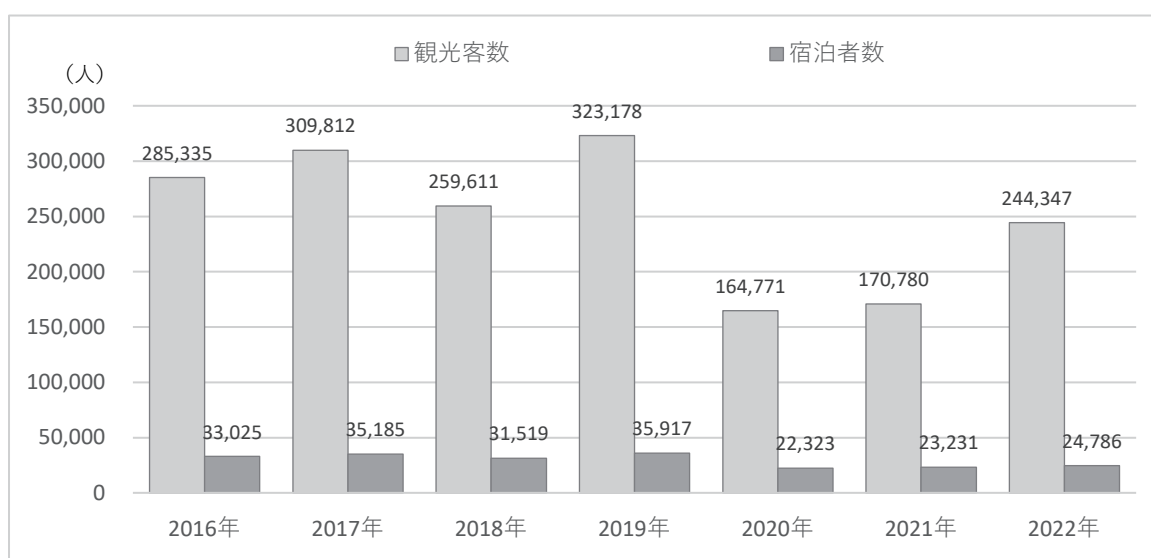


図 13 観光客入込数の推移

(4) 土地利用

令和 3 (2021) 年の地目別土地面積を見ると、牧草地が大部分である畑が 686.12 km²であり、町の面積の半分以上を占めています。その他原野が 190.55 km²、牧場が 36.16 km²、山林が 28.30 km²、宅地が 16.05 km²となっており、6 年前の平成 27(2015) 年と比べて畑や牧場の面積が減少しています。

表 4 地目別土地面積

年次	田	畑	宅地	鉱泉地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他
平成 27 年	—	693.12	15.39	0.00	0.35	34.17	40.46	188.41	14.05	158.19
令和 3 年	—	686.12	16.05	0.00	0.35	28.30	36.16	190.55	17.45	169.39

(※北海道統計書より) (単位: km²)

（５）交通

町内の道路網は、平成 30(2018) 年 8 月末時点で国道 3 路線、道道 19 路線、町道 727 路線により形成されています。地域高規格道路については、根室中標津道路（根室市～中標津空港）及び釧路中標津道路（釧路市～標津町）の整備が進められており、これらは整備ルートの一部が既に開通しています。町内の公共交通として、民間の路線バスや町営の地域生活バス（上風連線、上春別線、西春別線、尾岱沼線）が運行しています。また、別海市街地から車で約 30 分の距離に中標津空港があり、新千歳空港、丘珠空港、羽田空港との直行便が発着しています。

（６）社会教育施設

町内には、別海町の歴史や自然を学ぶことのできる社会教育施設として、別海町郷土資料館、別海町郷土資料館豊原分館、別海町郷土資料館附属加賀家文書館、別海町図書館、別海町鉄道記念館、野付半島ネイチャーセンターがあります。広い町内をカバーするため、海岸部、中央部、西部の 3 か所に社会教育施設の中核である公民館が設置され、高齢者学級などで町の歴史についての講座も行われています。また、総合スポーツセンターを中核とする社会体育施設も充実しています。

「郷土資料館」は昭和 56(1981) 年、町文化センター内に開設し、平成 5(1993) 年には図書館新築に伴い単独施設となりました。所蔵資料の分類整理作業や歴史・自然に関する調査研究が進められ、展示内容・教育普及活動の充実を図ってきました。平成 12(2000) 年には、別海町の近世の歴史を語る資料を保存・展示する「加賀家文書館」を附属施設として開館し、全道・全国的に注目を浴び、別海町が誇る最も特徴的な歴史的資料の施設となりました。

また、平成 21(2009) 年 3 月に廃校となった旧豊原小学校に、郷土資料館屋外 D 型ハウスなどに収蔵していた資料を平成 27(2015) 年までに移設・整備し、平成 28(2016) 年 4 月に「豊原分館」として開館しました。この分館は、豊原地区の根釧パイロットファーム開拓資料館運営委員会の協力により、別海町の酪農のはじまりを知る施設として活用されています。

現在の別海町図書館は平成 5(1993) 年に開設し、蔵書数は約 17 万冊です。郷土資料のコーナーがあり、別海町関係の文献リストである資料一覧も整備されています。

野付半島ネイチャーセンターは、日本最大の砂嘴である野付半島の自然や歴史について情報を提供する施設で、平成 14(2002) 年 5 月に開館しました。1 階フロアには情報コーナーや地元特産品コーナー、レストランがあり、2 階フロアには展望デッキとギャラリーがあります。館内にはネイチャーガイドが常駐しており、予約制のツアーも実施しています。

3. 歴史的背景

(1) 先史時代

町内で後期旧石器時代の細石刃が出土しており、野付半島沖でマンモスゾウの臼歯化石（町指定有形文化財『野付半島沖マンモスゾウ化石群』）が発見されていることから、これらの動物を追って陸続きとなっていたユーラシア大陸から移動してきた人々が存在していた可能性が高いです。

町内には 88 か所の埋蔵文化財包蔵地が確認されており、発掘調査された別海 2 遺跡では縄文時代早期から晩期、続縄文時代、オホーツク文化、擦文時代にいたる遺構や遺物が確認され、西春別 2 遺跡では縄文時代晩期の人骨 2 体が、尾岱沼 7 遺跡では続縄文時代の遺物、擦文時代の遺構と遺物が確認されています。

オホーツク文化は、西暦 3 世紀頃に樺太^{からふと}から南下してきた人たちが、北海道のオホーツク海沿岸から南千島に展開した海獣狩猟を主な生業とする文化です。10 世紀頃からオホーツク文化と擦文文化が接触・融合してトビニタイ文化が生まれ、やがて道東のアイヌ文化が形づくられました。



（野付半島沖マンモスゾウ化石群、尾岱沼 7 遺跡）

(2) 幕藩時代

アイヌ文化期のチャシ跡は 5 か所確認されており、床丹 1 チャシ跡で部分的な発掘調査が行われた結果、「8」字状の壕が巡らされていることがわかりました。

町内の地名が文献史料に現れるのは、寛文 9(1669) 年のシャクシャインの戦いを記録した『寛文拾年狄蜂起集書』(1670 年) の「へけるし」が最初で、松前藩が江戸幕府に奉納した『松前嶋郷帳』(1700 年) とその付図『元禄御国絵図』には「べけるゝ」と記され、いずれも別海に該当すると思われます。

松前藩による国後場所の開設は宝暦 4(1754) 年で、安永 3(1774) 年から別海町を含めた東部奥蝦夷地を最初に請負ったのが飛騨屋久兵衛でした。

飛騨屋は天明年間(1781～1789)から塩引鮭の生産を始めました。その後、西別川産

鮭は寛政 12(1800) 年から幕府に献上され、名声を得ました。

一方、飛騨屋のアイヌに対する非道な扱いがもとで、寛政元(1789)年に「クナシリ・メナシの戦い」が起こり、寛政 4(1792)年にはロシア使節ラクスマンが通商を求めバラサン沖やニシベツに來航するなど、この地域の政情は幕府にとって国防、外交上の大きな課題となっていました。

このため幕府は、寛政 11(1799)年に松前藩から東蝦夷地を没収し、陸路・海路の整備を急ぎ、野付ほか 7 か所に会所を建てました。

会所は後に運上屋(場所請負人の経営拠点)と同じ意味に用いられるようになり、人馬^{つぎたて}継立、宿泊、公用状の継送り^{つぎおく}などを取扱う施設は通行屋・止宿所・旅宿所(以下通行屋に統一)と呼ばれ、これを管理運営する番人(支配人)が配置されました。

野付半島の先端には、寛政 11(1799)年幕府が設置した野付通行屋跡遺跡や、野付番屋跡遺跡などがあり、野付通行屋跡遺跡からは、「蝦夷地野附止宿所」と「文久 2 年閏 8 月」の日付、「義之」という人名が墨で書かれた礫が出土しています。



(野付通行屋跡遺跡、野付通行屋跡遺跡出土の墨書礫)

野付通行屋は、国後島へ渡る重要な港として、また、根室、厚岸及び標津、目梨^{めなし}への交通の拠点としての位置を占め、番人のほかアイヌの人足が 8 人ほど詰めていました。通行屋 1 棟のほかに、附属施設として下宿所 1 棟、板蔵 3 棟、焚出小屋 1 棟、弁天社、御制札幌と井戸が設けられ、通行船 3 艘、通行荷物積船 3 艘、持符船 2 艘、磯船 1 艘が配備され、船賃や水主の賃銭も決まっていました。

天保年間(1831～1845)より、野付通行屋の番人となった加賀伝蔵(1804～1874)は克明な記録を残し、別海町指定有形文化財『加賀家文書』として別海町郷土資料館附属の加賀家文書館に収蔵・展示されています。

伝蔵はアイヌ語の通訳としても活躍し、松浦武四郎も彼を頼りにし、帰朝後も便りを交わしています。また、この地で農耕を試みた人物としても知られていますが、発掘調査でその痕跡が確認され、道内でも数少ない文献史料と現地遺構が残る貴重な遺跡となっています。

(3) 明治新体制以降の別海

明治に入り蝦夷地は北海道となり、11国86郡（現在の別海町は野付郡と根室郡の一部）が定められ、開拓使が設置されました。野付郡は、明治3(1870)年に東京府の管轄に入りましたが、わずか5か月で再び開拓使の下に置かれます。

明治12(1879)年、郡区町村編成法により別海外四カ村戸長役場(別海村・野付村・平糸村・西別村・走古丹村)が西別川河口の別海（現本別海）に設置されました。

漁業に従事する移住者が増え、明治11(1878)年に開拓使の缶詰工場が作られると、缶詰製造の技術を学ぶ「缶詰現術生徒」と呼ばれる人々が多く移住してきました。当初は「職夫」という名称で募集していましたが、「生徒」に変更したところ応募者が増加したと言われています。そうした移住者の増加に伴い、明治15(1882)年に小学校が設立されました。また床丹・春別・尾岱沼などの海岸部にも定住者が増え、市街地を形成していきます。

明治30(1897)年、大地積の無償貸与・付与を主旨とした「北海道国有未開地処分法（旧法）」が施行され、その翌年以降、別海外四カ村戸長役場管内の殖民地（原野）が解放されたことで、内陸部への入植も進みました。これにより唯一の産業であった海岸部の漁業に加え、内陸部で薪炭業、牧畜業、農耕業が興り、漁業と農業を基幹産業とする別海町発展への道が開かれました。

明治39(1906)年、和田村管轄の厚別村が別海外四カ村戸長役場に編入され、別海外五カ村戸長役場となり、現在の別海町の行政区域とほぼ同じ範囲となりました。この年の戸数は452戸、人口1,672人です。

明治41(1908)年、大地積処分に伴う弊害の是正等を目的に「北海道国有未開地処分法（新法）」が公布され、未開地の処分が貸付から売払に改められるとともに、自ら耕作する者には「特定地」を無償貸与・無償付与されることとなりました。旧法下では移住者の増加は緩やかな傾向を示しているに過ぎませんでしたが、新法により農耕移民の団体移住が広範に始まりました。

明治43(1910)年には北海道第1期拓殖計画が発足し、この計画に基づき大正13(1924)年に別海村を縦断する殖民軌道が敷設されます。



（大正初期の本別海、「別海村発祥の地」石碑）

大正 12(1923) 年、北海道二級町村制の施行により別海外五カ村戸長役場は廃止され、新たに別海村が誕生しました。

また、この年に起こった関東大震災を契機として北海道への補助移民制度が開始され、昭和 2(1927) 年の北海道第 2 期拓殖計画による許可移民制度につながっていきます。その特色は移民政策の間接保護から直接保護への転換であり、移住補助金が一戸あたり 350 円交付され、特定地の成功付与も続けられました。

許可移民が最も多かった根室地域では、移住者世話所が各地に設置されるとともに、駅通所も設置され、昭和 8(1933) 年の別海村人口は、昭和元 (1926) 年時点の実に 4 倍以上となる 1 万 2 千人を超え、増加分のほとんどが内陸部への移民でした。

昭和 8 (1933) 年、内陸部に省線標津線が開通し、村役場は昭和 9(1934) 年に海岸部の別海から駅の置かれた西別（現、別海市街）に移転しました。

第 2 期拓殖計画のもう一つの特色は穀菽農業から有畜農業への転換を図ったことでしたが、昭和初期に連続して別海村を襲った冷害凶作は、その転換を進める大きな契機となりました。移住して間もない村民は日常の食料にも窮し、飢餓と窮乏の実情は悲惨を極めました。村内各地で農民大会が開かれ、昭和 7(1932) 年 9 月には農民代表団が佐上北海道長官に直接陳情を行い、翌月には佐上長官が別海村などの実情を視察し、臨時的応急策として米の給付、救済土木工事が行われました。

さらに恒久的対策として昭和 8(1933) 年 1 月に「根釧原野主畜農業 5 カ年計画」が策定され、酪農への転換が図られました。

昭和 12(1937) 年に日中戦争が始まると、別海村においても軍部の施設が設置されていきます。昭和 13(1938) 年 10 月には東洋一と謳われた軍馬補充部が西春別地区に作られ、昭和 17(1942) 年からは計根^{けねべつ}別飛行場の建設が始まり、住民の強制的な転出も行われました。



(昭和初期の酪農風景、役場内にある佐上長官像)

太平洋戦争が終戦を迎えると、千島列島や満州からの引揚者や戦災者が多数入植し、戦後解放された広大な軍馬補充部跡地・計根別飛行場跡地などで農業に従事したり、海岸地区で漁業に就いたりしたため、昭和 19(1944) 年に 1 万 4 千人だった人口は、昭和 31(1956) 年には 2 万人を突破しました。

別海村はその管轄区域があまりにも広いため、村の辺境地区では戦前から分村運動が起こり、戦後は議会で分村が議決されるなどその動きがより激しくなりました。しかし、結果としては昭和 30(1955) 年に協和・豊岡地区（面積約 37.6 km²）が中標津町に編入されただけに終わり、その後は道路・通信事情などもよくなり、分村問題は全く姿を消しました。

昭和 30(1955) 年、別海村床丹第 2 地区（現豊原地区）でパイロットファーム事業が開始されます。機械力を導入し開拓者を開墾の過酷な労働から解放しようとした試みは、幾多の困難と挫折の危機を乗り越え、酪農近代化の基礎を作りました。

昭和 23(1948) 年、水産業協同組合法が公布されると、翌年の昭和 24(1949) 年に 3 つの漁業協同組合が結成されます。同年には漁業法が公布され、サケ・マスを含む漁業権の拡大が図られ、沿岸漁業の振興が推進されるとともに、漁船の動力化・大型化が進み、漁港の整備も行われました。

昭和 34(1959) 年に別海村は財政自主再建団体となりましたが、その後の日本経済の高度成長期においていち早く回復し、近代化された酪農と漁業を両輪として産業基盤整備が進展し、昭和 46(1971) 年に町制が施行されました。

昭和 48(1973) 年に着工し昭和 58(1983) 年に完了した新酪農村建設事業では、935 億円を投じて、高さ 22 メートルのスチールサイロを象徴とする建売牧場の新設、農用地の大規模な新規造成と交換分合による農地集団化、900km の営農用水路と 370km の道路整備などが行われました。この事業により、酪農近代化が急速に進み、生乳生産量日本一を誇る酪農王国の基盤が築かれました。



（パイロットファーム事業の風景）

第2章 「別海のおたから」の把握調査

1. 既往調査の概要

これまでに町内で実施された国による調査としては、近代遺跡調査、文化的景観に関する調査などを挙げることができます。また北海道は、埋蔵文化財の一般分布調査、近世社寺建築緊急調査、道内駅通所の調査、近代和風建築調査、特別天然記念物タンチョウ越冬地分布調査などを行っています。

令和4(2022)年4月の本計画作成開始時点では、網羅的な「別海のおたから」の把握調査は実施できておらず、町内の各地区において調査状況にばらつきがありました。町内の未指定文化財の把握調査に関しては、別海町歴史文化基本構想の策定を目指し、平成29(2017)年度から別海町文化財保護審議会内に別海町歴史文化遺産候補物件調査会議を設け、文献調査を主とした候補物件のリストアップ作業を続けてきました。

調査の基礎資料としては、指定等文化財に関する個別の調査報告書や遺跡調査の報告書、町史や郷土史が主な資料となります。なかでも、大正2(1913)年に発行された『根室要覧』は産業誌と町村誌からなり、写真や図面類も豊富に掲載されているため、把握調査のベースとなる情報源として活用してきました。また、郷土史家檜山満夫による著作『別海沿革誌』は、町内各地域の歴史を詳細に調査した労作です。

調査は地区ごとに順次進め、令和6(2024)年2月時点で9割近くの地区が調査済みとなっていますが、資料が少ないため、ほとんど情報を得られなかった地区や、コロナ禍もあって地元からの聞き取り調査が不十分な地区もあります。

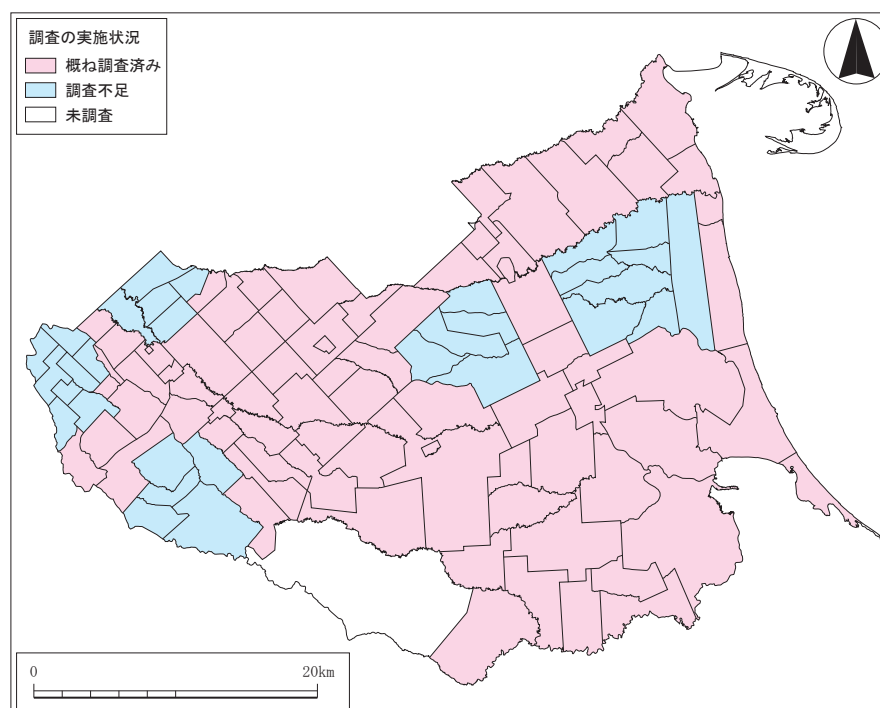


図15 把握調査の実施状況

表 5 調査報告書等の一覧

発行年月	報告書名
1972	浜別海遺跡：北海道根室国
1973	野付崎植生調査報告書
1989.3	北海道の近世社寺建築：近世社寺建築緊急調査報告書
1997.3	尾岱沼 7 遺跡：発掘調査報告書
2003.6	農林水産業に関連する文化的景観の保護に関する調査研究報告書
2004.3	野付通行屋跡遺跡 1：自然崩壊に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
2007.3	野付通行屋跡遺跡 2：自然崩壊に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
2009.12	野付半島鳥類生息現況調査報告書
2011.3	別海町旧奥行臼駅通所調査報告書
2013.3	北海道指定天然記念物「西別湿原ヤチカンバ群落地」調査報告書
2014.3	近代遺跡調査報告書 - 軽工業 - 第一分冊（紡績・製糸・その他繊維工業・食品）
2015.3	床丹 1 チャン跡：自然崩壊に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
2019.3	史跡旧奥行臼駅通所主屋：保存修理工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
2019.3	史跡旧奥行臼駅通所主屋保存修理工事報告書
2022.3	西別湿原ヤチカンバ群落地調査報告書：天然記念物緊急調査報告書
2023.6	旧開拓使缶詰所、および旧奥行臼駅本屋 実測調査報告書

2. 今回の計画で実施した調査

本計画の作成と並行して、令和 4 (2022) 年度～令和 5 (2023) 年度にかけて、別海町の歴史・文化・自然を理解するための多種多様な「別海のおたから」をピックアップする基礎調査を実施しました。先述した別海町歴史文化遺産候補物件調査の追加調査として『別海町史』や『根室要覧』、『別海沿革誌』などの資料をもとにリストを整理した上で、令和 4 (2022) 年度には町民アンケート調査、令和 4・5 (2022・2023) 年度にはワークショップを実施し、幅広く「別海のおたから」に関する情報を集め、736 件を候補物件のリストに追加することができました。

表 6 本計画作成に伴い実施した調査の概要

調査名	調査内容
別海町歴史文化遺産候補物件調査の追加調査	町内全域を対象とし、『別海町史』等の資料をもとに 736 件をリストアップ。
専門部会による調査	中西別を対象とし、地区内の駅通所や小学校の防空壕などの聞き取り調査を実施。
地域おこし協力隊員による調査	西春別・泉川・尾岱沼を対象とし、地区内の商店跡や劇場跡、軍馬補充部関連施設などの聞き取り調査を実施。

町民アンケート調査	①無作為抽出の町民 1,000 人へ郵送配布、② WEB 回答、③町内会長 113 人へ郵送配布／3 種類のアンケート調査を実施。
ワークショップ	令和 4 年度：一般公募の 26 名の町民が参加し、「別海のおたから」や「活用の提案、実現への課題」について意見交換を実施。 令和 5 年度：一般公募の 9 名の町民が参加し、「別海のおたから」や「おたからの魅力を伝えるストーリー」について意見交換を実施。

3. 把握調査のまとめ

令和 6 (2024) 年 2 月時点の調査状況を類型・種別ごとに整理すると下表のようになります。

町内の把握調査について、伝統的建造物群と文化財の保存技術に関しては未調査となっており、それ以外の類型・種別は不十分となっています。建造物については、殖民軌道の倉庫や豊原・美原地区のパイロットファーム時代の住宅・牛舎が分布していることは把握していますが、詳細な価値づけや評価のための調査は未実施です。動植物については調査が不足しているため、継続的に調査を進める必要があります。

表 7 把握調査の実施状況

類型・種別	有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	伝統的建造物群	埋蔵文化財	文化財の保存技術	その他（地名・伝承・その他）
	建造物	美術工芸品	演劇、音楽、工芸技術	有形の民俗文化財	無形の民俗文化財	遺跡	名勝地	動物、植物、地質・鉱物					
別海町内	△	△	△	△	△	△	△	△	△	未	△	未	△

（○：概ね調査済み、△調査不足、×：該当なし、未：未調査）

第3章 「別海のおたから」の概要

1. 指定等文化財の概要

別海町の指定文化財は、国2件・道1件・町16件の計19件あり、類型別に見ると有形文化財が道1件・町5件、記念物が国2件・町11件で、無形文化財と民俗文化財の指定はなく、選定文化財の文化的景観と伝統的建造物群、国の登録文化財もまだありません。

なお、埋蔵文化財包蔵地は88か所が確認され、竪穴住居跡群の多いことが特徴的です。文化財の保存技術については、まだ認定されていません。

表8 別海町の指定文化財一覧（令和6年3月時点）

No.	指定区分	類型	種別	指定年月日	名称	所在地
1	国指定	記念物	遺跡	H23.9.21	旧奥行臼駅通所	奥行15番地12他
2		記念物	植物	R6.2.21	西別湿原ヤチカンバ群落	別海71番地3・6・25・26 中西別170番地11
3	道指定	有形文化財	建造物	H6.6.3	奥行臼駅通	奥行15番地12
4	町指定	記念物	植物	S56.12.11	西別開基の松	別海常盤町280番地
5		記念物	植物	S56.12.11	野付の千島桜	尾岱沼潮見町217番地1
6		記念物	植物	S56.12.11	試作場の桜	中春別278番地2
7		記念物	植物	S56.12.11	オクユキウスの大楢	奥行15番地77
8		記念物	植物	S56.12.11	風連の楢林、開墾記念のスモモ	上風連280番地
9		有形文化財	建造物	H3.4.1	奥行臼駅	奥行16番地27～30
10		記念物	植物	H6.2.18	蟬山の松	尾岱沼潮見町32番地1
11		記念物	植物	H6.2.18	本別海一本松	本別海3番地23先
12		記念物	植物	H6.2.18	役場支所の柏	西春別駅前栄町28番地
13		有形文化財	建造物	H9.5.19	旧別海村営軌道風連線奥行臼停留所	奥行15番地55
14		記念物	植物	H9.5.19	広野開拓六気の柏	中西別54番地45
15		記念物	植物	H11.4.8	上西春別小学校の柏	西春別駅前西町2番地1
16		有形文化財	美術工芸品（古文書）	H11.4.8	加賀家文書	別海宮舞町29番地
17		記念物	地質鉱物	H18.4.27	野付半島沖マンモスゾウ化石群	別海宮舞町30番地
18		有形文化財	美術工芸品（彫刻）	H24.4.26	厨子入南矢臼別馬頭観世音菩薩坐像	上風連38番地4
19		有形文化財	建造物	H25.5.24	旧柏野尋常小学校奉安殿	西春別105番地11

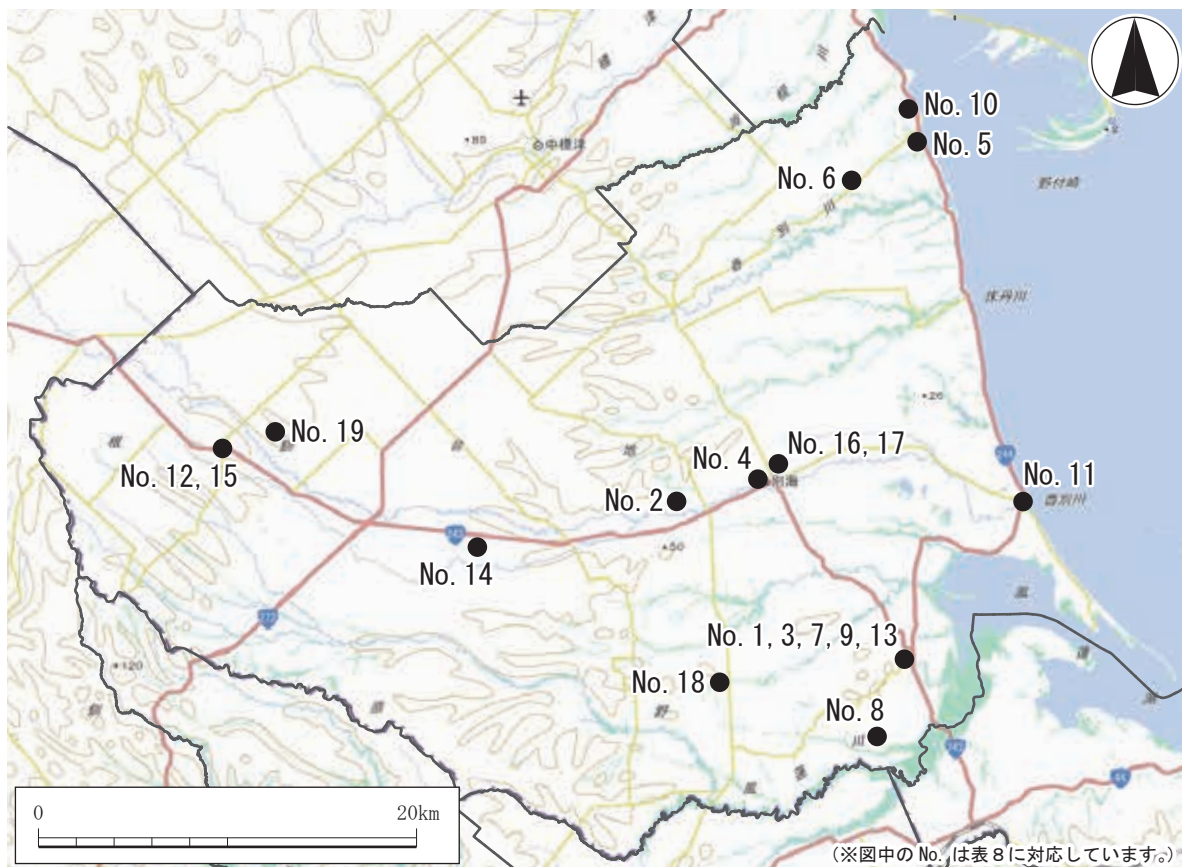


図 16 指定文化財の位置図

表 9 指定等文化財の類型・種別ごとの件数（令和 6 年 3 月時点）

類型・種別		国		道	町	合計
		指定・選定	登録	指定	指定	
有形文化財	建造物	0	0	1	3	4
	美術工芸品	0	0	0	2	2
無形文化財	演劇、音楽、工芸技術	0	0	0	0	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	0
	無形の民俗文化財	0	0	0	0	0
記念物	遺跡（史跡）	1	0	0	0	1
	名勝地（名勝）	0	0	0	0	0
	動物、植物、地質鉱物（天然記念物）	1	0	0	11	12
文化的景観		0	—	—	—	0
伝統的建造物群		0	—	—	—	0
合計		2	0	1	16	19

（１）有形文化財

道・町指定の建造物は４件で、このうち３件が奥行臼駅通関連の建造物となっており、北海道開拓の歴史や当時の駅通の様子がよくわかる貴重な文化財です。残りの１件は町指定の旧柏野尋常小学校奉安殿で、昭和１２(1937)年に建設されたものです。

町指定の美術工芸品は２件で、加賀家文書と厨子入南矢白別馬頭観世音菩薩坐像が町指定となっています。加賀家文書は、江戸時代の末期に野付通行屋の通訳などとして活躍した加賀伝蔵が残した古文書資料であり、約１,０００点にのぼります。当時のアイヌと和人の関係やこの地方の出来事、風俗等が克明に記録されており、別海町さらには、根室管内、北海道の近世史の空白を埋める重要な資料となっています。

（２）記念物

国・町指定の記念物は１３件あり、史跡の旧奥行臼駅通所と天然記念物の西別湿原ヤチカンバ群落を除く１１件が町指定の天然記念物で、野付半島沖マンモスゾウ化石群以外の１０件は、全て植物です。西別湿原ヤチカンバ群落は氷河期の遺存種であり、町指定の野付の千島桜・オクユキウスの大櫛・役場支所の柏など、この地域における自然環境の変遷と自然の豊かさを物語っています。



（旧奥行臼駅通所、加賀家文書、西別湿原ヤチカンバ群落、野付の千島桜）

2. 関連する制度

(1) 日本遺産『「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～』の概要

日本遺産は、地域に点在する文化財を把握し、それらを結ぶストーリーによってパッケージ化して、地域全体としての一体的な整備・活用を図るものです。近隣の標津町、根室市、羅臼町とともに申請したストーリー『「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～』が、令和2(2020)年6月に日本遺産として認定されました。

ストーリーの概要

北海道最東の海、根室海峡。この地では遥か一万年の昔から、絶えず人々の暮らしが続いてきました。その支えとなったのは、大地と海とを往来し、あらゆる生命の糧となった鮭です。毎年秋に繰り返される鮭の遡上という自然の摂理の下、当地では人と自然、文化と文化の共生と衝突が起こり、数々の物語と共に、海路、陸路、鉄路、道路という、根室海峡に続く「道」が生まれます。一万年に及ぶ時の流れの中で、鮭に笑い、鮭に泣いた根室海峡沿岸。ここはいまも、人と自然、あらゆるものが鮭とつながる「鮭の聖地」です。

表 10 町内の日本遺産の構成文化財一覧（令和6年2月時点）

No.	認定年月日	名称	所在地	備考
1-1	R2.6.19	野付半島		北海道遺産(No.44)として選定
1-6	R2.6.19	野付通行屋跡遺跡		北方領土遺産として選定
1-7	R2.6.19	鮭とばを干す風景		
1-8	R2.6.19	山漬けの製法		
1-9	R2.6.19	鮭飯寿司の文化		
2-2	R2.6.19	根室海峡沿岸の鮭・鱒遡上河川		
3-6	R2.6.19	加賀家文書	別海宮舞町29番地	町指定 北方領土遺産として選定
3-7	R2.6.19	旧開拓使別海缶詰所	本別海1-93、同1-205	別海町歴史文化遺産 北方領土遺産として選定
4-1	R2.6.19	野付湾の打瀬網漁		北海道遺産(No.44)として選定
4-5	R2.6.19	旧奥行臼駅通所	奥行15番地12他	国指定
4-6	R2.6.19	旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所	奥行15番地55	町指定
4-7	R2.6.19	標津線関連資産群 (4-7-2 奥行臼駅)	奥行16番地27～30	町指定
4-7	R3.7.16	標津線関連資産群 (4-7-4 旧国鉄標津線上春別駅跡)	本別76番地19	別海町歴史文化遺産
4-7	R4.7.29	標津線関連資産群 (4-7-5 旧別海駅～旧厚床駅間線路跡)	別海旭町67-1 ほか	
4-7	R4.7.29	標津線関連資産群 (4-7-6 旧光進駅)	泉川114番9	別海町歴史文化遺産
4-7	R4.7.29	標津線関連資産群 (4-7-7 旧平糸駅)	別海11番41先	別海町歴史文化遺産
4-8	R2.6.19	根釧パイロットファーム関連文化財群		
4-9	R2.6.19	根釧台地の酪農建造物群		
4-10	R2.6.19	根釧台地の格子状防風林		北海道遺産(No.20)として選定

(※抜けている番号は、標津町・根室市・羅臼町に所在する構成文化財)



(山漬けの製法、鮭飯寿司の文化)



(旧開拓使別海缶詰所、根釧台地の格子状防風林)

(2) 北海道遺産の概要

北海道遺産とは、次の世代へ引き継ぎたい有形・無形の財産の中から、北海道民全体の宝物として選ばれたものを指します。平成 13(2001) 年に第 1 回選定分 25 件、平成 16(2004) 年に第 2 回選定分 27 件、平成 30(2018) 年に第 3 回選定分 15 件、そして、令和 4(2022) 年 10 月 13 日に第 4 回選定分 6 件と名称変更 1 件が決定・公表され、北海道遺産は総計 74 件となりました。別海町内では右表の 9 件が該当しています。

表 11 別海町内の北海道遺産一覧（令和 6 年 2 月時点）

No.	選定年月日	名称	備考
20	H13	根釧台地の格子状防風林	日本遺産の構成文化財(No.4-10)として認定
23	H13	アイヌ語地名	(北海道各地)
43	H16	モール温泉	(十勝、石狩平野など)
44	H16	野付半島と打瀬舟	日本遺産の構成文化財(No.1-1、4-1)として認定
51	H16	サケの文化	(北海道各地)
65	H30	北海道の簡易軌道	(鶴居村など)
66	H30	千島桜	(北海道各地)
67	H30	松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡	(北海道各地)
74	R4.10.13	下の句かるた	(北海道各地)

(3) 別海町歴史文化遺産の概要

別海町では、平成 20(2008) 年から国の登録文化財制度に準じた「別海町歴史文化遺産（みんなのたからものリスト）認定事業」をスタートし、平成 23(2011) 年から現在までに下表の 19 件を認定しています。また、その中から No. ①「南矢白別馬頭観世音像」と No. ②「旧柏野尋常小学校奉安殿」の 2 件を町指定文化財とし、さらなる保存・活用を進めています。

表 12 別海町歴史文化遺産一覧（令和 6 年 2 月時点）

No.	類型	認定年月日	名称	所在地
①	有形文化財	H23.3.25	南矢白別馬頭観世音像と観音堂	上風連38番地4
②	有形文化財	H24.1.30	旧柏野尋常小学校奉安殿	西春別105番地11
③	有形文化財	H25.2.4	旧開拓使別海缶詰所	本別海1-93、同1-205
④	有形文化財	H25.4.17	旧西別神社祠	別海宮舞町23
⑤	有形文化財	H25.4.17	西別神社々誌	別海宮舞町23
⑥	有形文化財	H26.4.10	在日米軍偵察爆撃機RB29プロペラブレード	上春別栄町24番地
⑦	有形文化財	H28.2.26	西別稻荷神社本殿	別海160番地70
⑧	有形文化財	H28.2.26	西別稻荷神社牛皮太鼓	別海160番地70
⑨	記念物	H28.2.26	昭和小学校跡	別海169番地4
⑩	有形文化財	H29.3.8	旧別海村営簡易軌道風蓮線上風蓮停留所機関庫・油庫	上風連174番地7
⑪	有形文化財	H30.2.28	旧国鉄標津線床丹3の川鉄橋米軍空襲跡	別海18番41先
⑫	記念物	H30.8.1	第一次伊能忠敬測量隊最東端測量の地	本別海3番24
⑬	無形文化財	R1.9.4	別海音頭	
⑭	記念物	R2.11.2	旧国鉄標津線上春別駅跡	本別76番地19
⑮	無形の民俗文化財	R3.7.28	風蓮湖の氷下待ち網漁	
⑯	有形文化財	R3.11.12	旧陸軍計根別第一飛行場1号有蓋掩体	本別34番7・8
⑰	記念物	R4.12.26	旧浜中町営軌道東円線（簡易軌道茶内支線）上風蓮（開南）停留所	上風連251番49
⑱	記念物	R5.5.9	旧国鉄標津線平糸駅跡	別海11番41先
⑲	記念物	R5.5.9	旧国鉄標津線光進駅跡	泉川114番9

（※1）No. ①「南矢白別馬頭観世音像」は、H24.4.26 に町の有形文化財に指定

（※2）No. ②「旧柏野尋常小学校奉安殿」は、H25.5.24 に町の有形文化財に指定

別海町歴史文化遺産の有形文化財には、神社の本殿や祠、開拓時代の缶詰所の建物、簡易軌道の施設などがあります。また、標津線鉄橋米軍空襲跡や計根別飛行場の有蓋掩体^{ゆうがいえんたい}は別海町の戦争の記憶を後世に伝えるものです。無形文化財には別海音頭があり、これは別海村開村 88 周年を記念して昭和 41(1966) 年に作られたもので、作詞は東幸也、作曲は松田喜一、手踊りの振付は伊藤栄子が担当しました。無形の民俗文化財には、風蓮湖^{こおり}の氷下待ち網漁^{したま あみりょう}があります。明治中期に始まった伝統的な漁法であり、冬の期間結氷する風蓮湖で氷の下に小型の定置網を仕掛けてコマイなどを獲ります。記念物は 4 件あり、いずれも遺跡に該当します。昭和小学校の跡地や旧国鉄標津線上春別駅の跡地など、別海が辿った歴史を示すものです。

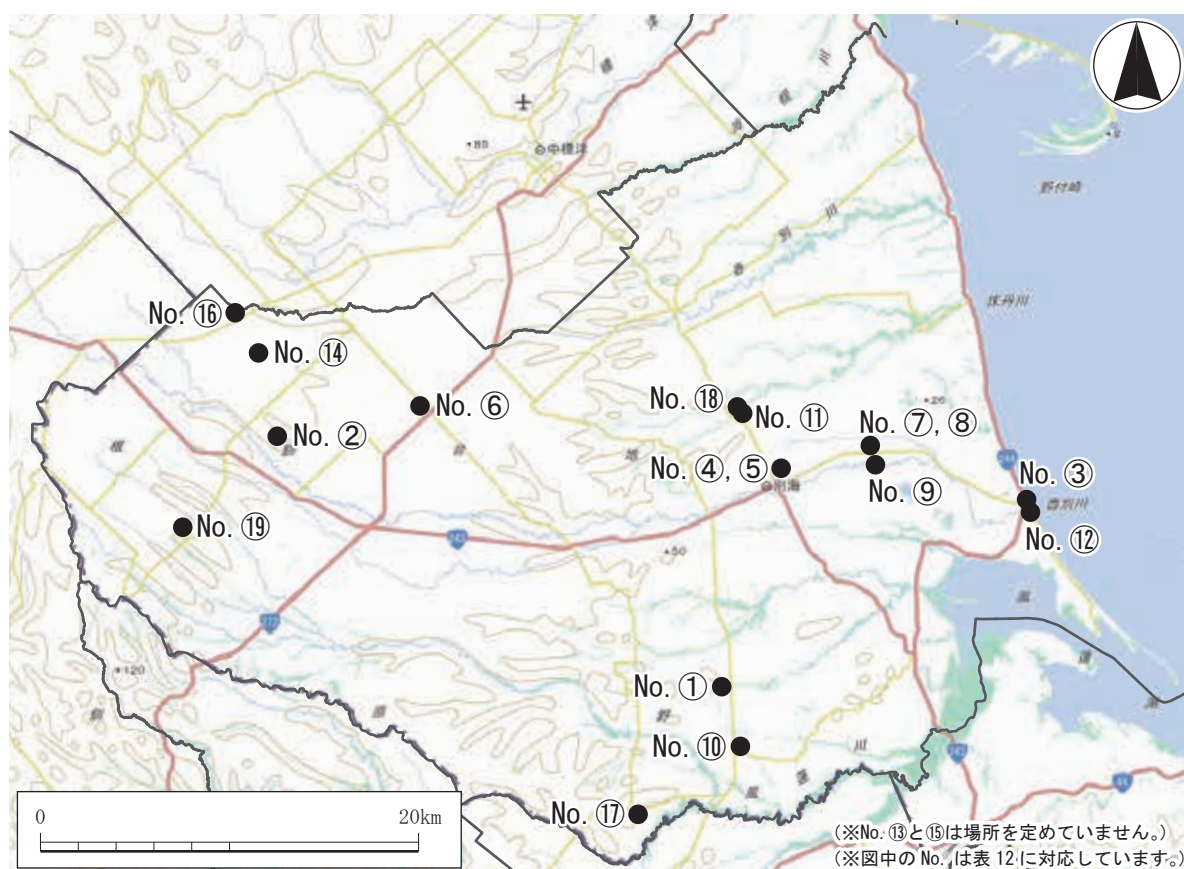


図 17 別海町歴史文化遺産の位置図



(旧奥行臼駅通所で披露された別海音頭、風蓮湖の氷下待ち網漁)

3. 未指定文化財の概要

これまでに実施した調査等により、870 件の未指定文化財を把握しています。これを国が定めた文化財の 6 類型に当てはめると、有形文化財が 42 件、無形文化財が 1 件、民俗文化財が 212 件、記念物が 513 件、文化的景観が 5 件、伝統的建造物群が 1 件となります。

類型外の埋蔵文化財は 88 件、文化財の保存技術は 0 件であり、その他（地名・伝承・その他）に該当するものは 8 件となっています。

表 13 未指定文化財の件数（令和 6 年 2 月時点）

有形文化財		無形文化財	民俗文化財		記念物			文化的景観	伝統的建造物群	埋蔵文化財	文化財の保存技術	その他（地名・伝承・その他）	合計
建造物	美術工芸品	演劇、音楽、 工芸技術	有形の民俗文化財	無形の民俗文化財	遺跡	名勝地	動物、植物、 地質 鉱物						
27	15	1	205	7	500	10	3	5	1	88	0	8	870

（１）有形文化財

建造物の多くは神社仏閣に属するものと、小中学校の校舎で、それ以外では鉄橋や鉄道関連施設などがあります。ほとんどの神社は、開拓に伴って全国各地からの入植民が地元の氏神様を祀ったものです。美術工芸品については、神社の社誌や別海にゆかりのある画家の油彩画などがあります。

（２）無形文化財

別海町歴史文化遺産の「別海音頭」が該当します。これは別海村開村 88 周年を記念して昭和 41(1966) 年に作られたもので、平成 31(2019) 年 4 月に発足した「別海村開村八十八周年記念別海音頭保存会」により、踊りの伝承が図られています。

（３）民俗文化財

有形の民俗文化財は、各地で大切に守られている神社や石碑のほか、広野青年団旗などがあります。無形の民俗文化財としては、野付の竜神太鼓保存会などが現在も活動を継続し、「尾岱沼えびまつり」や別海町の芸術文化祭などで演奏を披露しています。

（４）記念物

記念物は遺跡が 500 件と多く、学校跡や軌道跡、酪農関係の建物跡など、開拓期のものがほとんどです。動物、植物、地質鉱物では旧大成小学校の柏などが該当しています。

また、一部が日本遺産の構成文化財と重複しますが、名勝地として「別海十景」があり、町内の自慢できる景観スポットを 10 か所選んで町内外に発信しています。

【別海十景】

- ・野付半島
- ・野付湾
- ・野付半島原生花園
- ・トドワラ
- ・白鳥台
- ・風蓮湖
- ・茨散沼
- ・ヤウシュベツ川河口
- ・町立小野沼公園
- ・新酪農村展望台



（茨散沼、新酪農村展望台）

（５）文化的景観

別海を代表する雄大な牧場風景や畜舎、サイロなどの建造物は、酪農の風景として特徴的です。また、尾岱沼や床丹、本別海、走古丹などの海岸部においては漁船が浮かぶ港湾や、水産加工の作業場など、漁業が盛んな地域を代表する姿がみられます。

なかでも、日本遺産および北海道遺産になっている「根釧台地の格子状防風林」と「野付湾の打瀬網漁（野付半島と打瀬舟）」は、他のエリアにはない、この地域独特の景観です。

「根釧台地の格子状防風林」は、100 間 (180m) 幅の防風林を原生林から削り出して正方形を基本とした格子をつくり、その間の升目となる開拓地に配した農地や宅地を守る、という壮大な構想が実現した姿となっています。また、防風林では豊かな生態系が育まれており、格子状に繋がる森は、多くの生物が行き来するネットワークとしても機能しています。

「野付湾の打瀬網漁（野付半島と打瀬舟）」は、昔ながらの帆船でホッカイシマエビ漁

を行う姿が、季節の風物詩となっています。エビが生息している浅い海底にあるアマモを傷めないための工夫であり、伝統的な漁法です。

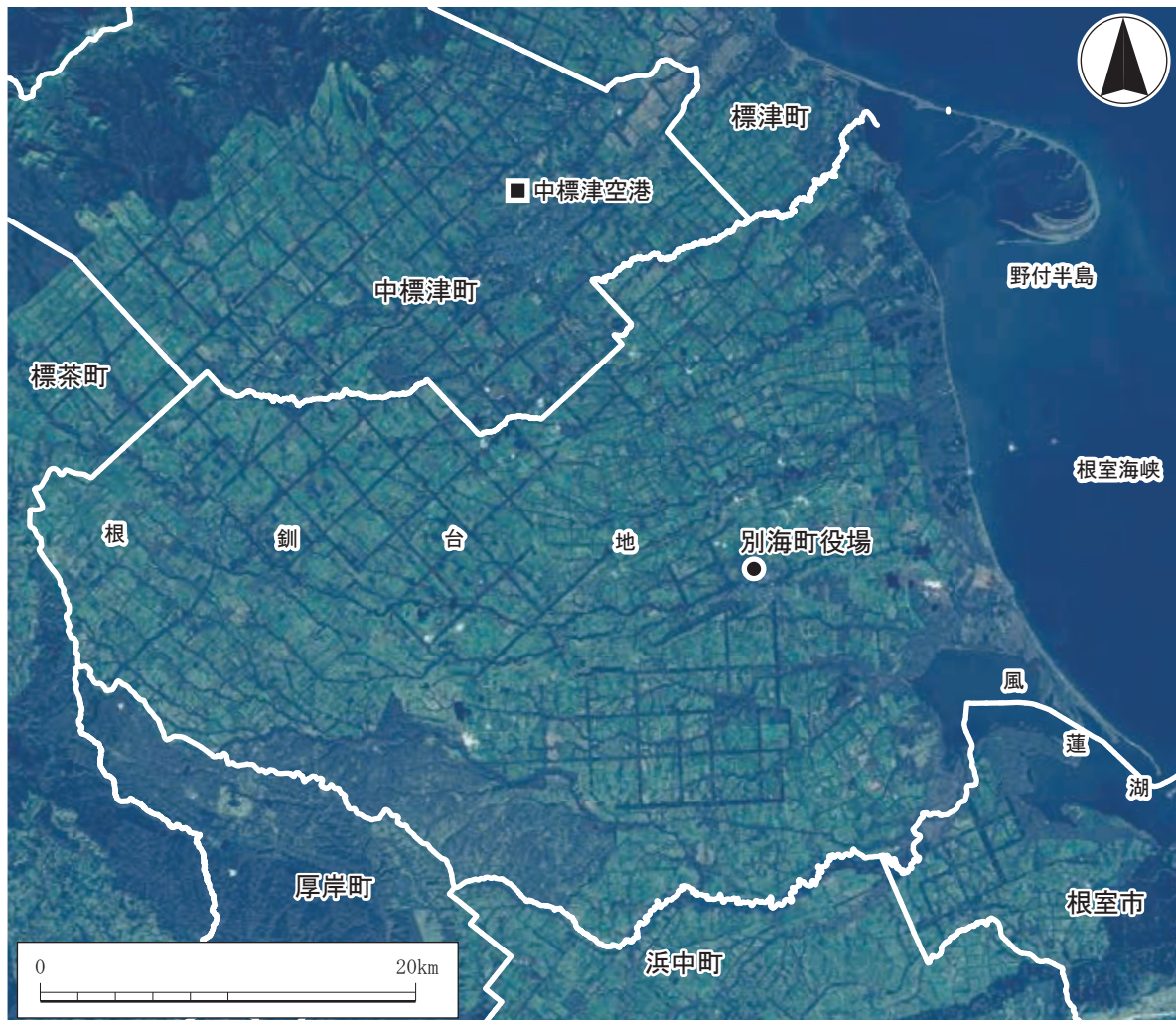


図 18 「根釧台地の格子状防風林」の様子（国土地理院航空写真）



（「野付湾の打瀬網漁（野付半島と打瀬舟）」の様子）

（６）伝統的建造物群

日本遺産の「根釧台地の酪農建造物群」が該当します。腰折れ屋根（ギャンブルル屋根）を持つ牛舎やタワー型サイロなどは、酪農地帯を象徴する建造物です。

（７）埋蔵文化財

竪穴住居跡群が多く、各時代の集落跡のほか、アイヌ文化期のチャシ跡や墳墓なども確認されています。

（８）その他（地名・伝承・その他）

その他としては、アイヌ語地名がほとんどを占めます。代表例を挙げると、野付、尾岱沼、春別、西別、本別、別海、走古丹、茨散、奥行臼、風蓮、恩根内、然内、当幌、オンネニクル、タモカ、トリサンケベツなどがあります。

第４章 別海町の歴史文化の特性

歴史文化とは、地域に固有の風土の下、先人によって生み育まれ、時には変容しながら現代まで伝えられてきた知恵・経験・活動等の成果及びそれが存在する環境を総体的に把握した概念のことです。

町内に所在する多種多様な「別海のおたから」や、それらの周辺環境を含めた調査成果等を踏まえ、別海町らしさをあらわしている別海町の歴史文化の特性を以下の７つに整理しました。

1. ネイチャー・ヒストリー～マンモスが闊歩した平たい大地と日本最大の砂嘴^{さし}
2. サーモン・ヒストリー～大切に受け継がれてきた持続可能な水産業
3. ミルク・ヒストリー～見棄てられかけた凶作の原野から乳流る大地への甦り^{よみがえ}
4. ロード・ヒストリー～生命を繋いだ水・馬・鉄・車・空の路^{みち}
5. アイヌ・ヒストリー～『加賀家文書』が紐解く「ペッカイエ」の地
6. ミリタリー・ヒストリー～広漠の地に築かれた北の護り
7. ローカル・ヒストリー～でっかい村の小さな集落に生きる人々の記憶とくらし

歴史文化の特性 1

【ネイチャー・ヒストリー～マンモスが闊歩した平たい大地と日本最大の砂嘴^{さしづみ}】

別海の地は屈斜路・摩周火山の火山灰が繰り返し降り注いでできており、山がなく、石ころも出ない平たい「根釧台地」が広がっています。

そして、約7万年前から1万年前までの最終氷期に陸地化した宗谷海峡を通して、マンモスゾウ、ヒグマ、シマリスなどが北海道に南下してきました。野付半島沖では、4万3千年前と2万年前のマンモスゾウの臼歯化石が発見されています。

野付半島は、知床半島から標津にかけての海岸より潮流で運ばれた砂や石が4,000年かけて堆積してできた日本最大の砂嘴です。1年に1cmの地盤沈下が進むことで海水が浸水し、奇観トドワラやナラワラが形成されました。このエビ状の半島に抱かれた野付湾は、濤（潮切）が発達したごく浅い水域で、アマモが繁茂し、特産品のホッカイシマエビが生息しています。また、国の特別天然記念物タンチョウ、国の天然記念物オオワシ、オジロワシ、コクガン、カラフトルリシジミを始め、数多くの希少な野生生物が生息しています。その特異な景観や豊かな自然は、多くの人たちを惹きつけ、別海町最大の観光地となっています。

1万年前頃から地球の気候は急激に暖くなり、海水面が上昇すると、グイマツなどの落葉針葉樹に覆われていた植生は、常緑針葉樹や落葉広葉樹の森林に変わり、茨散沼湿原^{ばらさんとう}や兼金沼湿原^{かねきんとう}など、貴重な植物が生息する「ヤチ」と呼ばれる数多くの湿原も形成されました。氷河期の遺存種と言われるヤチカンバは、湿原に逃げ込むことでかろうじて生き延びることができたのです。

別海町の大地はカシワやミズナラの原生林に覆われていきましたが、これらの木は明治以降の開拓で炭や鉄道の枕木などに使われ、本州からの入植者たちの貴重な現金収入となった一方、森林は急速に失われることになりました。また、畑作にも居住にも向いていなかった湿地も、酪農近代化の過程で急速に農地化が進み、失われていきました。

根釧台地は、効率的な入殖地の設定や大規模な農地開発に有利でしたが、痩せた土地であるためにその寒冷な気候と相まって畑作には不向きであり、次第に酪農への転換が進められました。

主な「別海のおたから」一覧

名称	類型（種別）	指定・未指定
タンチョウ、オオワシ、オジロワシ、コクガン、カラフトルリシジミ	記念物（動物）	国指定 （地域を定めず）
西別湿原ヤチカンバ群落	記念物（植物）	国指定
野付半島沖マンモスゾウ化石群	記念物（地質鉱物）	町指定
野付半島	文化的景観	未指定、 日本遺産、北海道遺産
野付湾の打瀬網漁	民俗文化財（無形）	未指定、 日本遺産、北海道遺産
根釧台地の格子状防風林	文化的景観	未指定、 日本遺産、北海道遺産
モール温泉	記念物（地質鉱物）	未指定、北海道遺産

歴史文化の特性 2

【サーモン・ヒストリー～大切に受け継がれてきた持続可能な水産業】

別海町の水産業は沿岸漁業が主体で、縄文時代からアイヌ文化期を経て現在に至るまで、サケを中心とする豊かな水産資源が人々の生活の糧となり、村落形成の土台となってきました。江戸時代後期になると、和人はこの豊かな水産資源を求めて別海を含む根室沿岸にも本格的に進出しました。サケ・マス、ニシンを中心に根室海峡の海の幸が本州に送られるようになり、特に西別川河口で獲れたサケは、徳川 11 代将軍家齊に献上されるなど、名声が高まりました。場所請負人たちは、漁網・漁法の発展や漁場の新規開拓によって根室沿岸で大きな利益を上げましたが、アイヌを漁場の安価な労働力として酷使し続けたことで強い反発を受けました。

明治以降、場所請負人が独占していた漁場が開放され、藤野や柳田といった根室の有力な親方たちは、東北地方などから多くの出稼ぎ漁夫を雇い、漁場を広げていきました。西別川河口にあった柳田の番屋そばに植えられた「本別海一本松」には、明治期に東北各地から移住してきた漁夫たちの思いが伝えられています。

サケ・マスの定置網漁の権利を持たない零細漁民の地元民たちは、カレイ、ホッカイシマエビ、ホタテ、ホッキ、アサリ、コマイなど、サケ・マス以外の漁に活路を見出さざるを得ません。風の力を利用して効率的に漁を行う打瀬網漁や、冬期間でも安定した漁獲が期待できる氷下待ち網漁といった現在まで受け継がれる独特の漁法は、漁師たちの苦しい生活を支えてきました。アマモを傷めないよう三角帆を立ててエビを漁るホッカイシマエビ漁は、野付湾の風物詩になっています。

明治中期から乱獲によるサケ・マス資源の減少が見られたため、人工ふ化事業が本格的に行われるようになり、戦後には町内の主だった河川にサケ・マスふ化場が作られました。サケ・マス以外にも、ホタテ稚貝放流、チカの人工ふ化、アサリ漁場の改良、ホッカイシマエビの厳しい漁獲制限など、限られた漁業資源を大切に育て計画的に獲る持続可能な漁業が確立していきました。

明治初期に開拓使が設置した鮭缶詰所は、献上鮭の名声を引き継ぎ「美味最拔秀」と評された西別川産の鮭を缶詰にすることで、海岸部の住民定着と輸出による外貨獲得を目的に作られました。現在も漁協の倉庫として建物の一部が残る開拓使別海缶詰所は、わが国の缶詰製造業のはじまりといえます。冷凍技術が発達するまでは根室沿岸部の水産加工業の中心的位置を占め、根室地方の発展に大きく貢献しました。この流れを引き継ぎ、尾岱沼地区にある水産加工場は、別海の海の幸を国内はもちろん、海外にも盛んに輸出しています。

主な「別海のおたから」一覧

名称	類型（種別）	指定・未指定
本別海一本松	記念物（植物）	町指定
鮭とばを干す風景	文化的景観	未指定、日本遺産
山漬けの製法	民俗文化財（無形）	未指定、日本遺産
鮭飯寿司の文化	民俗文化財（無形）	未指定、日本遺産
根室海峡沿岸の鮭・鱒遡上河川 （代表例：西別川）	文化的景観	未指定、日本遺産

歴史文化の特性 3

【ミルク・ヒストリー～見棄てられかけた凶作の原野から乳流る大地への^{よみがえ}甦り】

明治中期以降、海岸部から内陸部への開拓と入植は、国や道の政策と過酷な自然条件に翻弄されながら進められました。漁業者や薪炭業者が放牧地として土地の払い下げを受け、海岸部から少し内陸寄りに大規模な馬の牧場が次々に開設されました。

その一方、サケが川を遡上するように西別川などに沿った内陸に殖民地の区画が定められ、畑作を生業とする移民が次々と入植しました。明治 43(1910) 年には、春別に農事試作場が開設し、米を含む様々な農作物の試作や研究が行われました。昭和 2(1927) 年に始まった北海道第二期拓殖計画では、根室地方に多くの人たちが本州から押し寄せるように入植し、別海村の人口は大正 14(1925) 年の 1,814 人からわずか 5 年で 11,383 人にまで増加しました。

ところが、冷害が打ち続いた挙句、昭和 7(1932) 年 6 月 29 日には霜が降りて農作物は壊滅状態となり、希望に満ちて別海にやってきた移住者は、絶望のどん底に突き落とされました。根室原野はもう放棄すべきだとの意見が圧倒的となり、多くの離村者が出ました。しかし残った農民は立ち上がり、別海村の各地で農民大会を開き、代表者がむしろ旗を掲げて北海道庁根室支庁や札幌本庁に直接陳情活動を行いました。佐上北海道庁長官が別海を含む根釧原野を視察した後、北海道庁は乳牛を主体とする主畜農業に改変していくことを方針とする根釧原野農業開発 5 カ年計画を策定しました。各種補助制度により、牛の数は計画前からわずか 6 年で 3,466 頭と 10 倍に増えました。冷涼な気候で、起伏が少なく広い放牧地を作ることが可能な別海村は、乳牛を飼うには最適の地でした。

大型機械による牧場造成の先駆けとなった戦後のパイロットファーム事業は、世界銀行からの融資を受け、国家プロジェクトとして進められました。昭和 31(1956) 年から現在の豊原地区への入植がはじまり、全国から 361 戸が入植しました。しかし、指定牛がジャージーであったこと、ブルセラ病が流行したこと、土地が狭かったことなど、問題が噴出し、多くの離農者を出しました。踏みとどまった農家は、高度経済成長の波にも乗ってこの困難を乗り越え、生乳生産日本一への道を切り開きました。

昭和 50(1975) 年に入植がはじまった、巨大なスチールサイロをシンボルとする新酪農村建設事業と大規模な農地再編事業により、酪農業の近代化は著しく進展し、現在では 100 戸以上の農家が乳牛 100 頭以上を飼育する大規模酪農地帯を築き上げました。独特の牧場景観や根釧台地の格子状防風林は、まさに「酪農王国別海」を特徴づけています。

主な「別海のおたから」一覧

名称	類型（種別）	指定・未指定
試作場の桜	記念物（植物）	町指定
根釧台地の酪農建造物群	伝統的建造物群	未指定、日本遺産
根釧パイロットファーム関連文化財群（建造物、農機具群）	有形文化財（建造物）、民俗文化財（有形）	未指定、日本遺産
根釧台地の格子状防風林	文化的景観	未指定、日本遺産、北海道遺産
ブロック造り上部連結サイロ	有形文化財（建造物）	未指定

佐上長官之像	民俗文化財（有形）	未指定
佐上橋	民俗文化財（有形）	未指定
北海道庁立根室農事試作場跡	記念物（遺跡）	未指定
雪印乳業中西別工場跡	記念物（遺跡）	未指定
雪印乳業上西春別工場跡	記念物（遺跡）	未指定
新世乳業工場跡	記念物（遺跡）	未指定
集乳所跡（各地区）	記念物（遺跡）	未指定
家畜診療所跡（各地区）	記念物（遺跡）	未指定
畜魂碑・牛魂碑（各地区）	民俗文化財（有形）	未指定



図 21 歴史文化の特性 3 【ミルク・ヒストリー】分布図

歴史文化の特性 4

【ロード・ヒストリー～^{いのち}生命を繋いだ水・馬・鉄・車・空の^{みち}路】

広大な面積を誇る別海町を隅から隅まで結ぶ水・馬・鉄・車・空の「路」。第一次産業を主とする別海町にとって、路は生きる糧を運び、^{いのち}生命を繋ぎました。

最初にこの地域へやってきたのは、マンモスゾウなどの獲物を追って、陸橋となっていた間宮海峡・宗谷海峡を渡ってユーラシア大陸から南下してきた人たちです。

海峡が出来た後も、オホーツク文化人が舟を操り、この地へやってきました。

また、海岸線と川筋はアイヌの人々にとって、生活と狩猟のために使われた重要な「路」で、アイヌ語では「ru＝ル」と言います。蝦夷地への和人の進出と場所請負制度の成立により漁場が開発されると、アイヌの路の利用に加えて、土木工事や工作物の設置を伴う和人の路の開削が進められました。ロシアの南下政策やアイヌの蜂起を背景に、寛政 11(1799) 年に東蝦夷地を幕府が直轄すると、路の整備が急務となりました。海運は目覚ましく発展し、野付半島先端部に野付通行屋が設けられ、別海から野付半島を経て国後島へ渡る「水の路」が開かれ、箱館からエトロフまでが水の路と馬の路で繋がりました。

明治期に入ると、まず標津と根室を結ぶ別海の海岸部の「馬の路」が駅通所の設置と合わせて開削されました。風蓮湖の湖口には渡し船で根室方面に渡る遠太駅通所が設置され、「水の路」が利用されました。明治 43(1910) 年に設置された奥行臼駅通所は、内陸部に作られた別海村で最初の駅通所であり、別海と根室間が「馬の路」だけで結ばれることになりました。これ以降、内陸部の入植の進展に伴い開拓の最前線に駅通所は置かれました。

山がないために開削は他の地域と比べると比較的容易だったとはいえ、しかしそれらの道は、火山灰土壌の別海の大地では春先には雪解けで通行不能となります。広大な村内に開かれた道路はすべて悪路というありさまで、苦しんだ移民たちは鉄路の開通を強く望みました。まず大正 13(1924) 年殖民軌道根室線が、厚床と中標津の間に開通しました。昭和 8(1933) 年には標津線が一部開通し、その後「鉄の路」が別海全体をカバーしていきました。

昭和初期の打ち続く冷害により、入植したばかりの移住者は生活に困窮する状況に陥りました。救済工事と称した道路工事に従事したことで、道路の整備が進むとともに、移住者一家は糊口をしのぎ、命を繋ぎました。

風蓮湖にそそぐヤウシュベツ川は、別名^{どぼ}土場川と呼ばれ、木材や木炭などがこの川を使って運ばれていました。殖民軌道はこの土場川と西別市街を結んでいましたが、国鉄が開通してしばらくすると廃止され、最後の川の路となりました。

高度経済成長期に入ると、道路の整備が進み、「車の路」が別海町の隅から隅まで張り巡らされました。殖民軌道風蓮線を引き継いで動力化した簡易軌道風蓮線は、わずか 7 年であっさりと「車の路」に主役の座を譲りました。水・馬・鉄の路は役目を終えました。観光船が航行する野付湾内の水の路と、トロッコが快走する旧奥行臼駅に残る 1 キロの鉄の路は、今も歴史文化的観光資源として活用されています。

また、昭和 31(1956) 年 6 月、西春別空港に「空の路」が開かれ、わずか 4 年ほどですが北日本航空の DC-3 型機が^{おかだま}丘珠―^{めまんべつ}女満別―西春別間を結んでいました。

主な「別海のおたから」一覧

名称	類型（種別）	指定・未指定
旧奥行臼駅通所	記念物（遺跡）	国指定、日本遺産
奥行臼駅通	有形文化財（建造物）	道指定

奥行臼駅	有形文化財（建造物）	町指定、日本遺産
旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所	有形文化財（建造物）	町指定、日本遺産
野付通行屋跡遺跡	記念物（遺跡）	未指定、日本遺産
旧国鉄標津線上春別駅跡	記念物（遺跡）	未指定、日本遺産、 別海町歴史文化遺産
旧別海駅～旧厚床駅間線路跡	記念物（遺跡）	未指定、日本遺産
旧国鉄標津線光進駅跡	記念物（遺跡）	未指定、日本遺産、 別海町歴史文化遺産
旧国鉄標津線平系駅跡	記念物（遺跡）	未指定、日本遺産、 別海町歴史文化遺産
北海道の簡易軌道	記念物（遺跡）	未指定、北海道遺産
旧別海村村営簡易軌道風蓮線上風蓮停留所機関庫・油庫	有形文化財（建造物）	未指定、 別海町歴史文化遺産
旧浜中町営軌道東円線（簡易軌道茶内支線）上風蓮（開南）停留所	記念物（遺跡）	未指定、 別海町歴史文化遺産
遠太駅通所渡し場跡	記念物（遺跡）	未指定
ヤウシュベツ川の船着場と土場跡	記念物（遺跡）	未指定
旧陸軍計根別第四飛行場跡（西春別空港跡）	記念物（遺跡）	未指定



図 22 歴史文化の特性 4 【ロード・ヒストリー】分布図

歴史文化の特性 5

【アイヌ・ヒストリー～『加賀家文書』が紐解く「ペッカイエ」の地】

地名としての別海は、アイヌ語の「ペッ・カイェ」（川・折る）から来ており、町内のいたるところでアイヌ語地名をみることができます。このことは取りも直さず、別海がアイヌの住む大地（アイヌモシリ）であったことを示しています。また、近年の各種調査成果により、道東地域のアイヌ文化は、オホーツク文化と擦文文化が同化して生まれたトビニタイ文化が元となって育まれたことが明らかになりつつあります。15～18世紀に構築したチャシ跡も確認されており、場所請負制で雇用労働者化する以前の別海アイヌの自律的な姿をうかがい知ることができます。

江戸時代に入ると根室地方にも多くの和人が進出し、和人の残した記録から根室地方のアイヌ社会を垣間見ることができます。別海を含む根室地方は松前藩の交易場として寛永年間（1624～1644）に開かれた厚岸場所に属し、元禄14(1701)年にキイタツ（霧多布）場所として分離し、安永3(1774)年から飛騨屋久兵衛が場所請負人になると、アイヌは漁場労働者として強制的に使役される立場になります。

寛政元(1789)年、飛騨屋の非道なやり方に端を発し、若手アイヌが蜂起したクナシリ・メナシの戦いは、アイヌの武力による最後の戦いであり、和人とアイヌ双方に大きな犠牲を出しました。松前藩側に協力した長老たちの姿を描いた「夷酋列像」^{いしゅうれつぞう}には、蝦夷錦をまとったベツカイアイヌの首長ポロヤの姿も残されています。この蜂起と一方的な鎮圧により、この地のアイヌは幕藩体制支配に完全に組み込まれます。

寛政11(1799)年、東蝦夷地は幕府の直轄となり、ネモロ（根室）には会所が、ノツケ（野付）には通行屋が設けられました。しかしすぐに場所請負制が復活し、文政4(1821)年には再び松前藩が復領しました。天保11(1840)年頃にクスリ（釧路）場所からネモロ場所に移り、場所請負人藤野喜兵衛の下で通詞（アイヌ語通訳）としてノツケ通行屋に長年勤めた加賀伝蔵は、この時代の文書・記録を膨大に書き残しました。それらは『加賀家文書』として別海町郷土資料館附属施設加賀家文書館に保存・展示されています。そのコレクションには、膨大な文書の他、絵図、アイヌの衣服や民具も含まれ、当時のアイヌの生活を伝える第一級の貴重な史料群です。

主な「別海のおたから」一覧

名称	類型（種別）	指定・未指定
加賀家文書	有形文化財 (美術工芸品) (古文書)	町指定、日本遺産
アイヌ語地名 (代表例:野付、尾岱沼、春別、西別、本別、別海、走古丹、茨散、奥行白、風蓮、恩根内、然内、当幌、オンネニクル、タモカ、トリサンケベツ)	その他（地名）	未指定、北海道遺産
チャシ跡 (本別海チャシ跡、床丹1チャシ跡、床丹2チャシ跡、尾岱沼岬チャシ跡、イドチ岬チャシ跡、上風蓮1チャシ跡、上春別1チャシ跡)	記念物（遺跡）	未指定



図 23 歴史文化の特性 5 【アイヌ・ヒストリー】 分布図

歴史文化の特性 6

【ミリタリー・ヒストリー～広漠の地に築かれた北の護り】

現在、町内には陸上自衛隊の別海駐屯地と矢臼別演習場があり、国の防衛を担っています。このことは、本町が山岳の無い、広漠の大地であること、そのために大規模な軍関連施設が作られてきた歴史と深い関わりがあります。

昭和 13(1938) 年、軍馬需要の増大により、西春別地区に陸軍省軍馬補充部根室支部が開設されました。敷地・放牧地は 19,000ha、年間最大育成頭数は 800 頭に及び、その規模は東洋一といわれました。戦後西春別市街にあった官舎が払い下げられて民家として使われ、現在でも残っています。また、長大な土塁が築かれ、現在でもその跡を見ることができます。さらに、西春別本久（本厩）町という地名がその歴史を伝えています。軍馬は通常の馬よりも遥かに高く売れたため、大冷害で疲弊していた村民を救うことになりました。

また太平洋戦争の激化により、昭和 17(1942) 年頃からは、陸軍計根別飛行場が本別地区、開進地区、西春別駅前地区、栄進地区に作られました。昭和 18(1943) 年アッツ島での日本軍の「玉砕」後は、アメリカ軍の侵攻を想定し、その完成が急がれました。標茶駅―根室標津間の鉄道は、飛行場建設のために夜間も物資を運び続けました。終戦後は大部分が農地となりましたが、掩体や格納庫などの跡が現在も残っています。また、計根別第四飛行場（西春別駅前）はアメリカ軍が駐留した後、現在は陸上自衛隊の駐屯地となっています。

軍馬補充部や計根別飛行場の建設では、囚人や中国人、朝鮮人が過酷な条件で働かされ、また地元の住民はせつかく自ら開拓した土地を離れなければならないなど、負の側面も大きいものがありました。

戦後、ソ連軍の侵攻を受けた北方四島の住民は、命からがら脱出し、つてを頼って本町の海岸地区などに移住しました。また、泉川地区には満州からの引き揚げ者が集団で入植しています。

ソ連とアメリカとの冷戦下、昭和 29(1954) 年に在日米軍偵察機 RB-29 は根室沖でソ連軍に攻撃され、上春別の民家に墜落しました。プロペラブレードは、ソ連軍に攻撃されて民家に墜落した機体の一部で、戦後の北方領土問題を象徴する物証の一つです。

主な「別海のおたから」一覧

名称	類型（種別）	指定・未指定
在日米軍偵察爆撃機 RB29 プロペラブレード	有形文化財（建造物）	未指定、 別海町歴史文化遺産
旧国鉄標津線床丹 3 の川鉄橋米軍空襲跡	有形文化財（建造物）	未指定、 別海町歴史文化遺産
旧陸軍計根別第一飛行場 1 号有蓋掩体	有形文化財（建造物）	未指定、 別海町歴史文化遺産
旧陸軍計根別第三飛行場跡	記念物（遺跡）	未指定
旧陸軍省軍馬補充部根室支部事務所跡	記念物（遺跡）	未指定
軍馬補充部之跡の碑	民俗文化財（有形）	未指定
旧軍馬補充部牧場土塁跡	記念物（遺跡）	未指定
旧陸軍計根別第四飛行場跡	記念物（遺跡）	未指定
中西別国民学校防空壕跡	記念物（遺跡）	未指定

陸軍上等兵福田市松外軍属六名之英霊供養塔	民俗文化財（有形）	未指定
慰霊碑（西春別神社境内）	民俗文化財（有形）	未指定
忠魂碑（本別海稻荷神社敷地内）	民俗文化財（有形）	未指定



図 24 歴史文化の特性 6 【ミリタリー・ヒストリー】 分布図

歴史文化の特性 7

【ローカル・ヒストリー～でっかい村の小さな集落に生きる人々の記憶とくらし】

別海町は、一つの県にも匹敵するほどの広大な土地に、集落が点在しています。まず明治初期から海岸部に漁業者として住民が定着し、役場が置かれた本別海（当時は別海）、床丹、尾岱沼は市街地に発展しました。その後、大正後期から内陸部の原野が海岸方面から順に殖民地地区画されて入植が進み、西別（現別海）、上風蓮、中春別、中西別、上春別、西春別などの市街地が設定されました。市街地には、移住者世話所、駅通所、警察、病院、郵便局などの公的施設が置かれ、鉄道や殖民軌道の駅があり、くらしを支える様々な商店が進出しました。

この市街地の周辺には、小さな集落が数多く形成されました。出身地や地区の特徴を表す集落名が付けられ、入植すると住民たちはすぐに神社を創建して祭りをを行い、心の拠り所としていました。昭和 38(1963) 年の時点で別海村の小学校の数は 38 もあり、小学校が置かれた集落では学校を中心としたコミュニティが成立していました。それぞれの集落に独特の歴史があり、太鼓や踊りなどの郷土芸能が生まれました。道路の整備と車社会の発達、また大規模な酪農に移行する中で、神社の合祀と学校の統廃合が進み、すでにその痕跡が失われているところもあります。統合先の学校に残る学校沿革誌は、学校の歴史のみならず、その地域の歴史も伝えてくれます。

鉄道の駅のあった地区では、その駅を中心に市街地が形成されましたが、産業の転換と廃線により、木材業や薪炭業が中心であった奥行臼駅前と泉川駅前の市街地跡は、かつての賑わいが想像できない程に変貌しています。

各集落では、入植から 50 周年などの節目に記念碑が建立され、記念誌が発行されました。記念碑にはその地区の歴史が刻まれ、なかでも福島地区の記念碑は地域の記念碑としては町内最大と言われています。また、記念誌に記録された古老の話は、当時の人々のくらしを知るための貴重な証言となっています。

広大な分、隣町の文化圏に組み込まれている地区もあり、各地区で別海村から離れる話が持ち上がり、分村が議会でも議論されました。しかし別海村から分離したのは 2 地区にとどまり、明治期以来ほとんど変わらない広大な面積を誇っています。

主な「別海のおたから」一覧

名称	類型（種別）	指定・未指定
西別開基の松	記念物（植物）	町指定
野付の千島桜	記念物（植物）	町指定、北海道遺産
本別海一本松	記念物（植物）	町指定
役場支所の柏	記念物（植物）	町指定
広野開拓六気の柏	記念物（植物）	町指定
上西春別小学校の柏	記念物（植物）	町指定
根釧台地の格子状防風林	文化的景観	未指定、 日本遺産、北海道遺産
旧西別神社祠	有形文化財（建造物）	未指定、別海町歴史文化遺産
西別神社々誌	有形文化財 （美術工芸品）	未指定、別海町歴史文化遺産
西別稲荷神社本殿	有形文化財（建造物）	未指定、別海町歴史文化遺産
西別稲荷神社牛皮太鼓	有形文化財 （美術工芸品）	未指定、別海町歴史文化遺産

第5章 ベつせかい遺産と文化財保存活用区域

1. ベつせかい遺産の目的と考え方

「ベつせかい遺産」とは、指定・未指定にかかわらず、地域の多種多様な「別海のおたから」を、歴史文化の特性に基づくテーマやストーリーによって、一定のまとまりとして捉える考え方です。「別海のおたから」を単体としてではなく、一体的に保存・活用することで、魅力を高めることができ、別海町の歴史文化の特性をより分かりやすく伝えることができます。これは「別海（べつかい）」という地名に、他にはない魅力あふれる場所を示す「別世界（べつせかい）」の意味を込めた造語になります。

なお、この「ベつせかい遺産」は、文化庁指針でいう「関連文化財群」にあたります。

2. ベつせかい遺産の設定

第4章で整理した7つの歴史文化の特性をもとに、別海町を物語る2つの「ベつせかい遺産」を設定し、一体的な保存・活用のための取り組みを実施します。

本計画では、「ベつせかい遺産」に関連する「別海のおたから」等の価値づけが十分に
なされており、広く町民にも親しまれている2つのストーリーを取り上げますが、今後の
把握調査で新たな「別海のおたから」が発見されたり、別の視点からストーリーを組み立
てたりするなどして、「ベつせかい遺産」を追加できる情報が揃えば、次期計画にて新た
に設定します。

歴史文化の特性
1【ネイチャー・ヒストリー】
2【サーモン・ヒストリー】
3【ミルク・ヒストリー】
4【ロード・ヒストリー】
5【アイヌ・ヒストリー】
6【ミリタリー・ヒストリー】
7【ローカル・ヒストリー】

ベつせかい遺産
1【でっかい町が育んだでっかいおたから】 （歴史文化の特性1・3・4・5・6・7）
2【べつかいの海・川・大地が育んだ サーモン&ミルク】 （歴史文化の特性1・2・3・5）

べつせかい遺産 1 【でっかい町が育んだでっかいおたから】

広大な面積を誇る別海町には、規格外のスケールを持つおたからが数多くあります。

日本一の砂嘴である「野付半島」、東洋一の規模を誇った「軍馬補充部」、日本陸軍最大の飛行場「旧陸軍計根別飛行場」、日本一大きなチシマザクラである「野付の千島桜」、日本一の生乳生産量を生み出す広大な牧草地の景観（新酪農村展望台）、宇宙から視認できる唯一の人工の風景である「格子状防風林」などが代表例です。

まるで名物ホッカイシマエビのような特異な形をした野付半島は、4,000 年かけて作られた全長約 26km の砂嘴（砂の岬）で、特別天然記念物タンチョウ、天然記念物オオワシ・オジロワシ・コクガンをはじめとする野鳥の楽園です。また、野付半島沖では最終氷期のマンモスゾウの臼歯が見つまっている他、アイヌ語で「大きい林」を意味するオンネニクルには、擦文～アイヌ時代の遺跡があります。その周縁部は地盤沈下のためにミズナラなどが立ち枯れ、「ナラワラ」として観光名所になっています。さらに野付半島先端部には江戸時代の野付通行屋跡遺跡があり、野付半島は別海町の歴史と自然を語る上でとても重要な場所になっています。ご当地ソングである「野付小唄」では「野付七里は浮島岬 春は桜のオンニクリ（オンネニクル）」と唄われています。

この野付半島から明治時代に小学生が運んできたとの伝承がある「野付の千島桜」は、野付小学校にある日本最大のチシマザクラで、卒業生の思い出の木であり、近年では多くの観光客がその見事な咲きぶりを見にやってきました。

幅 100 間（約 182 m）、一辺最大 1,800 間（約 3.27km）の正方形が碁盤の目状に整然と配置された格子状防風林は、空からの眺めが圧巻で、明治時代に設定された殖民地地区画を現在にまで伝えてくれます。この巨大な防風林帯は、農作物を強風から守るとともに、夏はこの地特有の海霧（ガス）を、冬は猛吹雪を防ぐ役割も果たしており、現在でも住民の生活に欠かせないものです。

山の無い別海町は、可住地面積が 805.47 km²で他を圧倒する日本一の大きさです。この広大な大地に散らばる集落には、神社や学校が設置されました。昭和 38(1963) 年の時点で 38 校もの小学校があり、それぞれの地域で学校を中心にコミュニティが形成され、祭りや行事が催されて大変にぎわいました。人々の心の拠り所であった神社や、この地で生き抜いた自負や誇りを象徴する記念碑は、現在も大切に守られています。

かつてこれらの集落を結び、人や生産物を運び、命を繋いでいたのが、「水の路」「馬の路」「鉄の路」でした。とりわけ「鉄の路」は、雪解け時に道路が使い物にならなくなるこの地において、住民たちから熱望され、駅や停留所が置かれた地区では市街地が発展しました。大正 13(1924) 年に殖民軌道根室線が開通し、平成元 (1989) 年に JR 標津線が廃止されるまで、「鉄の路」が広大な別海の大地をカバーしていました。旧標津線で唯一駅舎が残る旧奥行白駅、貴重な資料を保存展示する別海町鉄道記念公園を筆頭に、町内各地に「鉄の路」遺産がちりばめられ、訪れる鉄道ファンから高い評価を得ています。



図 26 ベつせかい遺産 1 の分布図

(※関連する「別海のおたから」一覧は、p.101～106 参考資料(4)に掲載しています。)



(野付半島、旧陸軍計根別第一飛行場 1 号有蓋掩体)

べつせかい遺産2 【べつかいの海・川・大地が育んだサーモン&ミルク】

別海町の水産業は沿岸漁業が主体で、縄文時代からアイヌ文化期を経て現在に至るまで、サケを中心とする豊かな水産資源が人々の生活の糧となりました。

西別川は、日本一の透明度をもつ摩周湖の伏流水を源流としています。この西別川で生まれ、秋に生まれた西別川に帰ってくるサケ（アキアジ）は、その美味ゆえに寛政12(1800)年から江戸時代の終りまで幕府に献上されました。明治初めには開拓使に「美味最拔秀」と評価され、輸出して外貨を稼ぐことを目的に西別川河口の別海に開拓使缶詰工場が作られました。それ以降も、サケ（アキアジ）は別海の漁業の主役であり続けました。ところが平成6(1994)年以降、サケ価格の急激な下落によって漁業者は経営危機に陥ります。そこで取り組んだのが、かつて徳川将軍家へ献上されていた歴史に学んだ「西別鮭」のブランド化であり、付加価値を増大して価格対策を図りました。伝統を引き継ぐ思いで開発された「献上造り」は好評を博し、伊勢神宮に奉納する栄誉を得て、今日に至っています。

野付湾内の日本最大級の藻場で育まれたホッカイシマエビは、アマモを傷つけないよう、現在も風の力を利用した伝統的な打瀬網漁で獲られています。野付半島を背景に白帆をあげて野付湾を滑り、エビを漁る様子は、絵に描いたような美しい情景です。かつては干しエビや缶詰加工にしていたことが、冷凍技術が発展した現在ではゆで上げた後そのまま急速冷凍し、全国の食卓に上っています。殻の柔らかい脱皮エビは天ぷらにし、エビ天井として観光客に供されています。

冬の風蓮湖では、結氷した湖の下に網を仕掛ける氷下待ち網漁が行われています。氷の下に小型の定置網を仕掛けて主にコマイやワカサギを獲る特異な技術は、改良を重ねながら長年にわたって引き継がれ、今も別海町の漁業者の冬場の生活を支える糧となっています。漁の際に捨て置かれた雑魚を狙ってオジロワシやオオワシが飛び回る様子は圧巻で、この時期の風蓮湖の風物詩となっています。氷下待ち網漁で獲ったコマイは、三平汁にしたり、凍ったままマキリ（小型包丁）で削り取ってルイベ（冷凍した刺身）にしたり、漁法と共に食文化も現代まで受け継がれてきました。

明治中期以降、あたかもサケが川を遡上していくかのように、海岸から内陸への開拓と入植が、国や北海道の政策で進められました。土地の改良や農作物の研究を行い、順調に人口が増えていきましたが、昭和7(1932)年6月29日の大霜害で農作物が壊滅状態となり、移住者は大変困難な状況に直面しました。苦しみぬいた移住者は地元の小学校で緊急集会を開き、道庁に抗議に行くなどの直接行動に出ました。本州に帰る移民も数多くいました。北海道庁もすぐに対応し、根釧原野農業開発5カ年計画を策定し、乳牛を主体とする主畜農業への転換を進めました。これが後の生乳生産量日本一の町への第一歩となったのです。その後、昭和31(1956)年のパイロットファーム事業、昭和50(1975)年の新酪農村建設事業により、酪農業の近代化と大規模化が進展しました。特にパイロットファーム事業は、世界銀行の融資を受けた国家プロジェクトで、学校の教科書に載るほどの大きな出来事でした。その成果と反省が、その後の酪農行政に活かされることになりました。調査研究の対象となることも多く、別海町郷土資料館豊原分館には当時の写真や資料が数多く保存・展示されており、またパイロットファーム時代の住宅や牛舎も一部が残っています。

生産された生乳のほとんどは加工原料乳としてバターやチーズなどに加工されますが、地元別海の工場では「べつかいの牛乳屋さん」として飲料用牛乳が製造され、学校給食に出されたり、店頭で販売され、好評を博しています。

この地が酪農王国になることを待ち構えていたかのように、採草地や放牧地として利用可能な広大な土地と冷涼な気候をもつ別海町は、酪農の最適地だったのです。



図 27 ベつせかい遺産 2 の分布図

(※関連する「別海のおたから」一覧は、p.107 参考資料(4)に掲載しています。)



(根室海峡沿岸の鮭・鱒遡上河川(西別川)、根釧パイロットファーム関連文化財群)

3. 文化財保存活用区域の目的と考え方

文化庁指針では、文化財保存活用区域を「一定の区域に文化財が集積している場合に、それらを取り巻く周辺環境を含めて一体的に保存・活用し、文化的な空間を創出するために設定する区域」としています。

別海町では、第4章で整理した歴史文化の特性（7つのヒストリー）及び前項で示した2つの「べつせかい遺産」を中心としたストーリーに基づく「別海のおたから」が一定の区域に集積しているエリアを文化財保存活用区域として設定します。

4. 文化財保存活用区域の設定

歴史文化の特性4【ロード・ヒストリー～^{いのち}生命を繋いだ水・馬・鉄・車・空の^{みち}路】と、「べつせかい遺産1」を物語る中核エリアとなっている「奥行地区」を、文化財保存活用区域として設定します。「奥行地区」には、別海町の指定等文化財19件のうち、5件が集中しており、史跡旧奥行臼駅通所をはじめ、奥行臼駅や旧別海村営軌道停留所など、現在も多くの交通遺産が当時の姿を保ったまま残されていることから、重点的に保存・活用に向けた取り組みを実施します。



図 28 文化財保存活用区域1の位置図

文化財保存活用区域 1 【奥行地区】

別海町奥行地区は、元の地名を奥行臼といい、「闘争セシ処」を意味するアイヌ語の「ウコイキウシ Ukoikiushi」を由来としています（明治 24(1891) 年『北海道蝦夷語地名解』p.226）。この奥行臼に和人が入り始めたのは、北海道国有未開地処分法が制定された明治 30(1897) 年以降のことで、入植者は主に製炭と牧畜を業としていました。後に奥行臼駅通所の取扱人となる山崎藤次郎もその一人で、馬産で成功を収めて、奥行臼の有力者となりました。

奥行臼は、当時の別海村において、海岸部から内陸部へと入植が進んでいく上での最初期の拠点であり、海岸部と内陸部を結ぶ交通の要衝でした。そして現在、この奥行地区には、駅通所、国鉄駅、簡易軌道停留所という 3 つの交通遺産が当時の姿がよくわかる形で残されており、北海道の交通の歴史を体感的に学ぶことのできるエリアになっています。

旧奥行臼駅通所は明治 43(1910) 年に開設され、駅通制度の最盛期である大正時代の景観をよく留めた史跡です。現存する駅舎は創設時と変わらない場所にあり、当時使われていた調度品や馬小屋が残っています。また、指定地内には交通の要衝であった証である各方面への旧道跡もあり、北海道開拓の具体的な歴史を物語る極めて重要な歴史遺産です。

奥行臼駅通所は昭和 5(1930) 年に廃止後も旅館及び民家として使われ続け、幾度か増改築されながらも、駅通所として使われていた部分は所有者により大切に維持・管理されてきました。そのため文化財としての価値がよく保存された状態のまま、駅舎が昭和 57(1982) 年に所有者より別海町に寄贈され、同年に別海町指定文化財に指定されました。翌年より 2 年間かけて修繕工事を実施し、昭和 60(1985) 年から一般公開を開始しました。平成 6(1994) 年には、駅舎の他、馬小屋 2 棟と倉庫 1 棟の附属施設とともに「奥行臼駅通」として北海道指定有形文化財に指定されました。

その後、資料調査や聞き取り調査、建物調査を実施して旧奥行臼駅通所の評価・価値づけを進めた結果、平成 23(2011) 年に国の史跡に指定されるに至りました。

奥行臼駅は、昭和 8(1933) 年に標津線の一部開通に伴い設置された駅で、平成元(1989) 年に廃止されるまで、住民の足として活躍しました。平成 3(1991) 年に別海町指定文化財に指定され、駅舎だけでなく、1 キロ余りの線路、ホーム、保線小屋などの関連建造物が一体として保存され、撤去されていた貨物車用線路も復元されています。とりわけ駅舎は設置以来大きな改変を受けることなくそのまま保存され、廃止された標津線で唯一残る駅舎として非常に高い価値があります。建物内部も一般公開され、全国の鉄道ファンからの評価も高く、人気スポットになっています。

旧村営軌道風蓮線奥行臼停留所は、大正 13(1924) 年に北海道で初めて開通した殖民軌道根室線の流れを汲む、昭和 38(1963) 年に開通した簡易軌道の遺構です。この簡易軌道は、上風蓮ー奥行臼停留所間約 13 キロを生乳や人を載せて運んでいましたが、車社会の到来によりわずか 7 年あまりで廃止されました。平成 9(1997) 年に町指定文化財に指定され、自走客車、機関車、無蓋貨車の 3 台の車両、待合室、停留所事務室、転車台、整備工場、機関庫が現存しています。

近年簡易軌道に注目が集まり、関連書籍の発行やイベントなども行われていますが、当時に復元できる形で残されているのは奥行臼停留所だけです。

このように奥行地区は、3つの時代の異なる交通遺産に、それぞれ本質的な価値をもつ有形文化財が含まれており、北海道の開拓の歴史を交通史の視点からトータルに学び体験できる唯一の場所です。北海道東部及び別海町の開拓史全体のストーリーの把握を容易にし、町民や来訪者が自ら歴史を体験し、学ぶことができる生涯学習の拠点とすることが可能です。さらに現在でも国道243号、244号、道道930号が交差する交通の要衝であり、近代の交通遺産が、現代の道路交通網に隣接し、アクセスが非常に容易な状態になっています。また、地域の歴史文化を語り伝えていくだけでなく、地域住民の心の拠り所、憩いの場となって地域コミュニティを支える役割も担っています。

代表的な「別海のおたから」一覧

名称	類型（種別）	指定・未指定
旧奥行臼駅通所	記念物（遺跡）	国指定
奥行臼駅通	有形文化財（建造物）	道指定
オクユキウスの大櫓	記念物（植物）	町指定
奥行臼駅	有形文化財（建造物）	町指定
旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所	有形文化財（建造物）	町指定
至浜中旧道跡	記念物（遺跡）	未指定
至西別旧道跡	記念物（遺跡）	未指定
旧馬頭観音跡	記念物（遺跡）	未指定
旧大和神社跡	記念物（遺跡）	未指定
山藤の松跡（切り株が残存）	記念物（植物）	未指定
大和小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
土塁跡	記念物（遺跡）	未指定
放牧地景観	文化的景観	未指定



（奥行臼駅通（駅舎）、奥行臼駅、旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所）



図 29 文化財保存活用区域 1 の詳細図

第6章 「別海のおたから」の保存・活用に関する目標

1. 「別海のおたから」の保存・活用に関する目標

別海町の歴史文化の特性や町民アンケート等で得られた「別海のおたから」の保存・活用に関する現状、総合計画をはじめとする関連計画等の内容を踏まえ、「別海のおたから」の保存・活用に関する目標を次のように設定します。

ふるさと
郷土に学び 人がつながり未来へつなぐ まちを創る

地域に根ざした歴史文化の継承と個性あふれる歴史文化の創造に向け、町民主体の活動を一層推進するとともに、町民がふるさと郷土の歴史や文化に愛着をもち魅力を認識し、地域の歴史文化に対する理解を深めることで、「別海のおたから」の保存・活用を進めます。

2. 総合的な方針

上述した目標達成に向けて、別海町の多種多様な「別海のおたから」を適切に保存・活用するための総合的な方針について、「学ぶ」、「つなぐ」、「創る」の3つをキーワードにして、以下のように整理します。

【学ぶ】

町民の参画を得ながら「別海のおたから」に関する継続的な調査・研究を進め、その価値を明らかにするとともに、調査成果を積極的に公開・発信します。

【つなぐ】

町民や行政、関係団体等の連携を強化し、地域ぐるみで「別海のおたから」の保存・活用を担う人材を育成することで、貴重な「別海のおたから」を確実に未来へ継承します。

【創る】

「別海のおたから」の保存・活用を推進するための拠点を整備し、町民と来訪者の交流を促しながら、文化財の活用を通じた地域の魅力創造と新たな「別海のおたから」の継承体制を生み出します。

第7章 「別海のおたから」の保存・活用に関する課題・方針

これまでに整理した把握調査の状況や町民アンケート結果など、「別海のおたから」に関する現状を踏まえ、「別海のおたから」の保存・活用に関する課題と方針について「学ぶ」、「つなぐ」、「創る」の3つのキーワードに分けて整理します。

1. 「別海のおたから」の保存・活用に関する課題

(1) 【学ぶ】に関する課題

(1)－①「別海のおたから」の調査・研究が不十分

第2章の把握調査の整理で述べたように、これまで実施した調査は分野や地区に偏りがあり、特に無形文化財やアイヌ文化期の遺跡、酪農に関する建造物等の調査が不足しています。また、自然系の学芸員が配置されていないため、自然に関する調査・研究が外部頼りになっています。西別湿原ヤチカンバ群落は、令和6(2024)年2月に国の天然記念物となり、その価値が明らかとなっていますが、町内には調査が不十分な湿原が数多く残っており、大学や調査機関などと連携を図りながら調査を進める必要があります。「別海のおたから」を調査する別海町歴史文化遺産認定事業を継続し、各地区からの情報収集を進めるとともに、それらの価値を明らかにするための学術的研究等も必要です。

(1)－②調査成果等の町民への周知が不十分

別海町では郷土資料館を中心に資料展示や企画展、ふるさと学習、出前講座などを実施し、郷土学習の機会を幅広い世代へ向けて提供していますが、若者の参加率が低いため、参加募集の手法を工夫する必要があります。また、町民アンケートでは、指定等文化財や別海町歴史文化遺産について初めて知ったという回答が複数寄せられたことから、町民への「別海のおたから」の情報発信にも課題があります。

加えて、令和6(2024)年2月に国の天然記念物となった西別湿原ヤチカンバ群落について、新聞やニュース等でも取り上げられましたが、町民への周知は十分とは言えない状況です。

(2) 【つなぐ】に関する課題

(2)－①町民と行政の連携が不可欠

これまで「別海のおたから」の保存・活用に関する取り組みは、行政が主体となって進めてきましたが、文化財保護行政の多様化に伴い、文化財の専門職員だけでは対応しきれない場面も増えてきており、関連する部署との連携強化や「別海のおたから」を担う次世代の育成が必要です。町民の「別海のおたから」への理解を深め、自主的に調査研究する団体等の活動を支援するなど、町民と行政の連携・協働が不可欠です。

(2) - ②「別海のおたから」を地域ぐるみで保存・活用を図る必要がある

別海町歴史文化遺産認定事業がきっかけとなり、学術調査等が進められたことにより、近年新たに町指定文化財が2件増えましたが、町内には保存・継承すべき「別海のおたから」がまだ数多くあります。価値が明らかになったものを順次指定し、町民に広く知ってもらうことにより、地域ぐるみで保存・活用を図る必要があります。町内には88か所の埋蔵文化財包蔵地があり、道や町のホームページで情報発信をしていますが、周知に工夫の余地があります。

別海町最大の魅力である独特の景観や豊かな自然について、開発行為等で損失することがないように、良好な環境を維持する必要があります。特に西別湿原やチカンバ群落は希少性が高く、保存が急務となっていますが、個別の「保存活用計画」はまだ作成できていません。

また、近年多発する自然災害や、火災、盗難等による文化財の被害を防ぐために、文化財所有者や町の文化財担当者が参加する防火訓練等を実施し、緊急時の手順を共有することも必要です。

(3) 【創る】に関する課題

(3) - ①拠点施設が老朽化し、保存団体が高齢化している

昭和56(1981)年に開館した郷土資料館は、施設の老朽化が著しく、展示スペースや体験型の学習教材が不足しており、効果的な郷土学習が十分に実施できていません。一方で、町内では別海音頭や別海ビン踊りなどの郷土芸能に関する保存団体が活動していますが、会員の高齢化で活動を休止し解散してしまった団体もあります。郷土芸能は一度途絶えてしまうと復活させることが難しいため、映像記録や道具・衣装の記録などデジタルアーカイブを整備することも重要です。

(3) - ②地域の魅力発信が不十分

別海町には野付半島や野付湾に代表される豊かな自然があり、酪農や漁業が盛んなことから、「グリーンツーリズム」や「アドベンチャートラベル」などが人気ですが、「別海のおたから」の保存・活用につながる企画は少ないため、観光分野との連携を強化する必要があります。

また、交通遺産が数多く残っている奥行地区は、史跡公園としての整備に向けて事業を進めているところですが、旧標津線跡など他地区にまたがる交通遺産に関しては、魅力発信や活用が十分ではありません。

(3) - ③広域連携による新たな文化財継承体制の構築が必要

別海町と標津町、根室市、羅臼町が連携し、日本遺産『「鮭の聖地」の物語～根室海峡

一万年の道程〜』を活用した取り組みを進めていますが、日本遺産のストーリーに沿って4市町を周遊するツアーや合同でのシンポジウムなどは実施できていません。別海町単独ではなく、4市町と協働した取り組みが求められます。

2. 「別海のおたから」の保存・活用に関する方針

(1) 【学ぶ】に関する方針

(1) - ①「別海のおたから」の調査・研究を推進する

第2章の把握調査の整理で明らかとなった、未調査の分野や地区を優先して、「別海のおたから」を調査する別海町歴史文化遺産認定事業を推進します。特に、無形文化財やアイヌ文化期の遺跡、町内各地に点在する湿原、酪農に関する建造物等の調査研究が不足していることから、優先的に調査を進めます。町内に数多く残る湿原をはじめとする自然に関する調査研究については、外部の専門家の協力を得ながら進め、町の専門職員のスキルアップも目指します。また、「別海のおたから」の掘り起こしと並行し、それらの価値を明らかにするための学術的研究も実施します。

(1) - ②調査成果等を積極的に公開・発信する

「別海のおたから」に興味関心のある特定の層だけでなく、町民全体へ「別海のおたから」に関する情報を届け、「別海のおたから」に対する理解を深めてもらうための公開・発信に努めます。これまでのホームページや広報による情報発信だけでなく、参加募集を呼びかける手法としてSNS等の媒体を活用し、若者を巻き込んだ形で「別海のおたから」の保存・活用に取り組みます。

また、令和6(2024)年2月に国の天然記念物となった西別湿原ヤチカンバ群落に関しては、町民の認知度が低いことから、国指定記念の講演会や見学会等を実施し、保存・活用に向けた機運を醸成します。

(2) 【つなぐ】に関する方針

(2) - ①「別海のおたから」の担い手を育て、推進体制を構築する

地域の歴史文化を自主的に研究する組織等の活動を支援し、学校教育や生涯学習での郷土学習をサポートするなど、「別海のおたから」を担う次世代の育成に努めます。また、「別海のおたから」を地域で守るための体制を整備し、「別海のおたから」に関わる各種団体等との連携強化を図ります。

(2) - ②「別海のおたから」を適切に保存管理し、次世代へ継承する

未指定文化財に関しては、文化財の価値を明らかにし、必要なものは指定するなどして地域ぐるみで保存・活用を進めます。指定等文化財に関しては経年変化を把握するなどモ

ニタリングを実施し、適切なタイミングで修理・修復を行います。別海町を象徴する独特の景観や豊かな自然に関しては、庁内の関係機関と連携して開発行為等の情報を収集し、影響の有無を判断します。そして、情報発信を積極的に行うとともに、適切な管理を行い、開発事業者との事前協議が十分に行えるようにします。中でも、西別湿原ヤチカンバ群落は保存が急務となっていることから、優先的に取り組むこととし、個別の「保存活用計画」を早い段階で作成します。

また、奥行臼駅通などの建造物に関しては、火災等による被害を防ぐため定期的な防火訓練を実施するとともに、防犯カメラの設置を検討するなど、減災・防犯のための取り組みを推進します。

（３）【創る】に関する方針

（３）－①保存・活用の拠点を整備する

老朽化した郷土資料館の再整備計画を検討し、展示を充実させるなど、効果的な郷土学習が提供できるよう整備します。再整備に合わせて収蔵資料のデジタルアーカイブ化を進め、郷土芸能など無形の民俗文化財や無形文化財の映像記録を作成します。

（３）－②地域の魅力を発信するための手法と体制を整備する

「別海のおたから」を知ってもらい、別海町の歴史文化の特性や魅力を理解してもらうためのガイドツアーを酪農体験や漁業体験などと組み合わせ、観光分野と連携して企画します。

また、町内に残る旧標津線跡などの交通遺産の保存・活用に向けて、フットパスコースの整備を民間団体と協働しながら進め、イベント等を実施します。

（３）－③広域連携に基づく新たな文化財継承体制を整備する

日本遺産『「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～』を題材とした４市町（別海町、標津町、根室市、羅臼町）を周遊するツアーや合同でのシンポジウム開催を検討します。また、４市町の町民同士の交流を促し、地域ぐるみで「別海のおたから」を保存・活用するため、広域連携を強化します。

3. べつせかい遺産の保存・活用に関する課題・方針

べつせかい遺産1【でっかい町が育んだでっかいおたから】に関する課題・方針

べつせかい遺産1 【でっかい町が育んだでっかいおたから】	
課題	・町内に点在するおたからを繋ぐ周遊コンテンツが不足しています。 ・人口減少や車社会の発達により、各地の学校が統廃合された結果、それぞれの集落で営まれてきた行事や郷土芸能などが失われつつあります。
方針	・町内のおたからを巡ることができる周遊マップを作成し、見学ツアーを企画します。 ・各集落の歴史を後世へ伝えるため、当時の様子を覚えている人がいる間に、聞き取り調査や道具類の収集を進め、各集落の歴史の記録保存を推進します。

べつせかい遺産2【べつかいの海・川・大地が育んだサーモン＆ミルク】に関する課題・方針

べつせかい遺産2 【べつかいの海・川・大地が育んだサーモン＆ミルク】	
課題	・別海に住む人々の生活を支えてきた水産業について、各時代の変遷を示す施設や独特な漁法、地域特有の加工法などの記録整理が十分に実施できていません。 ・水産業に関連する「別海のおたから」を活用した体験型観光プログラムは未整備です。 ・日本の缶詰製造業のはじまりを象徴する「旧開拓使別海缶詰所」は、建物の一部が現存していますが、十分に活用できていません。 ・別海の開拓と発展の歴史を示す酪農業について、大規模化と近代化が急速に進んだ結果、昔ながらの畜舎やサイロなどが放棄され、解体の危機にさらされています。
方針	・漁の様子や水産物の加工技術など、水産業に関する映像記録を作成し、デジタルアーカイブを推進します。 ・日本遺産『鮭の聖地』の事業とも連携しながら、季節ごとの漁を見学・体験でき、地元の水産物を楽しめるプログラム開発を進めます。 ・「旧開拓使別海缶詰所」を活用し、別海の水産業の歴史や魅力を伝える拠点整備を検討します。 ・聞き取り調査等を実施して、酪農に関する古い建造物や農機具類の残存状況を把握し、写真や図面などの記録保存を推進します。

4. 文化財保存活用区域の保存・活用に関する課題・方針

【区域1】に関する課題・方針

文化財保存活用区域1 【奥行地区】	
課題	・平成30(2018)年度に修理工事を完了した旧奥行臼駅通所を除き、いずれの文化財も老朽化が著しく、根本的な修理工事が必要です。 ・「奥行地区の別海のおたから」を活用したトロッコ乗車体験、乗馬体験、フットパス等は来訪者に人気がありますが、担い手の減少や高齢化が進んでいます。 ・西春別駅前地区にある別海町鉄道記念公園には国鉄標津線の貴重な資料の他、鉄道車両も静態保存されていますが、「奥行地区の別海のおたから」との連携が図られていません。
方針	・3つの時代の異なる交通遺産に、それぞれ本質的な価値をもつ有形文化財(駅舎、馬小屋、線路、車両)が含まれており、北海道の開拓の歴史を交通史の視点からトータルに学び体験することができる、別海町奥行にしかない場所を活かすため、老朽化した文化財の修理工事を進めます。 ・「奥行地区の別海のおたから」を活用した各種アクティビティについて、民間団体と協働し、担い手の育成も含めて継続的に実施します。 ・西春別駅前にある別海町鉄道記念公園と「奥行地区の別海のおたから」との連携を図り、鉄道の歴史をテーマとした周遊観光ルートを確立します。

第8章 「別海のおたから」の保存・活用に関する措置

1. 「別海のおたから」の保存・活用に関する措置

第6章と第7章で示した「別海のおたから」の保存・活用に関する目標と方針に従い、別海町全域で実施する措置を以下のとおり設定します。

なお、べつせかい遺産や文化財保存活用区域との関わりが深い措置については重複を避けるため、本項とは別に記載します。

設定した措置を確実に推進するため、町民をはじめとする地域の方々や、文化財の所有者、民間団体、学校などの教育機関、郷土資料館や大学などの研究機関、行政が一緒になって取り組む必要があります。取組主体については以下のとおり区分します。

町民	別海町民
行政	別海町の文化財所管課、庁内関係各課など
研究機関	郷土資料館、地域の学識者、大学など
教育機関	小学校、中学校、高等学校、公民館など
民間団体	各種の保存会、協議会、NPO、民間企業など
所有者	文化財の所有者及び管理者
連携先	近隣自治体、関連団体、SNS つながりなど

措置を推進するために必要となる財源に関しては、町費のほか、国費（文化財補助金、デジタル田園都市国家構想交付金など）、道費などの補助金等を活用し、その他の民間資金やクラウドファンディングなどによる財源調達についても活用を検討します。

（1）【学ぶ】に関する措置

方針（1）－①「別海のおたから」の調査・研究を推進する

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
1	別海町歴史文化遺産認定事業 「別海のおたから」リストを更新し、未指定文化財を把握するための調査を継続して実施します。	継続	行政 研究機関 民間団体 町民		
2	郷土資料の収集・整理・保存・調査研究 所蔵資料のうち、未整理や未分類、調査研究が不十分なものに対して、資料基本台帳のデジタルデータベース化と同時進行で整理などを実施するとともに、次世代に継承しなければならない郷土資料を収集します。	継続	行政 研究機関 民間団体		

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
3	歴史や自然に関する調査研究 町の歴史・自然に関する調査研究を計画的に進め、知られざる史実を掘り起こし、教育普及活動を通して、町民に広く公表します。	継続	行政 研究機関 民間団体 連携先		
4	埋蔵文化財発掘調査 周知の遺跡内での確認調査や本調査を必要に応じて実施します。出土品の整理作業や研究を進め、報告書を作成します。	継続	行政 研究機関		
5	チャシ跡の調査 町内に残るアイヌの痕跡であるチャシ跡の実態解明に向けて、地形測量調査や発掘調査を進めます。	新規	行政 研究機関 民間団体		
6	別海町内湿原調査事業 町内に残る湿原の現状を把握し、関係各所の協力を得て調査を実施します。	新規	行政 研究機関 民間団体		

方針（１）－②調査成果等を積極的に公開・発信する

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
7	郷土資料館・附属施設加賀家文書館・豊原分館の一般公開と展示の充実 町の歴史や自然、加賀家文書等関連資料を広く展示公開し、新着資料、展示解説のリニューアル、調査研究の成果などを常設展示に反映させ、町民の学習機会の充実を図ります。	継続	行政 研究機関		
8	広報活動の充実（ホームページ・郷土資料館だより） 町の歴史や自然及び加賀家文書に関することをホームページなどを通じ、情報の提供を行い町民の学習機会の充実を図ります。	継続	行政		
9	郷土学習の支援 町内外及び学校関係、各種団体の歴史や自然に関する調査・研究の支援を行い、情報の相互提供などを行い学習機会の充実を図ります。	継続	行政 研究機関 教育機関		
10	ふるさと講座 町の歴史や自然に関する講座を開設し、ふるさと別海への愛郷心の高揚を図ります。	継続	行政 研究機関		
11	加賀家文書歴史講座 加賀家文書を中心とした近世江戸時代に関する講座を開設し、加賀家文書に対する理解を深めます。	継続	行政 研究機関		

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
12	特別展・企画展 調査研究の成果の公表及び所蔵されている資料を広く展示公開し、町の歴史や自然をより深く理解するための特別展・企画展を実施します。	継続	行政 研究機関 連携先		
13	郷土学習出前講座 学校・各種団体の要望に応じて、郷土に対する理解を深めるための講座を開設します。	継続	行政 研究機関 教育機関 連携先		
14	出前移動展 これまでに実施した特別展のパネル資料などを学校・各種団体の希望に応じて貸出し移動展を実施することにより、町の歴史や自然を身近に感じてもらいます。	継続	行政 研究機関 連携先		
15	資料の有効的活用のための貸出 郷土資料の有効的活用を図るため、可能な限り貸出を行い、郷土学習に役立てます。	継続	行政 研究機関 連携先		
16	郷土学習推進に関わる刊行物の作成 郷土学習推進のために町の歴史や自然、郷土資料に関わる調査・研究の成果を広く紹介するために刊行物を計画的に作成し、ふるさと別海への愛郷心の高揚を図ります。	継続	行政 研究機関		
17	別海町内湿原の観察会・講演会 湿原の保存団体が主催する観察会や講演会について、共催などの形で行政がサポートし、町民の理解・関心を深めます。	継続	民間団体 行政 研究機関 町民		
18	天然記念物西別湿原ヤチカンバ群落の国指定記念事業 令和6年2月に国の天然記念物となったことを記念し、ヤチカンバの希少性や保存の必要性を広く周知するための講演会等を開催します。	新規	行政 研究機関 民間団体 町民		

(2) 【つなぐ】に関する措置

方針(2)－①「別海のおたから」の担い手を育て、推進体制を構築する

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
19	郷土研究会等の育成 町内にある郷土研究会等への指導・協力を行い、郷土研究の充実・発展を目指します。	継続	行政 研究機関 民間団体		
20	郷土資料館サマー・ウィンタースクール 郷土の歴史や自然を理解する心を持たせるとともに、21世紀の別海町の未来を探究させる心を育てます(夏休み・冬休み)。	継続	行政 研究機関 教育機関 連携先		

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
9 再掲	郷土学習の支援 町内外及び学校関係、各種団体の歴史や自然に関する調査・研究の支援を行い、情報の相互提供などを行い学習機会の充実を図ります。	継続	行政 研究機関 教育機関		
13 再掲	郷土学習出前講座 学校・各種団体の要望に応じて、郷土に対する理解を深めるための講座を開設します。	継続	行政 研究機関 教育機関 連携先		
21	所蔵資料を活用した地域回想法事業 認知症を有する高齢者やその予備軍に対して、所蔵資料を活用した地域回想法への取組を支援します。	継続	行政 民間団体		
22	保存団体等との連携強化 「別海町の湿原を大切に思う会」や「西別街道を歩こう会」などの各種団体との連携を強化し、「別海のおたから」を地域で守るための体制を整備します。	継続	行政 民間団体		

方針（２）－②「別海のおたから」を適切に保存管理し、次世代へ継承する

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
23	天然記念物西別湿原ヤチカンバ群落保存整備事業 保存のための調査・モニタリングを継続して行い、抜本的な保存事業を実施するとともに、保存団体と協働して公開活用を図ります。また、個別の「保存活用計画」を作成します。	継続	行政 研究機関 民間団体 町民		
24	町指定文化財指定・公開活用事業 町民の文化財への理解を深めるため、町内における指定文化財の一般公開を実施するとともに、必要な整備を実施して活用を図ります。また、別海町歴史文化遺産のうち、町指定文化財としての価値のある物件を、町指定文化財に指定します。	継続	行政 研究機関		
25	埋蔵文化財保護事業 町内にある埋蔵文化財包蔵地の適切な管理を継続するため、「埋蔵文化財包蔵地図」等を用い開発事業者への埋蔵文化財包蔵地情報の提供に努めると共に、開発事業実施に当たっては、十分な事前協議が行われるよう調整し、その保存を図ります。	継続	行政 研究機関		

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
26	文化財保護審議会の開催 文化財の指定や文化財事業の推進に関わる重要事項について審議を行う審議会を年に数回開催します。指定等文化財に関しては経年変化を把握するなどモニタリングを実施し、審議会において修理・修復のタイミングを検討します。	継続	行政		
27	文化財防火訓練 文化財所有者や町の担当者、消防署などが参加する防火訓練や講習会を実施し、文化財の防火・防災に対する意識を向上させます。	継続	行政 民間団体 所有者		
28	文化財防犯対策の強化 指定等文化財への防犯設備の設置を検討します。	継続	行政 民間団体 所有者		

(3)【創る】に関する措置

方針(3)－①保存・活用の拠点を整備する

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
29	郷土資料館の整備 老朽化した郷土資料館・豊原分館の整備方針を策定し、計画的な整備を進めます。附属施設加賀家文書館については、計画的な改修を行います。	継続	行政 研究機関		
30	収蔵資料の整理とデジタルアーカイブ化 郷土資料館等の所蔵資料を整理し、文化財について誰でも気軽にアクセスできるデジタルアーカイブを構築します。	継続	行政 研究機関 民間団体 連携先		

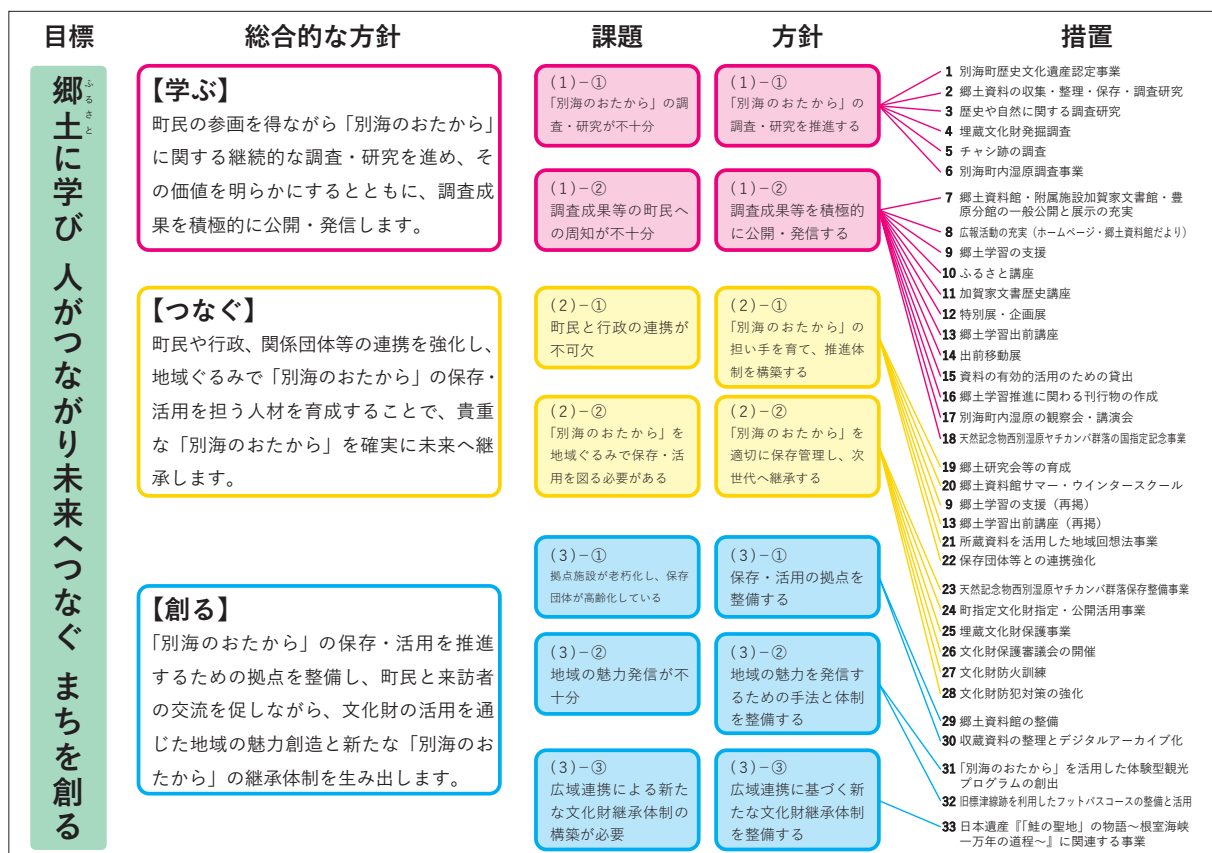
方針(3)－②地域の魅力を発信するための手法と体制を整備する

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
31	「別海のおたから」を活用した体験型観光プログラムの創出 別海町の自然や歴史、食文化、温泉、牧場などを組み合わせた体験型の観光プログラムを企画し、必要なガイドマップやパンフレットを作成します。	新規	行政 研究機関 民間団体 町民 連携先		
32	旧標津線跡を利用したフットパスコースの整備と活用 民間団体と協働してフットパスコースの整備を進め、イベント等を定期的 to 実施します。	新規	民間団体 行政 研究機関 町民 連携先		

方針（３）－③広域連携に基づく新たな文化財継承体制を整備する

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
33	日本遺産『「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～』に関連する事業 日本遺産に関わる近隣自治体（標津町、根室市、羅臼町）との連携を強化し、各地の構成文化財を巡るツアー企画等を検討します。	継続	行政 研究機関 民間団体 連携先		

2. 課題・方針・措置の対応関係



3. べつせかい遺産の保存・活用に関する措置

べつせかい遺産1【でっかい町が育んだでっかいおたから】に関する措置

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
A1	町内のでっかいおたからを巡る周遊コンテンツの創出 町内にある様々な分野のでっかいおたからについて情報発信を強化し、周遊マップや見学ツアーなどを企画します。	新規	行政 研究機関 民間団体 町民		
A2	各集落の歴史・文化の調査 開拓当時の様子を知る古老への聞き取り調査を実施し、昔の道具類の収集を進めるなど、記録保存を行います。	継続	行政 研究機関 民間団体		

べつせかい遺産2【べつかいの海・川・大地が育んだサーモン＆ミルク】に関する措置

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
B1	水産関連の施設・漁法・加工法等の調査とデジタルアーカイブ化 町内に残る水産・漁業関連の施設等の情報を収集し、伝統的な漁法や加工法の映像記録を作成するなどしてデジタルアーカイブを構築します。	継続	行政 研究機関 民間団体 所有者		
B2	水産関連の「別海のおたから」を活用した体験型観光プログラムの創出 日本遺産『鮭の聖地』の事業と連携し、漁の体験ツアーなどを企画します。	新規	行政 研究機関 民間団体 町民 連携先		
B3	水産関連文化財の保存・活用 日本遺産の構成文化財の一つである「旧開拓使別海缶詰所」を中心に保存・活用について検討します。	継続	行政 連携先		
B4	酪農関連の建造物・道具類の調査 町内に残る古い畜舎やサイロなどの建造物および農機具類の現状を把握し、記録保存を行います。	継続	行政 研究機関 民間団体		

4. 文化財保存活用区域の保存・活用に関する措置

【区域1】に関する措置

No.	措置の内容	新規 継続	取組主体	前期 R6-10	後期 R11-15
C1	「奥行地区の別海のおたから」の修理 老朽化が進んでいる文化財（駅舎、馬小屋、線路、車両）の修理工事を計画的に実施します。	新規	行政		
C2	「奥行地区の別海のおたから」を活用した各種アクティビティの実施 魅力的なアクティビティとしてトロッコ乗車体験、乗馬体験、フットパスなどを民間団体と協働して実施します。	継続	民間団体 行政		
C3	鉄道記念公園との連携強化 西春別駅前にある鉄道記念公園との連携を図り、東の「奥行地区の別海のおたから」と西の鉄道記念公園を拠点にした鉄の路を巡る周遊ルートの確立を目指します。	新規	行政		

第9章 「別海のおたから」の保存・活用の推進体制

1. 計画の推進体制

別海町では、教育委員会の郷土資料館（文化財担当）が中心となり、下記に示す体制によって町内の「別海のおたから」に関する保存・活用を実施しています。町の関係課や教育機関との連携を図り、文化財保護審議会や民間団体、近隣自治体や北海道とも連携・協力しながら「別海のおたから」の保存・活用を推進する体制を構築します。

行政（別海町の文化財所管課、庁内関係各課など）
文化財所管課 ・別海町教育委員会 郷土資料館（文化財担当）〔正職員2名（専門職員）、会計年度任用職員2名〕
関係各課 ・総務部総合政策課 ・総務部防災・基地対策課 ・産業振興部農政課 ・産業振興部商工観光課 ・産業振興部水産みどり課 ・別海町教育委員会 学校教育課 ・別海町教育委員会 生涯学習課
別海町文化財保護審議会 ・別海町文化財保護条例第4条に基づき設置されている審議会です。 ・文化財の保護保存及び活用並びに指定・解除に関すること、文化財の各種事務運営の促進助成に関することについて、調査、審議し、意見を答申します。 ・令和5(2023)年現在、7名で構成されています。
研究機関（郷土資料館、地域の学識者、大学など）
・別海町郷土資料館・加賀家文書館・豊原分館〔正職員2名、会計年度任用職員3名〕 ・別海町郷土研究会 ・NPO 法人歴史的地域資産研究機構 ・釧路市立博物館 ・北海道教育大学釧路校 ・国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学 ・鈴木三男東北大学名誉教授

教育機関（小学校、中学校、高等学校、公民館など）
・ 小学校（８校）、中学校（８校）、高等学校（１校） ・ 生涯学習センターみなくる（中央公民館）、西公民館、東公民館 ・ 別海町図書館
民間団体（各種の保存会、協議会、NPO、民間企業など）
・ 別海町観光協会 ・ 別海町文化連盟（101 団体） ・ 別海町の湿原を大切に思う会 ・ NPO 法人野付・エコ・ネットワーク ・ 西別街道を歩こう会 ・ 別海町グリーンツーリズムネットワーク ・ 別海村開村八十八周年記念別海音頭保存会
所有者（文化財の所有者及び管理者）
・ 指定等文化財の所有者及び管理者 ・ 別海町歴史文化遺産の所有者及び管理者
連携先（近隣自治体、関連団体、SNS つながりなど）
・ 北海道文化財保護協会 ・ 鮭の聖地メナシネットワーク（標津町、根室市、羅臼町） ・ 一般社団法人 ひがし北海道自然美への道 DMO ・ 北海道教育委員会 生涯学習推進局文化財・博物館課 ・ 北海道立総合博物館 ・ 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター ・ 北海道文化遺産活用活性化実行委員会（北海道ヘリテージマネージャー） ・ 知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイルート運営代表者会議

参考資料

【別海のおたからリスト】

(1) 指定等文化財

No.	指定区分	類型	種別	指定年月日	名称	所在地
1	国指定	記念物	遺跡	H23.9.21	旧奥行臼駅通所	奥行15番地12他
2		記念物	植物	R6.2.21	西別湿原ヤチカンバ群落	別海71番地3・6・25・26 中西別170番地11
3	道指定	有形文化財	建造物	H6.6.3	奥行臼駅通	奥行15番地12
4	町指定	記念物	植物	S56.12.11	西別開基の松	別海常盤町280番地
5		記念物	植物	S56.12.11	野付の千島桜	尾岱沼潮見町217番地1
6		記念物	植物	S56.12.11	試作場の桜	中春別278番地2
7		記念物	植物	S56.12.11	オクユキウスの大櫓	奥行15番地77
8		記念物	植物	S56.12.11	風連の檜林、開墾記念のスモモ	上風連280番地
9		有形文化財	建造物	H3.4.1	奥行臼駅	奥行16番地27～30
10		記念物	植物	H6.2.18	蠟山の松	尾岱沼潮見町32番地1
11		記念物	植物	H6.2.18	本別海一本松	本別海3番地23先
12		記念物	植物	H6.2.18	役場支所の柏	西春別駅前栄町28番地
13		有形文化財	建造物	H9.5.19	旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所	奥行15番地55
14		記念物	植物	H9.5.19	広野開拓六気の柏	中西別54番地45
15		記念物	植物	H11.4.8	上西春別小学校の柏	西春別駅前西町2番地1
16		有形文化財	美術工芸品(古文書)	H11.4.8	加賀家文書	別海宮舞町29番地
17		記念物	地質鉱物	H18.4.27	野付半島沖マンモスゾウ化石群	別海宮舞町30番地
18		有形文化財	美術工芸品(彫刻)	H24.4.26	厨子入南矢臼別馬頭観世音菩薩坐像	上風連38番地4
19		有形文化財	建造物	H25.5.24	旧柏野尋常小学校奉安殿	西春別105番地11

(2) 関連する制度（日本遺産・北海道遺産・別海町歴史文化遺産）

日本遺産

No.	認定年月日	名称	所在地	備考
1-1	R2.6.19	野付半島		北海道遺産(No.44)として選定
1-6	R2.6.19	野付通行屋跡遺跡		北方領土遺産として選定
1-7	R2.6.19	鮭とばを干す風景		
1-8	R2.6.19	山漬けの製法		
1-9	R2.6.19	鮭飯寿司の文化		
2-2	R2.6.19	根室海峡沿岸の鮭・鱒遡上河川		
3-6	R2.6.19	加賀家文書	別海宮舞町29番地	町指定 北方領土遺産として選定
3-7	R2.6.19	旧開拓使別海缶詰所	本別海1-93、同1-205	別海町歴史文化遺産 北方領土遺産として選定
4-1	R2.6.19	野付湾の打瀬網漁		北海道遺産(No.44)として選定
4-5	R2.6.19	旧奥行臼駅通所	奥行15番地12他	国指定
4-6	R2.6.19	旧別海村営軌道風蓮線奥行臼停留所	奥行15番地55	町指定
4-7	R2.6.19	標津線関連資産群 (4-7-2 奥行臼駅)	奥行16番地27～30	町指定
4-7	R3.7.16	標津線関連資産群 (4-7-4 旧国鉄標津線上春別駅跡)	本別76番地19	別海町歴史文化遺産
4-7	R4.7.29	標津線関連資産群 (4-7-5 旧別海駅～旧厚床駅間線路跡)	別海旭町67-1 ほか	
4-7	R4.7.29	標津線関連資産群 (4-7-6 旧光進駅)	泉川114番9	別海町歴史文化遺産
4-7	R4.7.29	標津線関連資産群 (4-7-7 旧平系駅)	別海11番41先	別海町歴史文化遺産
4-8	R2.6.19	根釧パイロットファーム関連文化財群		
4-9	R2.6.19	根釧台地の酪農建造物群		
4-10	R2.6.19	根釧台地の格子状防風林		北海道遺産(No.20)として選定

(※抜けている番号は、標津町・根室市・羅臼町に所在する構成文化財)

北海道遺産

No.	選定年月日	名称	備考
20	H13	根釧台地の格子状防風林	日本遺産の構成文化財(No.4-10)として認定
23	H13	アイヌ語地名	(北海道各地)
43	H16	モール温泉	(十勝、石狩平野など)
44	H16	野付半島と打瀬舟	日本遺産の構成文化財(No.1-1、4-1)として認定
51	H16	サケの文化	(北海道各地)
65	H30	北海道の簡易軌道	(鶴居村など)
66	H30	千島桜	(北海道各地)
67	H30	松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡	(北海道各地)
74	R4.10.13	下の句かるた	(北海道各地)

(※総計 74 件のうち、別海町に該当するものを抜粋)

別海町歴史文化遺産

No.	類型	認定年月日	名称	所在地
①	有形文化財	H23.3.25	南矢臼別馬頭観世音像と観音堂	上風連38番地4
②	有形文化財	H24.1.30	旧柏野尋常小学校奉安殿	西春別105番地11
③	有形文化財	H25.2.4	旧開拓使別海缶詰所	本別海1-93、同1-205
④	有形文化財	H25.4.17	旧西別神社祠	別海宮舞町23
⑤	有形文化財	H25.4.17	西別神社々誌	別海宮舞町23
⑥	有形文化財	H26.4.10	在日米軍偵察爆撃機RB29プロペラ ブレード	上春別栄町24番地
⑦	有形文化財	H28.2.26	西別稻荷神社本殿	別海160番地70
⑧	有形文化財	H28.2.26	西別稻荷神社牛皮太鼓	別海160番地70
⑨	記念物	H28.2.26	昭和小学校跡	別海169番地4
⑩	有形文化財	H29.3.8	旧別海村村営簡易軌道風蓮線上風 蓮停留所機関庫・油庫	上風連174番地7
⑪	有形文化財	H30.2.28	旧国鉄標津線床丹3の川鉄橋米軍 空襲跡	別海18番41先
⑫	記念物	H30.8.1	第一次伊能忠敬測量隊最東端測量 の地	本別海3番24
⑬	無形文化財	R1.9.4	別海音頭	
⑭	記念物	R2.11.2	旧国鉄標津線上春別駅跡	本別76番地19
⑮	無形の民俗文化財	R3.7.28	風蓮湖の氷下待ち網漁	
⑯	有形文化財	R3.11.12	旧陸軍計根別第一飛行場1号有蓋 掩体	本別34番7・8
⑰	記念物	R4.12.26	旧浜中町営軌道東円線(簡易軌道 茶内支線)上風蓮(開南)停留所	上風連251番49
⑱	記念物	R5.5.9	旧国鉄標津線平糸駅跡	別海11番41先
⑲	記念物	R5.5.9	旧国鉄標津線光進駅跡	泉川114番9

(※1) No. ①「南矢臼別馬頭観世音像」は、H24.4.26 に町の有形文化財に指定

(※2) No. ②「旧柏野尋常小学校奉安殿」は、H25.5.24 に町の有形文化財に指定

(3) - 1. 未指定文化財（別海町歴史文化遺産 候補物件 登録リスト）

登録番号	類型	種別	名称	地区名
1	記念物	遺跡	遠太駅通所渡し場跡	走古丹
2	記念物	遺跡	碓氷缶詰走古丹工場跡	走古丹
3	記念物	遺跡	小西隆一郎缶詰所跡	走古丹
4	記念物	遺跡	星野缶詰所跡	走古丹
5	記念物	遺跡	新家缶詰工場跡	走古丹
6	民俗文化財	有形民俗文化財	走古丹開基の碑	走古丹
7	民俗文化財	有形民俗文化財	陸軍上等兵福田市松外軍属六名之英霊供養塔	走古丹
8	民俗文化財	有形民俗文化財	走古丹稲荷神社	走古丹
9	記念物	遺跡	立澤商店跡	走古丹
10	記念物	遺跡	遠太簡易教育所跡	走古丹
11	記念物	遺跡	走古丹簡易教育所跡	走古丹
12	記念物	遺跡	西村富男商店跡	走古丹
13	記念物	遺跡	西村正一商店跡	走古丹
14	記念物	遺跡	一本木食堂跡	走古丹
15	記念物	遺跡	走古丹小学校跡	走古丹
16	記念物	遺跡	遠太北渡船場跡	走古丹
17	民俗文化財	有形民俗文化財	走古丹墓地	走古丹
18	記念物	遺跡	走古丹西別村漁業組合跡	走古丹
19	記念物	遺跡	平八さん道路跡	走古丹
20	記念物	遺跡	藤本道路跡	走古丹
21	記念物	遺跡	エカテリーナ号投錨上陸の地	本別海
22	記念物	遺跡	西別川 1 番地藤野漁場跡	本別海
23	記念物	遺跡	西別川 2 番地柳田漁場跡	本別海
24	記念物	遺跡	別海学校跡	本別海
25	記念物	遺跡	別海村外四ヵ村戸長役場跡・別海村役場跡	本別海
26	記念物	遺跡	根室警察署別海巡查派出所跡	本別海
27	記念物	遺跡	別海郵便電信局跡	本別海
28	記念物	遺跡	長生湯跡	本別海
29	記念物	遺跡	根室病院別海出張所跡	本別海
30	記念物	遺跡	今井豆腐屋跡	本別海
31	記念物	遺跡	高谷豆腐屋跡	本別海
32	記念物	遺跡	土谷商店跡	本別海
33	記念物	遺跡	川松商店跡	本別海
34	記念物	遺跡	干場商店跡	本別海
35	記念物	遺跡	深谷商店跡	本別海
36	記念物	遺跡	近藤商店跡	本別海
37	記念物	遺跡	寺井商店跡	本別海
38	記念物	遺跡	松田商店跡	本別海
39	記念物	遺跡	辻本床屋跡	本別海
40	記念物	遺跡	別海駅通所（第 1 期）跡	本別海
41	記念物	遺跡	別海駅通所（第 2 期）跡	本別海
42	記念物	遺跡	稲荷社跡	本別海
43	民俗文化財	有形民俗文化財	本別海稲荷神社	本別海
44	記念物	遺跡	管野旅館跡	本別海
45	記念物	遺跡	開拓使別海缶詰所生徒舎跡	本別海
46	記念物	遺跡	別海小学校跡	本別海
47	記念物	遺跡	渡邊旅館跡	本別海
48	記念物	遺跡	家畜屠畜場跡	本別海
49	記念物	遺跡	別海村立病院跡	本別海
50	記念物	遺跡	貸座敷泰平楼跡	本別海
51	記念物	遺跡	競馬場跡	本別海
52	記念物	遺跡	集乳所跡	本別海
53	記念物	遺跡	火力発電所跡	本別海
54	記念物	遺跡	料理屋一力跡	本別海

登録番号	類型	種類	名称	地区名
55	記念物	遺跡	大高そば屋跡	本別海
56	記念物	遺跡	須藤旅館・料理屋跡	本別海
57	民俗文化財	有形民俗文化財	法光寺	本別海
58	民俗文化財	有形民俗文化財	別海村発祥之地の碑	本別海
59	記念物	遺跡	床丹簡易教育所跡	床丹
60	記念物	遺跡	床丹小学校跡	床丹
61	記念物	遺跡	床丹中学校跡	床丹
62	民俗文化財	有形民俗文化財	開基百年の碑	床丹
63	民俗文化財	有形民俗文化財	床丹金刀比羅神社	床丹
64	民俗文化財	有形民俗文化財	稲荷神社	床丹
65	記念物	遺跡	新家缶詰工場跡	床丹
66	記念物	遺跡	床丹駐在所跡	床丹
67	記念物	遺跡	山岸商店跡	床丹
68	記念物	遺跡	疋田商店跡	床丹
69	記念物	遺跡	木村商店跡	床丹
70	記念物	遺跡	床丹川の渡し跡	床丹
71	記念物	遺跡	殖民軌道西別線中西別倉庫兼中西別駅跡	中西別
72	有形文化財	建造物	旧殖民軌道西別線中西別保線工夫住宅	中西別
73	記念物	遺跡	中西別駅通跡	中西別
74	民俗文化財	有形民俗文化財	中西別青年団・同女子青年団旗	中西別
75	民俗文化財	有形民俗文化財	根釧殖民地農業経営改善共励会優勝旗	中西別
76	記念物	遺跡	明治乳業中西別集乳所跡	中西別
77	記念物	遺跡	雪印乳業中西別工場跡	中西別
78	記念物	遺跡	栄進集乳所跡	中西別
79	記念物	遺跡	中西別移住者世話所跡	中西別
80	記念物	遺跡	旧陸軍計根別第三飛行場跡	中西別
81	民俗文化財	有形民俗文化財	中西別神社	中西別
82	記念物	遺跡	鮭鱒捕獲場跡	中西別
83	民俗文化財	有形民俗文化財	中西別開拓の碑	中西別
84	民俗文化財	有形民俗文化財	中西別馬頭観世音	中西別
85	民俗文化財	有形民俗文化財	高岡開拓の碑	中西別
86	民俗文化財	有形民俗文化財	高岡畜霊碑	中西別
87	民俗文化財	有形民俗文化財	北勝畜魂碑	中西別
88	民俗文化財	有形民俗文化財	大樹山開道寺	中西別
89	記念物	遺跡	広野小学校跡	中西別
90	記念物	遺跡	高丘小学校跡	中西別
91	民俗文化財	有形民俗文化財	恩根内小中学校設立跡之碑	上春別
92	記念物	遺跡	然内小学校跡	中西別
93	記念物	遺跡	然内開拓居小屋跡	中西別
94	有形文化財	美術工芸品	故小澤彦三撮影ガラス乾板ネガ	中西別
95	記念物	遺跡	別海村営軌道風連線上風連停留所転車台跡	上風連
96	記念物	遺跡	簡易軌道開南遺構鉄橋跡	上風連
97	記念物	遺跡	雪印乳業集乳所跡	上風連
98	記念物	遺跡	明治乳業集乳所跡	上風連
99	記念物	遺跡	香川集乳所跡	上風連
100	記念物	遺跡	上風連小学校跡	上風連
101	記念物	遺跡	上風連駅通所跡	上風連
102	記念物	遺跡	香川開拓居小屋跡 1	上風連
103	民俗文化財	有形民俗文化財	天照皇太宮神社	上風連
104	民俗文化財	有形民俗文化財	開禪寺	上風連
105	記念物	遺跡	浄土真宗大谷派説教所跡	上風連
106	民俗文化財	有形民俗文化財	南矢白別神社	上風連
107	記念物	遺跡	酪連上風連集乳所跡	上風連
108	民俗文化財	有形民俗文化財	開南八幡神社	上風連
109	民俗文化財	有形民俗文化財	富山馬頭観音碑	上風連
110	民俗文化財	有形民俗文化財	南矢白別開拓の碑	上風連

登録番号	類型	種類	名称	地区名
111	民俗文化財	有形民俗文化財	開南畜魂碑	上風連
112	民俗文化財	有形民俗文化財	開南開拓の碑	上風連
113	記念物	遺跡	上風連郵便局跡	上風連
114	記念物	遺跡	国有種馬所跡	上風連
115	記念物	遺跡	開南地区開拓居小屋跡	上風連
116	有形文化財	建造物	ブロック造り上部連結サイロ	上風連
117	記念物	遺跡	開南家畜診療所跡	上風連
118	記念物	遺跡	水田耕作跡	上風連
119	記念物	遺跡	殖民軌道根室線矢白別停留所跡	別海
120	記念物	遺跡	殖民軌道矢白別線跡	別海
121	記念物	遺跡	ヤウシュベツ川の船着場と土場跡	別海
122	記念物	遺跡	常盤神社跡	別海
123	記念物	遺跡	常盤部落会館跡	別海
124	記念物	遺跡	馬頭観音跡	別海
125	記念物	遺跡	別海町保養センター跡	別海
126	記念物	遺跡	別海温泉ホテル跡	別海
127	記念物	遺跡	殖民軌道根室線西別軌道待合所跡（高玉商店跡）	別海
128	記念物	遺跡	殖民軌道西別線軌道事務所跡	別海
129	記念物	遺跡	殖民軌道根室線の軌道跡	別海
130	記念物	遺跡	西別駅通所跡	別海
131	記念物	遺跡	西別北海道庁移住者世話所跡	別海
132	記念物	遺跡	拓殖医院跡	別海
133	記念物	遺跡	初代拓殖産婆開業地跡	別海
134	記念物	遺跡	西別巡査駐在所跡	別海
135	記念物	遺跡	西別郵便局跡	別海
136	記念物	遺跡	土谷旗八郎司法書士事務所跡	別海
137	記念物	遺跡	西別種馬所跡	別海
138	記念物	遺跡	日赤西別病院跡	別海
139	記念物	遺跡	北海道酪農販売組合聯合会（酪聯）西別工場跡	別海
140	記念物	遺跡	明治乳業西別集乳所跡	別海
141	記念物	遺跡	北海道農産物検査員駐在所跡	別海
142	記念物	遺跡	保証責任別海村信用購買販売利用組合（農業組合）跡	別海
143	記念物	遺跡	保証責任別海村商業組合跡	別海
144	記念物	遺跡	別海村役場跡	別海
145	記念物	遺跡	根室営林署西別駐在所跡	別海
146	記念物	遺跡	別海村有線放送協会（BRK）跡	別海
147	記念物	遺跡	西別競馬場跡	別海
148	記念物	遺跡	別海村電力期成会の発電所跡	別海
149	記念物	遺跡	別海農協味噌醬油工場跡	別海
150	記念物	遺跡	巴座跡	別海
151	記念物	遺跡	セントラル劇場跡	別海
152	民俗文化財	有形民俗文化財	佐上長官之像	別海
153	民俗文化財	有形民俗文化財	別海市街開基の碑	別海
154	民俗文化財	有形民俗文化財	忠魂碑	別海
155	民俗文化財	有形民俗文化財	別海町開基百年の碑	別海
156	民俗文化財	有形民俗文化財	鳥獣慰霊碑	別海
157	民俗文化財	有形民俗文化財	乳牛感謝之碑	別海
158	民俗文化財	有形民俗文化財	小林清吉翁顕彰碑	別海
159	民俗文化財	有形民俗文化財	家畜感謝の碑	別海
160	民俗文化財	有形民俗文化財	別海町開拓の馬	別海
161	民俗文化財	有形民俗文化財	集乳所発祥記念碑	別海
162	民俗文化財	有形民俗文化財	資源培養永久保存の碑	別海
163	民俗文化財	有形民俗文化財	石井清吉之像	別海
164	記念物	遺跡	別海中央小学校跡	別海
165	記念物	遺跡	別海中央中学校跡	別海
166	記念物	遺跡	国鉄西別駅跡	別海

登録番号	類型	種類	名称	地区名
167	記念物	遺跡	根室裁判所別海出張所跡	別海
168	記念物	遺跡	上マル運送店跡	別海
169	記念物	遺跡	日本通運西別営業所跡	別海
170	記念物	遺跡	西別駅土場跡	別海
171	記念物	遺跡	北洋銀行西別買場跡	別海
172	記念物	遺跡	根室信用金庫西別出張所跡	別海
173	記念物	遺跡	北洋物産跡	別海
174	記念物	遺跡	小林蹄鉄所跡	別海
175	記念物	遺跡	近内馬車・馬櫓製造所跡	別海
176	記念物	遺跡	小泉建具店跡	別海
177	記念物	遺跡	別海村公益質屋跡	別海
178	記念物	遺跡	元役場裏の公設グラウンド跡	別海
179	記念物	遺跡	藤商店の水室跡	別海
180	記念物	遺跡	平井金物店跡	別海
181	記念物	遺跡	新家旅館跡	別海
182	記念物	遺跡	照井旅館跡	別海
183	記念物	遺跡	志渡ドン工場跡	別海
184	記念物	遺跡	川瀬アイスクャンデー屋跡	別海
185	記念物	遺跡	五十嵐馬具店跡	別海
186	記念物	遺跡	高玉旅館跡	別海
187	民俗文化財	有形民俗文化財	西別劇場のステージ幕	別海
188	記念物	遺跡	石井風呂屋跡	別海
189	有形文化財	美術工芸品	北矢白別火の見やぐらの半鐘	別海
190	記念物	遺跡	土塁跡	別海
191	記念物	遺跡	矢白別小学校跡	別海
192	民俗文化財	有形民俗文化財	開拓の碑	別海
193	記念物	遺跡	北矢白別集乳所跡	別海
194	記念物	遺跡	北矢白別神社跡	別海
195	記念物	遺跡	矢白別家畜診療所跡	別海
196	記念物	遺跡	北矢白別人工受精所跡	別海
197	記念物	遺跡	西別川渡し場跡	別海
198	記念物	遺跡	浄土真宗西別説教所跡	別海
199	民俗文化財	有形民俗文化財	西別さけ・ます捕獲場	別海
200	記念物	遺跡	西別川アキアジ祭り会場跡	別海
201	民俗文化財	有形民俗文化財	開拓之碑	別海
202	民俗文化財	有形民俗文化財	牛魂碑	別海
203	民俗文化財	有形民俗文化財	富岡橋下の地藏さん	別海
204	民俗文化財	有形民俗文化財	長い崎の地藏さん	別海
205	有形文化財	建造物	殖民軌道上春別線付属倉庫	上春別
206	民俗文化財	有形民俗文化財	野付神社の本殿（祠）	尾岱沼
207	記念物	遺跡	碓氷春別牧場跡	中春別
208	記念物	遺跡	松橋牧場跡	中春別
209	記念物	遺跡	北海道庁立根室農事試作場跡	中春別
210	記念物	遺跡	光和会館跡	中春別
211	記念物	遺跡	戸春別からの道路	中春別
212	記念物	遺跡	平糸小学校跡	中春別
213	記念物	遺跡	殖民軌道根室線床丹駅跡	中春別
214	民俗文化財	有形民俗文化財	北平糸神社	中春別
215	民俗文化財	有形民俗文化財	美広神社	中春別
216	記念物	遺跡	美広会館跡	中春別
217	民俗文化財	有形民俗文化財	美広牛魂碑	中春別
218	民俗文化財	有形民俗文化財	美広開拓之碑	中春別
219	民俗文化財	有形民俗文化財	春別会館	中春別
220	記念物	遺跡	富岡小学校跡	中春別
221	民俗文化財	有形民俗文化財	富岡神社	中春別
222	記念物	遺跡	妙見神社跡	中春別

登録番号	類型	種類	名称	地区名
223	記念物	遺跡	富岡集乳所跡	中春別
224	記念物	遺跡	富岡文化会館跡	中春別
225	記念物	遺跡	富岡へき地保育園跡	中春別
226	民俗文化財	有形民俗文化財	牛魂碑	中春別
227	記念物	遺跡	殖民軌道根室線中春別軌道事務所跡	中春別
228	記念物	遺跡	中春別駅通所跡	中春別
229	記念物	遺跡	国鉄春別駅跡	中春別
230	有形文化財	建造物	旧国鉄標津線春別川鉄橋	中春別
231	記念物	遺跡	北海道庁中春別移住者世話所跡	中春別
232	記念物	遺跡	中春別郵便局跡	中春別
233	民俗文化財	有形民俗文化財	中春別神社	中春別
234	記念物	遺跡	西別病院中春別診療所跡	中春別
235	記念物	遺跡	パイロットファーム開拓農協事務所跡	中春別
236	記念物	遺跡	中春別公民館跡	中春別
237	記念物	遺跡	中春別集乳所跡	中春別
238	記念物	遺跡	別海消防第 4 分団跡	中春別
239	記念物	遺跡	幼駒運動場・草競馬場跡	中春別
240	記念物	遺跡	馬頭観世音菩薩跡	中春別
241	民俗文化財	有形民俗文化財	牛魂之碑	中春別
242	記念物	遺跡	菊水小学校跡	中春別
243	民俗文化財	有形民俗文化財	春別神社	中春別
244	記念物	遺跡	妙見神社跡	中春別
245	民俗文化財	有形民俗文化財	牛魂碑	中春別
246	民俗文化財	有形民俗文化財	道祖神	中春別
247	民俗文化財	有形民俗文化財	南菊水馬頭観世音菩薩	中春別
248	民俗文化財	有形民俗文化財	開拓の碑	中春別
249	民俗文化財	有形民俗文化財	菊水開基開校 45 年記念碑	中春別
250	記念物	遺跡	富野神社跡	中春別
251	記念物	遺跡	殖民軌道春別線跡	中春別
252	記念物	遺跡	澱粉工場跡	中春別
253	記念物	遺跡	福島青年会館跡	上春別
254	記念物	遺跡	福島公会堂跡	上春別
255	民俗文化財	有形民俗文化財	福島神社	上春別
256	民俗文化財	有形民俗文化財	馬頭観世音	上春別
257	民俗文化財	有形民俗文化財	福島開拓之碑	上春別
258	記念物	遺跡	共同居小屋跡	上春別
259	記念物	遺跡	日本粉化工業株式会社馬鈴薯受入場跡	上春別
260	記念物	遺跡	殖民軌道西別線福島停留所跡	上春別
261	記念物	遺跡	殖民軌道西別線跡（福島地区）	上春別
262	記念物	遺跡	ビート受け入れ場跡	上春別
263	有形文化財	美術工芸品	昭和十年編纂区台帳第四十九区	上春別
264	民俗文化財	有形民俗文化財	奥行のお地藏さん	奥行
265	記念物	遺跡	奥行白簡易教育所跡	奥行
266	記念物	遺跡	大和小学校跡	奥行
267	民俗文化財	有形民俗文化財	奥行大和神社	奥行
268	民俗文化財	有形民俗文化財	旧馬頭観世音菩薩石碑	奥行
269	民俗文化財	有形民俗文化財	新馬頭観世音菩薩石碑	奥行
270	記念物	遺跡	中島牧場跡	奥行
271	記念物	遺跡	野幌機農学校奥行白分場跡	奥行
272	記念物	遺跡	奥行白の土場跡	奥行
273	記念物	遺跡	風蓮川の土場跡	奥行
274	民俗文化財	有形民俗文化財	感謝の碑	奥行
275	民俗文化財	有形民俗文化財	畜魂碑	奥行
276	民俗文化財	有形民俗文化財	奥行墓地	奥行
277	民俗文化財	有形民俗文化財	牛魂碑	別海
278	民俗文化財	有形民俗文化財	旧 59 区会館	別海

登録番号	類型	種類	名称	地区名
279	民俗文化財	有形民俗文化財	北矢白別開拓期の神棚用神殿	別海
280	民俗文化財	有形民俗文化財	新酪農村建設記念碑	別海
281	その他	地名・伝承・その他	山口の先	走古丹
282	民俗文化財	有形民俗文化財	本別海墓地	本別海
283	有形文化財	建造物	旧陸軍計根別第一飛行場 2 号有蓋掩体	本別
284	有形文化財	建造物	旧陸軍計根別第一飛行場 3 号有蓋掩体	本別
285	有形文化財	美術工芸品	いぶきの像	別海
286	民俗文化財	有形民俗文化財	熟考敢行健康碑	別海
287	民俗文化財	有形民俗文化財	開墾（不撓不屈）碑	別海
288	記念物	遺跡	山形神社跡	中西別
289	記念物	遺跡	広野神社跡	中西別
290	記念物	遺跡	栄進神社跡	中西別
291	記念物	遺跡	高丘八幡神社跡	中西別
292	記念物	遺跡	豊平神社跡	中西別
293	記念物	遺跡	矢白別第二小学校跡	中西別
294	民俗文化財	有形民俗文化財	法光寺海難供養門柱	本別海
295	記念物	遺跡	簡易軌道開南遺構転車台跡	上風連
296	記念物	遺跡	香川小学校跡	上風連
297	記念物	遺跡	開南小学校跡	上風連
298	記念物	遺跡	南矢白別小学校跡	上風連
299	記念物	遺跡	香川開拓居小屋跡 2	上風連
300	記念物	遺跡	香川開拓居小屋跡 3	上風連
301	記念物	遺跡	東部開拓居小屋跡	上風連
302	記念物	遺跡	厚床移住者世話所跡	上風連
303	記念物	遺跡	上風連拓殖産婆住宅跡	上風連
304	記念物	遺跡	別海村農業協同組合上風連支所跡	上風連
305	記念物	遺跡	上風連拓殖診療所跡	上風連
306	記念物	遺跡	殖民軌道風蓮停留所跡	上風連
307	記念物	遺跡	旧奥行臼、上風連道路跡	上風連
308	記念物	遺跡	明治乳業香川集乳所跡	上風連
309	記念物	遺跡	殖民軌道風蓮線風蓮川木橋跡	上風連
310	民俗文化財	有形民俗文化財	八幡神社	上風連
311	民俗文化財	有形民俗文化財	馬頭観世音	上風連
312	記念物	遺跡	大畑牧場跡	別海
313	記念物	遺跡	根室警察署別海分署跡	本別海
314	記念物	遺跡	根室警察署別海巡査部長派出所跡	本別海
315	記念物	遺跡	本別海警察官駐在所跡	本別海
316	記念物	遺跡	別海尋常小学校跡	本別海
317	記念物	遺跡	春別駅通所跡	尾岱沼
318	記念物	遺跡	平春山護国寺跡	尾岱沼
319	記念物	遺跡	春別巡査駐在所跡	尾岱沼
320	記念物	遺跡	藤田鉛筆工場跡	尾岱沼
321	記念物	遺跡	大隅缶詰所跡	尾岱沼
322	記念物	遺跡	試作場―春別駅通所間旧道	尾岱沼
323	民俗文化財	有形民俗文化財	春別神社	尾岱沼
324	民俗文化財	有形民俗文化財	春別会館	尾岱沼
325	記念物	遺跡	山崎缶詰所跡	尾岱沼
326	民俗文化財	有形民俗文化財	白鳥の碑	尾岱沼
327	民俗文化財	有形民俗文化財	北方四島返還「叫びの像」	尾岱沼
328	民俗文化財	有形民俗文化財	「開基百年 春別発祥の地」の碑	尾岱沼
329	民俗文化財	有形民俗文化財	尾岱沼霊園	尾岱沼
330	民俗文化財	有形民俗文化財	共栄神社	西春別駅前
331	記念物	遺跡	殖民軌道根室線跡（平糸地区）	別海
332	民俗文化財	有形民俗文化財	大成墓地	大成
333	記念物	遺跡	春日豊治氏入植地	別海
334	有形文化財	美術工芸品	標津線をオーバークロスする殖民軌道写真	別海

登録番号	類型	種類	名称	地区名
335	民俗文化財	有形民俗文化財	平系神社	別海
336	記念物	遺跡	大国神社跡	別海
337	記念物	遺跡	4 号の火の見やぐら跡	別海
338	記念物	遺跡	丹羽牧場の馬頭観音碑跡	別海
339	記念物	遺跡	4 号会館跡	別海
340	記念物	遺跡	4 号の開拓居小屋跡	別海
341	記念物	遺跡	北西別神社跡	別海
342	記念物	遺跡	馬頭観音碑跡	別海
343	記念物	遺跡	北西別開拓居小屋跡	別海
344	記念物	遺跡	北西別会館跡	別海
345	記念物	遺跡	新興小学校跡	別海
346	記念物	遺跡	興国神社跡	別海
347	記念物	遺跡	共同居小屋兼柏野特別教授場跡	西春別
348	記念物	遺跡	殖民軌道標茶線西春別停留所跡	西春別
349	記念物	遺跡	西春別北海道庁移住者世話所跡	西春別
350	記念物	遺跡	拓殖医院跡	西春別
351	記念物	遺跡	拓殖産婆住宅跡	西春別
352	記念物	遺跡	西春別駅通所跡	西春別
353	民俗文化財	有形民俗文化財	西春別神社	西春別
354	民俗文化財	有形民俗文化財	古奉神社	西春別
355	記念物	遺跡	西春別郵便物取扱所跡	西春別
356	記念物	遺跡	巡査駐在所跡	西春別
357	民俗文化財	有形民俗文化財	曹洞宗大覚寺	西春別
358	記念物	遺跡	旧陸軍省軍馬補充部根室支部官舎跡	西春別
359	記念物	遺跡	補償責任北海道製酪販売組合連合会西春別分工場跡	西春別
360	民俗文化財	有形民俗文化財	開拓の碑	西春別
361	記念物	遺跡	拓進小学校跡	西春別
362	記念物	遺跡	新富小学校跡	西春別
363	記念物	遺跡	三股小学校跡	西春別
364	民俗文化財	有形民俗文化財	八幡神社	西春別
365	民俗文化財	有形民俗文化財	開拓の碑	西春別
366	民俗文化財	有形民俗文化財	畜魂供養塔	西春別
367	民俗文化財	有形民俗文化財	軍馬補充部之跡の碑	西春別
368	民俗文化財	有形民俗文化財	拓進神社	西春別
369	民俗文化財	有形民俗文化財	開拓の碑	西春別
370	民俗文化財	有形民俗文化財	畜魂碑	西春別
371	民俗文化財	有形民俗文化財	畜魂之碑	西春別
372	民俗文化財	有形民俗文化財	開拓の碑	西春別
373	民俗文化財	有形民俗文化財	飛躍への礎	西春別
374	民俗文化財	有形民俗文化財	有縁無縁精霊供養塔	西春別
375	民俗文化財	有形民俗文化財	飛揚記念像	西春別
376	民俗文化財	有形民俗文化財	慰霊碑	西春別
377	民俗文化財	有形民俗文化財	開校 50 周年記念碑	西春別
378	記念物	遺跡	別海町役場尾岱沼出張所跡	尾岱沼
379	民俗文化財	有形民俗文化財	大町桂月の句碑	尾岱沼
380	民俗文化財	有形民俗文化財	野付小唄歌碑	尾岱沼
381	記念物	遺跡	尾岱沼青年会館跡	尾岱沼
382	記念物	遺跡	野付児童館跡	尾岱沼
383	記念物	遺跡	尾岱沼集乳所跡	尾岱沼
384	民俗文化財	有形民俗文化財	岩間家開拓記念碑	中春別
385	記念物	遺跡	走古丹巡査駐在所跡	走古丹
386	記念物	遺跡	山形会館跡	中西別
387	記念物	遺跡	山形家畜診療所跡	中西別
388	民俗文化財	有形民俗文化財	広野青年団旗	中西別
389	記念物	遺跡	北海道製酪販売組合連合会中西別分工場跡	中西別
390	記念物	遺跡	山本商店跡	中西別

登録番号	類型	種類	名称	地区名
391	記念物	遺跡	栄進会館跡	中西別
392	記念物	遺跡	中西別国民学校防空壕跡	中西別
393	記念物	遺跡	藤澤藤造寺子屋跡	本別海
394	民俗文化財	有形民俗文化財	さけ・ます之碑	本別海
395	民俗文化財	有形民俗文化財	忠魂碑	本別海
396	民俗文化財	有形民俗文化財	家畜報恩之碑	本別海
397	記念物	遺跡	別海中学校跡	本別海
398	民俗文化財	有形民俗文化財	法光寺山門附属ブロック塀	本別海
399	記念物	遺跡	別海尋常小学校奉安殿跡	本別海
400	記念物	遺跡	青年会館跡	本別海
401	記念物	遺跡	別海種付所跡	本別海
402	民俗文化財	有形民俗文化財	安政5年の墓標	本別海
403	記念物	遺跡	柳田一号番屋跡	本別海
404	記念物	遺跡	藤野二号番屋跡	本別海
405	記念物	遺跡	清実喜三郎自宅跡	本別海
406	民俗文化財	無形民俗文化財	別海ビン踊り	本別海
407	記念物	遺跡	西別尋常小学校附属特別教授場跡	別海
408	記念物	遺跡	北鳴火の見櫓跡	別海
409	記念物	遺跡	北鳴神社跡	別海
410	記念物	遺跡	殖民軌道西別線大曲駅跡	別海
411	民俗文化財	有形民俗文化財	畜霊碑	別海
412	民俗文化財	有形民俗文化財	佐上橋	別海
413	民俗文化財	有形民俗文化財	北鳴墓地	別海
414	民俗文化財	有形民俗文化財	家畜報恩之碑	別海
415	記念物	遺跡	西別駅通所跡	別海
416	その他	地名・伝承・その他	トラタシ川	別海
417	記念物	遺跡	山根スケートリンク跡	別海
418	記念物	遺跡	朝鮮道路	別海
419	記念物	遺跡	村立別海診療所跡	本別海
420	記念物	遺跡	ツボイ	走古丹
421	その他	地名・伝承・その他	カメダの川	走古丹
422	民俗文化財	有形民俗文化財	「遠太の渡し」歌碑	走古丹
423	民俗文化財	有形民俗文化財	地藏尊	走古丹
424	記念物	遺跡	走古丹へき地保育園跡	走古丹
425	記念物	遺跡	大和水産加工工場跡	走古丹
426	その他	地名・伝承・その他	三軒屋	本別海
427	その他	地名・伝承・その他	ヤマカスムイ地区	本別海
428	民俗文化財	有形民俗文化財	「木皮織」「西別川の雪」歌碑	本別海
429	民俗文化財	有形民俗文化財	床丹墓地	床丹
430	記念物	遺跡	床丹へき地保育園跡	床丹
431	記念物	遺跡	平賀文次郎宅跡	床丹
432	その他	地名・伝承・その他	トリサンケベツ	床丹
433	記念物	遺跡	帆足商店跡	別海
434	有形文化財	美術工芸品	昭和17年別海村道路石杭	本別海
435	記念物	遺跡	腹帯旅館跡	本別海
436	記念物	遺跡	寺井政二郎商店跡	本別海
437	記念物	遺跡	高橋旅館跡	本別海
438	記念物	遺跡	間山タネ商店跡	本別海
439	記念物	遺跡	走古丹共同水産加工工場跡	走古丹
440	記念物	遺跡	小板商店跡	走古丹
441	記念物	遺跡	走古丹青年会館跡	走古丹
442	記念物	遺跡	海に沈んだ床丹旧道	床丹
443	有形文化財	美術工芸品	旧床丹小学校校門	床丹
444	記念物	遺跡	中西別郵便局跡	中西別
445	記念物	遺跡	中西別拓殖医診療所跡	中西別
446	記念物	遺跡	中西別拓殖産婆住宅跡	中西別

登録番号	類型	種類	名称	地区名
447	記念物	遺跡	越後屋旅館跡	中西別
448	記念物	遺跡	富田屋商店跡	中西別
449	有形文化財	美術工芸品	昭和五年頃の中西別市街図	中西別
450	記念物	遺跡	中西別診療所跡	中西別
451	記念物	遺跡	北海道開発局開発建設部中西別工手駐在所跡	中西別
452	記念物	遺跡	別海農業協同組合中西別支所跡	中西別
453	記念物	遺跡	別海町農業共済組合中西別家畜診療所跡	中西別
454	記念物	遺跡	根室営林署中西別担当区事務所跡	中西別
455	記念物	遺跡	農協指定中西別車輛整備工場跡	中西別
456	記念物	遺跡	中西別中学校跡	中西別
457	記念物	遺跡	中西別小中学校寄宿舎跡	中西別
458	記念物	遺跡	中西別青年会館跡	中西別
459	民俗文化財	有形民俗文化財	万霊供養塔	中西別
460	民俗文化財	有形民俗文化財	中西別墓地	中西別
461	記念物	遺跡	製粉工場跡	中西別
462	記念物	遺跡	澱粉工場跡	中西別
463	民俗文化財	有形民俗文化財	中西別広野霊園	中西別
464	記念物	遺跡	上原澱粉工場跡	中西別
465	記念物	遺跡	上風連診療所跡	上風連
466	記念物	遺跡	牛馬検診所跡	上風連
467	記念物	遺跡	瀬下澱粉工場跡	上風連
468	記念物	遺跡	瀬下製材所跡	上風連
469	記念物	遺跡	製粉場跡	上風連
470	民俗文化財	有形民俗文化財	上風連開南墓地	上風連
471	民俗文化財	有形民俗文化財	上風連南矢白別墓地	上風連
472	民俗文化財	有形民俗文化財	上風連墓地	上風連
473	民俗文化財	有形民俗文化財	上風連中央墓地	上風連
474	有形文化財	建造物	旧開南中学校	上風連
475	記念物	遺跡	香川中学校跡	上風連
476	記念物	遺跡	南矢白別中学校跡	上風連
477	記念物	遺跡	中春別小学校跡	中春別
478	記念物	遺跡	中春別拓殖診療所跡	中春別
479	民俗文化財	有形民俗文化財	浄真寺	中春別
480	記念物	遺跡	殖民軌道中春別（春別）線春別停留所跡	中春別
481	記念物	遺跡	中春別家畜診療所	中春別
482	記念物	遺跡	日本通運春別営業所跡	中春別
483	記念物	遺跡	天理教春別分教会跡	中春別
484	記念物	遺跡	営林署中春別担当区事務所跡	中春別
485	記念物	遺跡	日本甜菜製糖中春別原料支所跡	中春別
486	記念物	遺跡	中春別中学校跡	中春別
487	記念物	遺跡	中春別へき地保育園跡	中春別
488	記念物	遺跡	徳心旅館跡	中春別
489	民俗文化財	有形民俗文化財	西春別駅前神社	西春別駅前
490	記念物	遺跡	上西春別郵便局跡	西春別駅前
491	記念物	遺跡	上西春別診療所跡	西春別駅前
492	記念物	遺跡	上西春別巡査派出所跡	西春別駅前
493	記念物	遺跡	別海村役場西春別支所跡	西春別駅前
494	記念物	遺跡	西春別家畜診療所跡	西春別駅前
495	民俗文化財	有形民俗文化財	浄土真宗本願寺派 憲隆寺	西春別駅前
496	民俗文化財	有形民俗文化財	風雪五十路の碑	西春別駅前
497	民俗文化財	有形民俗文化財	西春別駅前霊園	西春別駅前
498	有形文化財	建造物	旧西春別劇場	西春別駅前
499	記念物	遺跡	軍馬補充部根室支部放牧地土塁跡	西春別駅前
500	民俗文化財	有形民俗文化財	ヤマザキ商店屠殺場跡	西春別駅前
501	記念物	遺跡	新世乳業跡	西春別駅前
502	記念物	遺跡	米軍ジェット機墜落現場	西春別駅前

登録番号	類型	種類	名称	地区名
503	記念物	遺跡	西春別高等家政学校跡	西春別駅前
504	有形文化財	建造物	旧標津線西別川鉄橋	西春別駅前
505	記念物	遺跡	馬頭観世音菩薩像・祠	西春別駅前
506	記念物	遺跡	西春別駅前若葉保育園跡	西春別駅前
507	記念物	遺跡	上西春別酪農振興会木碑跡	西春別駅前
508	記念物	遺跡	旧陸軍計根別第四飛行場跡	西春別駅前
509	記念物	遺跡	雪印乳業上西春別工場跡	西春別駅前
510	有形文化財	建造物	ホクレンクーラーステーション跡	西春別駅前
511	記念物	遺跡	国鉄西春別駅跡	西春別駅前
512	記念物	遺跡	地神社跡	大成
513	記念物	遺跡	大成神社	大成
514	記念物	遺跡	大成小学校跡	大成
515	記念物	遺跡	大成中学校跡	大成
516	民俗文化財	有形民俗文化財	神明大成神社	大成
517	記念物	遺跡	大成会館跡	大成
518	民俗文化財	有形民俗文化財	牛馬供養之碑	大成
519	有形文化財	美術工芸品	忠魂碑揮毫原本	大成
520	民俗文化財	有形民俗文化財	大麻神社	大成
521	民俗文化財	有形民俗文化財	大麻青年会館	大成
522	記念物	遺跡	大成集乳所跡	大成
523	記念物	遺跡	開進尋常小学校跡	大成
524	記念物	遺跡	上春別移住者世話所跡	大成
525	有形文化財	建造物	旧大成小学校体育館	大成
526	記念物	遺跡	黄金集乳所跡	大成
527	民俗文化財	有形民俗文化財	開進神社	大成
528	民俗文化財	有形民俗文化財	大成開基五十年之碑	大成
529	記念物	遺跡	広野組建設飯場跡	大成
530	記念物	遺跡	酪進会館跡	大成
531	民俗文化財	有形民俗文化財	別海町立大成小学校閉校記念碑	大成
532	記念物	遺跡	永田澱粉工場跡	大成
533	記念物	遺跡	上ヶ島澱粉工場	大成
534	記念物	動物、植物、地質鉱物	旧大成小学校の柏	大成
535	記念物	遺跡	開進会館跡	大成
536	民俗文化財	有形民俗文化財	大成大麻墓地	大成
537	記念物	遺跡	栄進米軍空襲跡	中西別
538	記念物	遺跡	旧陸軍計根別第三飛行場迂廻路跡	中西別
539	民俗文化財	有形民俗文化財	別海北矢白別墓地	別海
540	記念物	遺跡	陸軍省軍馬補充部川上支部風蓮放牧地跡	泉川
541	記念物	遺跡	泉川小学校跡	泉川
542	記念物	遺跡	旧国鉄標津線泉川駅跡	泉川
543	記念物	遺跡	馬頭観音跡	泉川
544	民俗文化財	有形民俗文化財	牛魂碑	泉川
545	記念物	遺跡	泉川簡易郵便局跡	泉川
546	民俗文化財	有形民俗文化財	泉川神社	泉川
547	民俗文化財	有形民俗文化財	泉川開拓五十年之碑	泉川
548	民俗文化財	有形民俗文化財	泉川墓地	泉川
549	民俗文化財	有形民俗文化財	泉川学舎之碑	泉川
550	記念物	遺跡	日本通運泉川営業所跡	泉川
551	記念物	遺跡	泉川中学校跡	泉川
552	民俗文化財	有形民俗文化財	泉川小中学校同窓会記念植樹	泉川
553	記念物	遺跡	尾岱沼郵便局跡	尾岱沼
554	記念物	遺跡	野付小学校跡	尾岱沼
555	記念物	遺跡	野付中学校跡	尾岱沼
556	記念物	遺跡	別海町立野付へき地保育園跡	尾岱沼
557	民俗文化財	有形民俗文化財	曹洞宗平春山護国寺	尾岱沼
558	民俗文化財	有形民俗文化財	真宗大谷派円融寺	尾岱沼

登録番号	類型	種類	名称	地区名
559	民俗文化財	有形民俗文化財	尾岱沼開基百年記念の塔	尾岱沼
560	民俗文化財	有形民俗文化財	魚魂碑（野付漁業組合前）	尾岱沼
561	民俗文化財	有形民俗文化財	一日みな貯金運動発祥の地碑	尾岱沼
562	民俗文化財	有形民俗文化財	戸田信竜氏胸像	尾岱沼
563	記念物	遺跡	尾岱沼拓殖診療所跡	尾岱沼
564	有形文化財	美術工芸品	青山義雄画伯の油彩画	上風連
565	記念物	遺跡	別海町立歯科診療所跡	尾岱沼
566	記念物	遺跡	中標津警察尾岱沼駐在所跡	尾岱沼
567	有形文化財	美術工芸品	茂木幹画伯の油彩画	上風連
568	記念物	遺跡	別海消防署尾岱沼分遣所跡	尾岱沼
569	記念物	遺跡	別海村公民館分館跡	尾岱沼
570	民俗文化財	有形民俗文化財	中春別墓地	中春別
571	記念物	遺跡	望湖牧場跡	奥行
572	記念物	遺跡	望湖踏切跡	奥行
573	記念物	遺跡	奥行白から別当賀への旧道跡	奥行
574	記念物	遺跡	奥行白から西別への旧道跡	奥行
575	記念物	遺跡	兼古牧場跡	別海
576	記念物	遺跡	兼万道路跡	別海
577	記念物	遺跡	兼万道路踏切跡	別海
578	記念物	遺跡	春日小学校跡	上春別
579	民俗文化財	有形民俗文化財	上春別春日墓地	上春別
580	民俗文化財	有形民俗文化財	春日神社	上春別
581	記念物	遺跡	澱粉工場跡	上春別
582	記念物	遺跡	殖民軌道西別線春日停留所跡	上春別
583	記念物	遺跡	殖民軌道西別線跡（春日地区）	上春別
584	記念物	遺跡	黄金小学校跡	上春別
585	有形文化財	美術工芸品	旧黄金小学校校門	上春別
586	民俗文化財	有形民俗文化財	黄金神社	上春別
587	民俗文化財	有形民俗文化財	黄金開拓の碑	上春別
588	民俗文化財	有形民俗文化財	畜霊之碑	上春別
589	記念物	遺跡	豊岡・黄金共同牧場跡	上春別
590	記念物	遺跡	黄金集乳所跡	上春別
591	記念物	遺跡	ふ化場跡	上春別
592	記念物	遺跡	黄金会館跡	上春別
593	記念物	遺跡	黄金墓地跡	上春別
594	記念物	遺跡	牛種付所跡	上春別
595	記念物	遺跡	馬頭観音跡	上春別
596	記念物	遺跡	家畜診療所跡	上春別
597	記念物	遺跡	でんぶん工場跡	上春別
598	記念物	遺跡	恩根内小学校跡	上春別
599	記念物	遺跡	恩根内中学校跡	上春別
600	記念物	遺跡	澱粉工場跡	上春別
601	民俗文化財	有形民俗文化財	恩根内神社	上春別
602	記念物	遺跡	恩根内部落会館跡	上春別
603	記念物	遺跡	朝日小学校跡	上春別
604	民俗文化財	有形民俗文化財	朝日神社	上春別
605	民俗文化財	有形民俗文化財	開基 70 周年之碑	上春別
606	民俗文化財	有形民俗文化財	畜霊之碑	上春別
607	民俗文化財	有形民俗文化財	上春別朝日墓地	上春別
608	有形文化財	建造物	旧朝日家畜診療所	上春別
609	記念物	遺跡	朝日地区会館跡	上春別
610	民俗文化財	有形民俗文化財	相安神社	上春別
611	民俗文化財	有形民俗文化財	38 地区会館	上春別
612	民俗文化財	有形民俗文化財	乳牛感謝之碑	上春別
613	民俗文化財	有形民俗文化財	八幡神社	上春別
614	記念物	遺跡	八幡地区会館跡	上春別

登録番号	類型	種類	名称	地区名
615	民俗文化財	有形民俗文化財	家畜供養之碑	上春別
616	民俗文化財	有形民俗文化財	牛馬頭碑跡	上春別
617	民俗文化財	有形民俗文化財	福山神社	上春別
618	記念物	遺跡	澱粉工場跡	上春別
619	記念物	遺跡	馬頭観世音跡	上春別
620	記念物	遺跡	朝日家畜診療所跡	上春別
621	記念物	遺跡	福山家畜診療所跡	上春別
622	民俗文化財	有形民俗文化財	上春別福山墓地	上春別
623	記念物	遺跡	福山会館跡	上春別
624	民俗文化財	有形民俗文化財	畜霊碑	上春別
625	記念物	遺跡	殖民軌道中春別線跡（福山地区）	上春別
626	記念物	遺跡	殖民軌道中春別線跡（朝日地区）	上春別
627	記念物	遺跡	殖民軌道中春別線共和停留所跡	上春別
628	記念物	遺跡	共和神社跡	上春別
629	記念物	遺跡	旧陸軍計根別第二飛行場跡	大成
630	民俗文化財	有形民俗文化財	上西別神社	上春別
631	記念物	遺跡	上西別会館跡	上春別
632	民俗文化財	有形民俗文化財	上春別上西別墓地	上春別
633	記念物	遺跡	広島部落跡	上春別
634	民俗文化財	有形民俗文化財	共春会館	西春別
635	記念物	遺跡	ドライブイン大草原跡	西春別
636	記念物	遺跡	佐々木自動車修理工場跡	西春別
637	記念物	遺跡	澱粉工場跡	西春別
638	記念物	遺跡	共春球場跡	西春別
639	記念物	遺跡	馬頭観世音木碑跡	西春別
640	記念物	遺跡	陸軍軍馬補充部根室支部土塁跡（共春地区）	西春別
641	記念物	遺跡	拓進部落会館跡	西春別
642	記念物	遺跡	拓殖季節保育所跡	西春別
643	民俗文化財	無形民俗文化財	わらじ祭り	西春別
644	有形文化財	建造物	殖民軌道中春別線付属倉庫	上春別
645	記念物	遺跡	拓殖診療所跡	上春別
646	記念物	遺跡	上春別巡査駐在所跡	上春別
647	記念物	遺跡	上春別駅通所跡	上春別
648	記念物	遺跡	上春別第二北海道庁移住者世話所跡	上春別
649	記念物	遺跡	上春別郵便取扱所跡	上春別
650	民俗文化財	有形民俗文化財	曹洞宗春光山長福寺	上春別
651	記念物	遺跡	上春別小学校跡	上春別
652	記念物	遺跡	根室畜産組合上春別種馬所跡	上春別
653	記念物	遺跡	根室畜産組合食糧検査所跡	上春別
654	記念物	遺跡	殖民軌道上春別線跡（上春別地区）	上春別
655	記念物	遺跡	殖民軌道中春別線跡（上春別地区）	上春別
656	記念物	遺跡	北海道製酪販売組合連合会上春別工場跡	上春別
657	記念物	遺跡	御真影奉安殿跡	上春別
658	民俗文化財	有形民俗文化財	忠魂碑	上春別
659	民俗文化財	有形民俗文化財	上春別家畜診療所跡	上春別
660	民俗文化財	信仰	上春別神社	上春別
661	記念物	遺跡	別海村役場上春別出張所跡	上春別
662	記念物	遺跡	上春別中学校跡	上春別
663	民俗文化財	有形民俗文化財	家畜供養塔跡	上春別
664	記念物	遺跡	浄行寺跡	上春別
665	記念物	遺跡	製粉工場跡	上春別
666	記念物	遺跡	明治乳業根室工場上春別集乳所跡	上春別
667	記念物	遺跡	上春別農業協同組合跡	上春別
668	記念物	遺跡	上春別開拓農業協同組合跡	上春別
669	記念物	遺跡	上春別へき地保育園跡	上春別
670	民俗文化財	有形民俗文化財	床丹第二神社	豊原

登録番号	類型	種類	名称	地区名
671	民俗文化財	有形民俗文化財	西春別風連会館	西春別
672	民俗文化財	有形民俗文化財	協和地区会館	西春別
673	記念物	遺跡	新富会館跡	西春別
674	民俗文化財	有形民俗文化財	畜魂碑	西春別
675	記念物	遺跡	軍馬補充部根室支部厚別看守舎跡	西春別
676	記念物	遺跡	泥炭採取地跡	西春別
677	記念物	遺跡	馬頭観世音木碑跡	西春別
678	民俗文化財	有形民俗文化財	柏野町内会館	西春別駅前
679	民俗文化財	有形民俗文化財	柏野神社	西春別駅前
680	民俗文化財	有形民俗文化財	家畜報恩碑	西春別駅前
681	民俗文化財	有形民俗文化財	柏野開拓之碑	西春別駅前
682	記念物	遺跡	柏野尋常小学校跡	西春別駅前
683	有形文化財	美術工芸品	旧柏野尋常小学校校門	西春別駅前
684	記念物	遺跡	殖民軌道標茶線跡（柏野地区）	西春別駅前
685	記念物	遺跡	殖民軌道標茶線柏野停留所跡	西春別駅前
686	記念物	遺跡	我妻商店跡	西春別駅前
687	記念物	遺跡	我妻澱粉工場跡	西春別駅前
688	記念物	遺跡	明治乳業柏野集乳所跡	西春別駅前
689	記念物	遺跡	佐上会館跡	西春別駅前
690	民俗文化財	有形民俗文化財	共栄会館	西春別駅前
691	記念物	遺跡	北栄小学校跡	西春別駅前
692	記念物	遺跡	北栄部落会館跡	西春別駅前
693	有形文化財	建造物	旧北栄小学校	西春別駅前
694	記念物	遺跡	旧陸軍計根別第五飛行場跡	本別
695	記念物	遺跡	旧陸軍計根別第一飛行場跡	本別
696	記念物	遺跡	ビート集積場跡	本別
697	記念物	遺跡	大成酪農業協同組合事務所跡	大成
698	記念物	遺跡	大成酪農業組合人工授精所跡	大成
699	記念物	遺跡	佐藤商店跡	大成
700	記念物	遺跡	軍用通信ケーブル敷設跡	大成
701	記念物	遺跡	大成計根別間拓殖道路跡	大成
702	記念物	遺跡	殖民軌道標茶線跡（大成地区）	大成
703	記念物	遺跡	本別小学校跡	本別
704	記念物	遺跡	本別中学校跡	本別
705	記念物	遺跡	中西別小学校跡	中西別
706	記念物	遺跡	西春別小学校跡	西春別
707	記念物	遺跡	西春別中学校跡	西春別
708	記念物	遺跡	旧陸軍軍馬補充部根室支部事務所・本厩跡	西春別
709	記念物	遺跡	殖民軌道上春別線跡	西春別
710	記念物	遺跡	旧陸軍軍馬補充部根室支部分厩跡	西春別
711	記念物	遺跡	西春別中学校跡	西春別
712	民俗文化財	有形民俗文化財	開拓の碑	西春別
713	民俗文化財	有形民俗文化財	畜魂供養塔	西春別
714	記念物	遺跡	豊栄部落会館跡	西春別
715	民俗文化財	有形民俗文化財	西春別墓地	西春別
716	民俗文化財	有形民俗文化財	開拓の碑	西春別駅前
717	記念物	遺跡	上西春別小学校跡	西春別駅前
718	記念物	遺跡	光進小学校跡	泉川
719	記念物	遺跡	豊原小学校跡	豊原
720	記念物	遺跡	美原小学校跡	美原
721	記念物	遺跡	走古丹中学校跡	走古丹
722	記念物	遺跡	大和中学校跡	奥行
723	記念物	遺跡	上風連中学校跡	上風連
724	記念物	遺跡	開南中学校跡	上風連
725	民俗文化財	有形民俗文化財	光進神社	泉川
726	記念物	遺跡	上西春別中学校跡	西春別駅前

登録番号	類型	種類	名称	地区名
727	記念物	遺跡	光進中学校跡	泉川
728	記念物	遺跡	床丹第二中学校跡	豊原
729	記念物	遺跡	床丹第一中学校跡	美原
730	有形文化財	建造物	旧豊原小学校	豊原
731	有形文化財	建造物	旧美原小学校	美原
732	有形文化財	建造物	旧光進小中学校	泉川
733	有形文化財	建造物	旧西別小学校	別海
734	記念物	遺跡	上風連中学校跡	上風連
735	民俗文化財	有形民俗文化財	美原権現神社	美原
736	民俗文化財	有形民俗文化財	本別神社	本別

(3) - 2. 未指定文化財（埋蔵文化財包蔵地）

番号	区分	名称	所在地
1	埋蔵文化財	別海遺跡	本別海 1-144
2	埋蔵文化財	別海 2 遺跡	本別海 3-31
3	埋蔵文化財	本別海 1 遺跡	本別海 9
4	埋蔵文化財	本別海チャシ跡	本別海 9
5	埋蔵文化財	厚別 3 遺跡	上風連 16,44
6	埋蔵文化財	奥行遺跡	奥行 7-4
7	埋蔵文化財	奥行 2 遺跡	奥行 32-25
8	埋蔵文化財	奥行 3 遺跡	奥行 7-1
9	埋蔵文化財	奥行 4 遺跡	奥行 6-1
10	埋蔵文化財	昭和遺跡	別海 405-96
11	埋蔵文化財	昭和 2 遺跡	別海 406-81
12	埋蔵文化財	昭和 3 遺跡	別海 405-31
13	埋蔵文化財	昭和 4 遺跡	別海 406-73
14	埋蔵文化財	上風蓮遺跡	上風連 242-1
15	埋蔵文化財	上風蓮 2 遺跡	上風連 248-4
16	埋蔵文化財	東矢白別遺跡	別海 5-1
17	埋蔵文化財	東矢白別 2 遺跡	別海 5-1
18	埋蔵文化財	東矢白別 3 遺跡	別海 2-4
19	埋蔵文化財	東矢白別 4 遺跡	別海 1-5
20	埋蔵文化財	東矢白別 5 遺跡	別海 1-5
21	埋蔵文化財	開南遺跡	上風連 155
22	埋蔵文化財	上南遺跡	上風連 123
23	埋蔵文化財	上南 2 遺跡	上風連 123
24	埋蔵文化財	上南 3 遺跡	上風連 122-3
25	埋蔵文化財	上南 4 遺跡	上風連 125-21
26	埋蔵文化財	上南 5 遺跡	上風連 121-1
27	埋蔵文化財	上南 6 遺跡	上風連 125-1
28	埋蔵文化財	豊原遺跡	豊原 32-15
29	埋蔵文化財	豊原 2 遺跡	豊原 10-7
30	埋蔵文化財	美原遺跡	美原 6-3
31	埋蔵文化財	奥行 5 遺跡	奥行 41
32	埋蔵文化財	大成 1 遺跡	大成 94 国有林
33	埋蔵文化財	上風蓮 1 チャシ跡	上風連 155
34	埋蔵文化財	上風蓮 3 遺跡	上風連 250
35	埋蔵文化財	上風蓮 4 遺跡	上風連 263
36	埋蔵文化財	上風蓮 5 遺跡	上風連 126
37	埋蔵文化財	上風蓮 6 遺跡	上風連 125-1
38	埋蔵文化財	中西別 4 遺跡	中西別 277
39	埋蔵文化財	中西別 5 遺跡	中西別 308
40	埋蔵文化財	ヤウシュベツ 1 遺跡	別海 407
41	埋蔵文化財	ヤウシュベツ 2 遺跡	別海 407
42	埋蔵文化財	ヤウシュベツ 3 遺跡	別海 406
43	埋蔵文化財	本別海 3 遺跡	本別海 9-15
44	埋蔵文化財	本別海 4 遺跡	本別海 9-15
45	埋蔵文化財	本別海 5 遺跡	本別海 9
46	埋蔵文化財	本別海 6 遺跡	本別海 9
47	埋蔵文化財	本別海 7 遺跡	本別海 7
48	埋蔵文化財	本別海 8 遺跡	本別海 7-1
49	埋蔵文化財	昭和 5 遺跡	別海 403-41
50	埋蔵文化財	西別 1 遺跡	別海 171-6
51	埋蔵文化財	本別海 9 遺跡	本別海 4
52	埋蔵文化財	中西別 1 遺跡	中西別 193-4
53	埋蔵文化財	中西別 2 遺跡	中西別 150-7

番号	区分	名称	所在地
54	埋蔵文化財	上春別 1 遺跡	上春別 320
55	埋蔵文化財	上春別 1 チャシ跡	上春別 320
56	埋蔵文化財	中西別 3 遺跡	中西別 37
57	埋蔵文化財	西春別 1 遺跡	西春別 102-10
58	埋蔵文化財	床丹 1 遺跡	床丹 2-1
59	埋蔵文化財	床丹 1 チャシ跡	床丹 1-2(道有林釧路管理区 65 林班)
60	埋蔵文化財	床丹 2 遺跡	床丹 1 道有林
61	埋蔵文化財	床丹 2 チャシ跡	床丹 1 道有林
62	埋蔵文化財	尾岱沼 1 遺跡	尾岱沼 5
63	埋蔵文化財	尾岱沼 2 遺跡	尾岱沼 4
64	埋蔵文化財	尾岱沼 3 遺跡	尾岱沼潮見町 226
65	埋蔵文化財	尾岱沼 4 遺跡	尾岱沼 3
66	埋蔵文化財	尾岱沼 5 遺跡	尾岱沼 2
67	埋蔵文化財	大成 2 遺跡	大成 100 河川敷地
68	埋蔵文化財	尾岱沼 6 遺跡	尾岱沼岬町 66-15
69	埋蔵文化財	尾岱沼岬チャシ跡	尾岱沼岬町 66-15
70	埋蔵文化財	尾岱沼 7 遺跡	尾岱沼岬町 2,66-15
71	埋蔵文化財	野付 1 遺跡	野付国有林
72	埋蔵文化財	尾岱沼 8 遺跡	尾岱沼 1
73	埋蔵文化財	中春別 1 遺跡	中春別 53
74	埋蔵文化財	中春別 2 遺跡	中春別 53
75	埋蔵文化財	上春別 2 遺跡	上春別 330
76	埋蔵文化財	西春別 2 遺跡	西春別 199-5
77	埋蔵文化財	尾岱沼 9 遺跡	尾岱沼 1-48
78	埋蔵文化財	野付 2 遺跡	国有林 101 林班い小班
79	埋蔵文化財	イドチ岬チャシ跡	国有林 101 林班い小班
80	埋蔵文化財	中西別 6 遺跡	中西別 74-5
81	埋蔵文化財	尾岱沼 10 遺跡	尾岱沼潮見町 217,219-1
82	埋蔵文化財	上風蓮 7 遺跡	上風蓮 2 9 2 - 1
83	埋蔵文化財	野付通行屋跡遺跡	野付 63-6
84	埋蔵文化財	野付番屋跡遺跡	野付 63-6
85	埋蔵文化財	中春別 3 遺跡	中春別 223-1
86	埋蔵文化財	床丹 3 遺跡	床丹 1-2(道有林釧路管理区 65 林班)
87	埋蔵文化財	本別海 10 遺跡	本別海 9-53
88	埋蔵文化財	本別海 11 遺跡	本別海 7-16

(3) - 3. 未指定文化財（別海十景）

番号	類型	種別	名称	地区名
1	記念物	名勝地	別海十景・野付半島	尾岱沼
2	記念物	名勝地	別海十景・野付湾	尾岱沼
3	記念物	名勝地	別海十景・野付半島原生花園	尾岱沼
4	記念物	名勝地	別海十景・トドワラ	野付
5	記念物	名勝地	別海十景・白鳥台	尾岱沼
6	記念物	名勝地	別海十景・風蓮湖	走古丹
7	記念物	名勝地	別海十景・茨散沼	本別海
8	記念物	名勝地	別海十景・ヤウシュベツ川河口	別海
9	記念物	名勝地	別海十景・町立小野沼公園	中春別
10	記念物	名勝地	別海十景・新酪農村展望台	別海

(4) べつせかい遺産に関連する「別海のおたから」一覧

べつせかい遺産1 【でっかい町が育んでっかいおたから】

関連する「別海のおたから」一覧		
名称	類型（種別）	指定・未指定
タンチョウ、オオワシ、オジロワシ、コクガン、カラフトルリシジミ	記念物（動物）	国指定 （地域を定めず）
野付半島沖マンモスゾウ化石群	記念物（地質鉱物）	町指定
野付の千島桜	記念物（植物）	町指定、北海道遺産
奥行白駅	有形文化財（建造物）	町指定、日本遺産
旧別海村営軌道風蓮線奥行白停留所	有形文化財（建造物）	町指定、日本遺産
野付半島	文化的景観	未指定、 日本遺産、北海道遺産
根釧台地の格子状防風林	文化的景観	未指定、 日本遺産、北海道遺産
旧国鉄標津線上春別駅跡	記念物（遺跡）	未指定、日本遺産、 別海町歴史文化遺産
旧国鉄標津線光進駅跡	記念物（遺跡）	未指定、日本遺産、 別海町歴史文化遺産
旧国鉄標津線平系駅跡	記念物（遺跡）	未指定、日本遺産、 別海町歴史文化遺産
旧別海駅～旧厚床駅間線路跡	記念物（遺跡）	未指定、日本遺産
北海道の簡易軌道	記念物（遺跡）	未指定、北海道遺産
旧陸軍計根別第一飛行場1号有蓋掩体	有形文化財（建造物）	未指定、 別海町歴史文化遺産
旧別海村村営簡易軌道風蓮線上風蓮停留所機関庫・油庫	有形文化財（建造物）	未指定、 別海町歴史文化遺産
旧浜中町営軌道東円線（簡易軌道茶内支線）上風蓮（開南）停留所	記念物（遺跡）	未指定、 別海町歴史文化遺産
旧陸軍計根別第一飛行場跡	記念物（遺跡）	未指定
旧陸軍計根別第二飛行場跡	記念物（遺跡）	未指定
旧陸軍計根別第三飛行場跡	記念物（遺跡）	未指定
旧陸軍計根別第四飛行場跡	記念物（遺跡）	未指定
旧陸軍計根別第五飛行場跡	記念物（遺跡）	未指定
旧陸軍省軍馬補充部根室支部事務所跡	記念物（遺跡）	未指定
軍馬補充部之跡の碑	民俗文化財（有形）	未指定
旧軍馬補充部牧場土塁跡	記念物（遺跡）	未指定
別海十景（野付半島、新酪農村展望台）	記念物（名勝地）	未指定
野付小唄	民俗文化財（無形）	未指定
国鉄西別駅跡	記念物（遺跡）	未指定
国鉄春別駅跡	記念物（遺跡）	未指定
旧国鉄標津線西春別駅跡	記念物（遺跡）	未指定
旧国鉄標津線泉川駅跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道西別線旧中西別倉庫	有形文化財（建造物）	未指定
殖民軌道根室線矢白別停留所跡	記念物（遺跡）	未指定

名称	類型（種別）	指定・未指定
殖民軌道上春別線旧上春別倉庫	有形文化財（建造物）	未指定
殖民軌道風蓮線風蓮停留所跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道西別線中西別倉庫兼中西別駅跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道根室線西別軌道待合所跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道西別線軌道事務所跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道根室線の軌道跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道上春別線付属倉庫	有形文化財（建造物）	未指定
殖民軌道根室線床丹駅跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道根室線中春別軌道事務所跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道春別線跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道西別線福島停留所跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道西別線跡（福島地区）	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道風蓮線風蓮川木橋跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道根室線跡（平糸地区）	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道標茶線西春別停留所跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道西別線大曲駅跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道中春別（春別）線春別停留所跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道西別線春日停留所跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道西別線跡（春日地区）	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道中春別線跡（福山地区）	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道中春別線跡（朝日地区）	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道中春別線共和停留所跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道中春別線付属倉庫	有形文化財（建造物）	未指定
殖民軌道上春別線跡（上春別地区）	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道中春別線跡（上春別地区）	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道標茶線跡（柏野地区）	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道標茶線柏野停留所跡	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道標茶線跡（大成地区）	記念物（遺跡）	未指定
殖民軌道上春別線跡	記念物（遺跡）	未指定
走古丹稲荷神社	民俗文化財（有形）	未指定
本別海稲荷神社	民俗文化財（有形）	未指定
床丹金刀比羅神社	民俗文化財（有形）	未指定
稲荷神社	民俗文化財（有形）	未指定
中西別神社	民俗文化財（有形）	未指定
天照皇太宮神社	民俗文化財（有形）	未指定
南矢臼別神社	民俗文化財（有形）	未指定
開南八幡神社	民俗文化財（有形）	未指定
野付神社の本殿（祠）	民俗文化財（有形）	未指定
北平糸神社	民俗文化財（有形）	未指定
美広神社	民俗文化財（有形）	未指定
富岡神社	民俗文化財（有形）	未指定
中春別神社	民俗文化財（有形）	未指定
春別神社	民俗文化財（有形）	未指定
福島神社	民俗文化財（有形）	未指定
奥行大和神社	民俗文化財（有形）	未指定

名称	類型（種別）	指定・未指定
八幡神社	民俗文化財（有形）	未指定
春別神社	民俗文化財（有形）	未指定
共栄神社	民俗文化財（有形）	未指定
平糸神社	民俗文化財（有形）	未指定
西春別神社	民俗文化財（有形）	未指定
古奉神社	民俗文化財（有形）	未指定
八幡神社	民俗文化財（有形）	未指定
拓進神社	民俗文化財（有形）	未指定
西春別駅前神社	民俗文化財（有形）	未指定
神明大成神社	民俗文化財（有形）	未指定
大麻神社	民俗文化財（有形）	未指定
開進神社	民俗文化財（有形）	未指定
泉川神社	民俗文化財（有形）	未指定
春日神社	民俗文化財（有形）	未指定
黄金神社	民俗文化財（有形）	未指定
恩根内神社	民俗文化財（有形）	未指定
朝日神社	民俗文化財（有形）	未指定
相安神社	民俗文化財（有形）	未指定
八幡神社	民俗文化財（有形）	未指定
福山神社	民俗文化財（有形）	未指定
上西別神社	民俗文化財（有形）	未指定
上春別神社	民俗文化財（有形）	未指定
床丹第二神社	民俗文化財（有形）	未指定
柏野神社	民俗文化財（有形）	未指定
光進神社	民俗文化財（有形）	未指定
美原権現神社	民俗文化財（有形）	未指定
本別神社	民俗文化財（有形）	未指定
常盤神社跡	記念物（遺跡）	未指定
北矢白別神社跡	記念物（遺跡）	未指定
妙見神社跡（菊水）	記念物（遺跡）	未指定
妙見神社跡（富岡）	記念物（遺跡）	未指定
富野神社跡	記念物（遺跡）	未指定
山形神社跡	記念物（遺跡）	未指定
広野神社跡	記念物（遺跡）	未指定
栄進神社跡	記念物（遺跡）	未指定
高丘八幡神社跡	記念物（遺跡）	未指定
豊平神社跡	記念物（遺跡）	未指定
大国神社跡	記念物（遺跡）	未指定
北西別神社跡	記念物（遺跡）	未指定
興国神社跡	記念物（遺跡）	未指定
北鳴神社跡	記念物（遺跡）	未指定
地神社跡	記念物（遺跡）	未指定
大成神社	記念物（遺跡）	未指定
共和神社跡	記念物（遺跡）	未指定
旧開南中学校	有形文化財（建造物）	未指定

名称	類型（種別）	指定・未指定
旧大成小学校体育館	有形文化財（建造物）	未指定
旧北栄小学校	有形文化財（建造物）	未指定
旧豊原小学校	有形文化財（建造物）	未指定
旧美原小学校	有形文化財（建造物）	未指定
旧光進小中学校	有形文化財（建造物）	未指定
旧西別小学校	有形文化財（建造物）	未指定
走古丹小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
別海学校跡	記念物（遺跡）	未指定
別海小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
床丹小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
床丹中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
広野小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
高丘小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
然内小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
上風蓮小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
別海中央小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
別海中央中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
矢白別小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
平糸小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
富岡小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
菊水小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
大和小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
野幌機農学校奥行臼分場跡	記念物（遺跡）	未指定
矢白別第二小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
香川小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
開南小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
南矢白別小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
別海尋常小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
新興小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
拓進小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
新富小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
三股小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
中西別国民学校防空壕跡	記念物（遺跡）	未指定
別海中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
別海尋常小学校奉安殿跡	記念物（遺跡）	未指定
西別尋常小学校附属特別教授場跡	記念物（遺跡）	未指定
中西別中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
中西別小中学校寄宿舎跡	記念物（遺跡）	未指定
香川中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
南矢白別中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
中春別小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
中春別中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
西春別高等家政学校跡	記念物（遺跡）	未指定
大成小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
大成中学校跡	記念物（遺跡）	未指定

名称	類型（種別）	指定・未指定
開進尋常小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
泉川小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
泉川中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
野付小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
野付中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
春日小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
黄金小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
恩根内小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
恩根内中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
朝日小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
上春別小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
上春別中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
柏野尋常小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
北栄小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
本別小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
本別中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
中西別小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
西春別小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
西春別中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
西春別中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
上西春別小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
光進小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
豊原小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
美原小学校跡	記念物（遺跡）	未指定
走古丹中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
大和中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
上風連中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
開南中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
上西春別中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
光進中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
床丹第二中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
床丹第一中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
上風蓮中学校跡	記念物（遺跡）	未指定
春別会館	民俗文化財（有形）	未指定
旧 59 区会館	民俗文化財（有形）	未指定
春別会館	民俗文化財（有形）	未指定
大麻青年会館	民俗文化財（有形）	未指定
38 地区会館	民俗文化財（有形）	未指定
共春会館	民俗文化財（有形）	未指定
西春別風連会館	民俗文化財（有形）	未指定
協和地区会館	民俗文化財（有形）	未指定
柏野町内会館	民俗文化財（有形）	未指定
共栄会館	民俗文化財（有形）	未指定
常盤部落会館跡	記念物（遺跡）	未指定
光和会館跡	記念物（遺跡）	未指定

名称	類型（種別）	指定・未指定
美広会館跡	記念物（遺跡）	未指定
富岡文化会館跡	記念物（遺跡）	未指定
福島青年会館跡	記念物（遺跡）	未指定
4号会館跡	記念物（遺跡）	未指定
北西別会館跡	記念物（遺跡）	未指定
尾岱沼青年会館跡	記念物（遺跡）	未指定
山形会館跡	記念物（遺跡）	未指定
米進会館跡	記念物（遺跡）	未指定
青年会館跡	記念物（遺跡）	未指定
走古丹青年会館跡	記念物（遺跡）	未指定
中西別青年会館跡	記念物（遺跡）	未指定
大成会館跡	記念物（遺跡）	未指定
酪進会館跡	記念物（遺跡）	未指定
開進会館跡	記念物（遺跡）	未指定
黄金会館跡	記念物（遺跡）	未指定
恩根内部落会館跡	記念物（遺跡）	未指定
朝日地区会館跡	記念物（遺跡）	未指定
八幡地区会館跡	記念物（遺跡）	未指定
福山会館跡	記念物（遺跡）	未指定
上西別会館跡	記念物（遺跡）	未指定
拓進部落会館跡	記念物（遺跡）	未指定
新富会館跡	記念物（遺跡）	未指定
佐上会館跡	記念物（遺跡）	未指定
北栄部落会館跡	記念物（遺跡）	未指定
豊栄部落会館跡	記念物（遺跡）	未指定

べつせかい遺産2 【べつかいの海・川・大地が育んだサーモン＆ミルク】

関連する「別海のおたから」一覧		
名称	類型（種別）	指定・未指定
鮭とばを干す風景	文化的景観	未指定、日本遺産
山漬けの製法	民俗文化財（無形）	未指定、日本遺産
鮭飯寿司の文化	民俗文化財（無形）	未指定、日本遺産
根室海峡沿岸の鮭・鱒遡上河川 （代表例：西別川）	文化的景観	未指定、日本遺産
旧開拓使別海缶詰所	有形文化財（建造物）	未指定、日本遺産、 別海町歴史文化遺産
野付湾の打瀬網漁	民俗文化財（無形）	未指定、 日本遺産、北海道遺産
風蓮湖の氷下待ち網漁	民俗文化財（無形）	未指定、 別海町歴史文化遺産
根釧パイロットファーム関連文化財群 （建造物、農機具群）	有形文化財（建造物）、民 俗文化財（有形）	未指定、日本遺産
根釧台地の酪農建造物群	伝統的建造物群	未指定、日本遺産
根釧台地の格子状防風林	文化的景観	未指定、 日本遺産、北海道遺産
ブロック造り上部連結サイロ	有形文化財（建造物）	未指定
北海道庁立根室農事試作場跡	記念物（遺跡）	未指定



別海町文化財保存活用地域計画

発行年月：	令和6年10月	認定年月日：	令和6年7月19日
発行：	別海町教育委員会		令和6年10月変更
住所：	〒086-0205 北海道野付郡別海町別海常盤町280番地		
電話：	0153-75-2111		
編集：	別海町郷土資料館		